

既遂ナリト感スル程マテニ至ル場合ニアラサレハ之ヲ未遂ナリトスルヲ以テ至當トナスヘキナリ

**第八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス**

(註)本條ハ前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論スルモノトスル規定ナリ

親告罪ハ本罪ノ外ニ種々アレトモ要スルニ犯罪アラハ如何ナル場合ヲモ公訴ヲ起スヘキモノトスレハ被害者ニ於テ之ヲ宥恕スルニモ拘ハラヌ又ハ法廷ニ持チ出サレテハ却テ名譽ヲ害セラル、ヲ以テ秘密ニナサンコトヲ望ム者モアルヲ以テ大ニ法ノ弊害ヲ生スルカ故ニ其ノ犯罪ノ性質ニ從ヒ被害者ノ告訴ヲ待テ公訴ヲ起スモノトシタリ本罪ノ如キハ最モ本人ニ於テ秘密ヲ望ムモノナリ是レ本條ヲ規定シテ本人ノ意見ニ任セテ告訴スレハ始メテ公訴ヲ起スモノトシタルナリ

舊法ト異ナル所ハ舊法ハ被害者又ハ親族ノ告訴ヲ待ツコト、シタレトモ改正法ハ之ヲ改メ單ニ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スト規定シ其告訴權利者ノ何人タルヤハ刑事訴訟法及ヒ民法ノ規定ニ依リテ定ムルコト、シタリ

**第八十一條 第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス**

(註)本條ハ猥褻姦淫ノ罪ニ依リ人ヲ死傷ニ致シタル場合ノ規定ナリ舊法ハ本章ノ罪ヲ犯シ

強姦以外ノ行爲ニヨリ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ毆打創傷罪ニ比シ重キニ從テ處斷シ強姦ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ特ニ刑ヲ設ケタリト雖モ改正法ニハ強姦ニ因ルト否トニ區別セス前二條ノ罪ヲ犯シ因テ之ヲ死傷ニ致シタルトキハ特ニ刑ヲ設ケテ本條ヲ規定シタリ是レ通常ノ傷害罪ニ比シ其情狀重キモノアルヲ以テナリ

**第八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス**

(註)本條ハ舊法第三百五十二條ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ現行法ハ十六歳未満ノ男女ノ淫行ノ勸誘媒合ヲ處罰スト雖モ其趣旨稍廣キニ失スルヲ以テ改正法ハ之ヲ改メテ第一ニ營利ノ目的ニ出テタルモノナルコトヲ要件トシ第二ニ淫行ノ常習ナキ婦女ノミヲ保護スルコト、シタリ是營利ノ目的ニ出テタルモノニ非サレハ之ヲ罪ト爲ス必要ナシ又男子ハ婦女ニ比シ之ヲ保護ス可キ必要ナク且婦女ト雖モ平生品行善良ニシテ淫行ノ常習ナキ者ノミヲ保護スルヲ以テ足レハナリトスルニ在リ

營利ノ目的トハ本條ノ場合ニ付テ云ハ、婦女ニ淫行ヲ勸メテ利ヲ得ルヲ云フ而シテ營利ト云ヘハ一時ト永久トヲ問ハス商人カ物ヲ賣買スルカ如ク殆ト業ノ如ク爲ス場合モアルヲ云フ淫行ノ常習ナキトキハ常ニ品行方正ニシテ未タ淫行ニ習ハサル者ヲ云フ勸誘スルトハ説キ付ケテ淫行ニ導クコトナリ

本罪ヲ成スニハ淫行ノ常習ナキ婦女ニ對シテ營利ノ目的ヲ以テスルニ在レハ其ノ常習アル者ナルトキト又營利ノ目的ニ在ラサル場合ハ罪トナラサルナリ

**第八十三條** 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

(註)本罪ハ社會秩序ノ根源タル婚姻ヨリ生スル夫婦ト云フ親族關係ヲ破ル所ノ罪ナリ本罪ヲ構成スル要件ハ法律上有效ニ成立シタル夫婦關係ノアルコトヲ要ス故ニ婚姻スルモ無効ナルモノハ法律上ノ夫婦關係ナキモノナレハ此ノ假リノ夫婦間ニ在テハ本條ニ所謂有夫ノ婦カ姦通スル場合ニアラス必ス正當ノ婚姻カ成立シタル者ノ間ニ破婚ノ所爲アリテ本罪ヲ構成スルモノトス一旦有效ニ成立シタル婚姻タル以上ハ假令ヒ法律上取消シ得ヘキモノナリト雖モ其取消ノ判決確定スルマテハ其婚姻ハ有效ナルカ故ニ本罪ヲ構成スルニ於テ欠ケル所ナシ其婚姻ノ成立スルニハ民法親族編ノ規定ニ從ヒ戶籍吏ニ届出テ戶籍吏之ヲ受理シタル時ヲ以テ成立スルモノナリ姦通トハ正當ノ婚姻成立シタル夫アル婦カ他ノ男子ト交接スルヲ云フ此ノ交接ヲ必要トスルカ故ニ假令ヒ夫婦ノ一方ト他ノ男子トノ間ニ交接ニアラサル猥褻ノ所爲アルモ本罪ヲ構成セス而シテ交接トハ男女ノ生殖器カ互ニ相ヒ接觸

スルコトヲ以テ既遂ナリトス

相姦スル者トハ一方ノ姦通シタル男子ヲ云フ若シ婦カ姦通罪ニ問ハル、トキハ其男子モ亦同シク姦通罪ニ處罰セラルヘシ即チ有夫ノ婦カ二年ノ懲役ニ處セラレタルトキハ一方ノ男子モ亦二年ノ懲役ニ處セラル、モノトナル

本條第二項ハ本罪ハ親告罪ナルコトヲ規定シタルナリ此等ノ罪ハ本夫ニ於テ宥恕シ告訴ヲ爲サ、ルコトアリ是レ本罪ノ如キハ檢事カ公訴ヲ起スヘキモノト規定スルトキハ却テ本夫ノ意ニ反シ名譽ヲ毀損スルヲ以テ告訴權利者ニ告訴ヲ爲サシムルモノス故ニ告訴ヲ爲スト否トハ本夫ノ意ニ任スヘキモノナリ

姦通ヲ縱容シタル場合トハ本夫ニ於テ其婦ニ姦通スルコトヲ許スコトヲ云フ一旦姦通ヲ許シタル者カ後ニ至リ告訴スルヲ得ルモノトセハ夫タル者其婦ト合意シテ姦通セシメ姦夫ニ對シ金錢ヲ強請スルカ如キコトアリテ風俗ヲ亂スモノナレハ此等ノ惡弊ヲ防カンカ爲メ本條ノ規定アリタル所以ナリ

**第八十四條** 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

(註)本條ハ重婚罪ヲ罰スル規定ナリ

重婚罪モ亦身分ノ關係ヲ侵害スル行爲ノ一種ニシテ本罪ヲ成スニハ左ノ條件ヲ必要トス

一 配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲シタルコト

(イ)第一ノ婚姻ノ成立スルコトヲ要ス故ニ第一ノ婚姻カ成立セサルモノナルトキハ配偶者アリト雖モ私通ニシテ第二ノ婚姻即チ重ネテ婚姻ヲ爲スモ罪トナラス  
(ロ)又第一ノ婚姻カ成立シタルモ婚姻カ解消セラル、トキ例ヘハ一方ノ死亡離婚トナリシトキハ第二ノ婚姻ヲ爲スニ妨ナシ

二 第二ノ婚姻カ成立シタルヲ要ス 重婚ハ第二ノ婚姻カ成立セサルトキハ第一ノ婚姻ニ對スル重婚ト云フコトヲ得ス故ニ第一ノ婚姻カ成立シテ第二ノ婚姻モ成立セサルハ重婚罪ヲ爲サス而シテ第一ノ婚姻ハ婚姻ノ解消即チ一方カ死亡スルカ離婚シタルトキニ效力ヲ失フモノナリ

第二ノ婚姻ノ成立シタルヲ要ス重婚ハ第二ノ婚姻カ成立セサルトキハ第一ノ婚姻ニ對スル重婚ト云フヲ得ス故ニ第一ノ婚姻カ成立シテ第二ノ婚姻モ成立セサルハ重婚トシテ本罪ヲ成サス而シテ第一ノ婚姻ハ婚姻ノ解消即チ一方カ死亡スルカ離婚シタルトキニ效力ヲ失フモノナリ

第二ノ婚姻ノ成立ハ婚姻ノ届出ニヨリテ成立ス然ルニ後日取消シ得ヘキ婚姻ナルコトアリ取消シ得ヘキモノハ取消スマテハ有效ナリ

第二十三章 賭博及富籤ニ關スル罪

(註)本章ノ規定ハ舊法ニハ單ニ博奕ヲ爲シタル者ハ云々トアレトモ解釋上疑義ヲ生スル

トアルニ因リ改正法ハ之ヲ明細ニ規定シ「偶然ノ輸贏ニ關シテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者」トシタリ又舊法ハ「現ニ博奕」ヲ爲シ云々ト規定スル爲メ發覺ノ當時現ニ博奕ヲ爲スニ非サレハ罪ト爲ラストノ解釋ヲ爲シ不便ヲ感スルヲ以テ改正法ハ現ニ「二字ヲ削リタリ又舊法ハ但書ニ於テ「飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラス」ト規定シタル爲メ遂ニハ飲食物ヲ以テ金錢ニ代用スルコト行ハル、ニ至レリ是ヲ以テ改正法ハ之ヲ改メ一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラスト規定シ飲食物ト雖モ金錢ニ代用シタル場合ノ如キハ之ヲ罰シ飲食物ニ非スト雖モ單ニ娛樂ニ供スル物ナルトキハ之ヲ罰セサルコト、爲シ其認定ハ全ク之ヲ裁判所ニ一任シタリ

賭博及ヒ富籤ノ行爲ハ人ヲシテ僥倖心ヲ增長セシメ偶然ニ利ヲ得ンコトヲ希望スルノ念止マス遊惰ニ日ヲ送り産業ヲ怠ルノ風習ヲ爲サシムルヲ防クニ在ルナリ然レトモ富籤ノ如キハ一地方ノ經濟ヲ補フコトアルヲ以テ其方法ノ良キモノハ政府ニ於テモ之ヲ許スコトアリ今ヤ臺灣ニ之ヲ行ヒツ、アルカ如シ然ルニ臺灣ニ限リ其賣買ヲ爲スコトヲ得テ内地ノ者ハ賣買等ヲ爲スコトヲ許サス是レ臺灣ノミニ許シタルモノナレハナリ

**第百八十五條** 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

(註)本條ハ博戯ト賭事トニ付テ其處罰ヲ規定シタルモノナリ  
賭博ハ何レモ偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ得ルモノナリ而シテ博戯ハ財物ヲ雙方ヨリ條件附ニ  
テ提出シ偶然ナル事實ニ依リ輸贏ヲ爭フニ在ルナリ偶然トハ之ヲ爲ス者ニ於テ豫メ結果ヲ  
知リ難キヲ云フ固ヨリ勝ツコトヲ期スルモノナレトモ唯タ希望ニ止マリテ果シテ豫期シタ  
ル如ク結果ヲ得ルコト能ハサルコトアレハナリ且ツ此ノ勝敗ハ之ヲ爲ス者ノ巧拙ニ由リテ  
決スルコトアリ

賭事ハ然ラス專ラ自己ノ信スル意思ヲ強硬ニシテ勝敗ヲ爭フモノニシテ例ヘハ角力、自轉  
車競争競馬等ノ勝敗ニ付テ其意思ヲ主張スル所二者ニ分レテ勝敗ヲ爭フヲ云フ然レトモ其  
結果ニ於テハ偶然ノ輸贏ニ關スルコトハ博戯ト同一ナリ

財物ヲ賭スルコトヲ要ス財物トハ金錢又ハ金錢ニ代ヘ得ヘキ有體物ヲ云フ而シテ其動産タ  
ルト不動産タルトヲ問ハス賭スルトハ勝チタル者ニ與ヘントノ目的ヲ以テ供給スヘキ意思  
ノ表示ヲ意味ス舊法ニハ博戯ヲ爲スニ飲食物ヲ以テスルトキハ之ヲ罰セサルコト、シタレ  
トモ飲食物ヲ金錢ニ代用シテ之ヲ爲スニ至ルノ弊ヲ生スルヲ以テ改正法ハ之ヲ廢シ本條但  
書ヲ加ヘタリ

一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ本條ノ罪ヲ爲サストシタリ娛樂ニ供スルトハ勝敗ノ  
目的カ利ヲ得ルニアラサルモノニシテ唯タ其勝敗ヲ以テ一座ノ興トスルニ在ルモノナリ  
又舊法ハ博奕ノ罪ハ現ニ行ヒタルヲ發見シタル場合ヲ罪トシタレトモ改正法ハ現ニ行ヒタ

ル場合ニ限ラスシテ現ニノ二字ヲ削除シタルヲ以テ博奕ハ現行犯ノミヲ罰スルモノニ非サ  
ルコトヲ知ルヘシ

### 第百八十六條 常習トシテ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲 役ニ處ス

賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年  
以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ賭博ヲ營業ノ如ク爲ス者ヲ罰スル規定ナリ

本條ハ左ノ二個ニ分チテ解釋スルヲ便トス

第一 常習トシテ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者

第二 賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者

第一ノ場合ノ常習トシテトハ偶々之ヲ爲ス者ニ非ス常ニ職業ノ如ク爲スヲ云フ即チ博徒ト  
稱スル者是ナリ此ノ如キ者ハ産業ヲ爲スコトナク遊惰ニ日ヲ送り粗暴野蠻ノ習俗アリテ良  
民ヲ苦メルコトアル者ナリ

賭博場ヲ開張シトハ博奕ヲ爲ス場所ヲ開キテ此所ニ於テ殆ト公然ノ如ク博奕ヲ爲サシムル  
ヲ云フ博徒ヲ結合スルトハ博徒ヲ多ク集メテ博奕ヲ爲サシムルナリ其目的ハ利ヲ圖ルニ在  
レハ若シ利ヲ圖ルニ在ラサレハ本條ノ罪トナラス而シテ利ヲ圖ルトハ賭博場ニ入場料又ハ

其他ノ必要品ノ使用料、寺錢等ノ財物ヲ取立ルヲ云フ即チ賭博ノ興行主ニシテ賭博者ヲ誘引ニ獎勵スル者ヲ云フ

**第百八十七條** 富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

(註)本條ハ富籤興行ニ關スル規定ナリ

舊法第二百六十二條ニハ「財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者云々」トアリ此規定ヲ解釋スレハ富籤ハ契約者ノ一方即チ富籤興業者カ他ノ一方即チ之ヲ購買スル者ニ對シテ一定ノ條件ノ下ニ一定ノ金額ノ支拂ノ義務ヲ負擔シ富籤購買者ハ富籤興行者ニ對シ無條件ニテ一定ノ金額ヲ以テ其ノ發賣スル物ヲ買ヒ籤當リニテ一定ノ金額ヲ得ルヲ云フ

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者トハ富籤ノ札ト稱スルモノヲ周旋シテ賣ル者ヲ云フ舊法ニ牙保トシタルヲ改メテ取次ト爲シタリ

前二項ノ規定ノ外富籤ヲ授受シタル者購買又ハ取次ヲ爲ス外單ニ富籤ノ受渡シヲ爲シタル

者ニシテ富籤興業ニ關係シタル者ト云フカ如キ意味ニシテ別ニ何等意思ノ必要ナキモノナリ

猶ホ富籤ニ關シテハ明治十五年布告第二十五號ヲ以テ富籤發賣ノ取次又ハ幫助ヲ爲シ及ヒ富籤ヲ購買シタル者ヲ處罰スルノ規定アリ就テ參照セラルヘシ

### 第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

**第百八十八條** 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリ

タル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

(註)神祠、佛堂、墓所トアルハ何レモ禮拜所ノ類ヲ云フ而シテ禮拜所トハ公衆ノ參詣スル場所ト謂フノ義ナレトモ神祠、佛堂ニ類似シタルモノヲ要スルニ非ス又宗教上ノ信仰ニ關係シタルモノト道徳心ニ係ルモノトヲ區別セス又一時ノモノ即チ臨時ニ祭典ヲ爲ス場合ト永久ノモノ即チ總テノ神宮、佛堂タルトハ問フ所ニアラス公衆ノ禮拜ニ充テラレタル場所ニ對スルヲ云フ故ニ單ニ一個人又ハ一家族ノ禮拜ニ充テタルモノハ之ヲ包含セス

本條ハ右ノ禮拜所ニ對シテ不敬ノ行爲アルニヨリ本罪ヲ爲スモノトス不敬トハ禮拜スヘキ

神佛其他ノモノ、尊嚴ヲ汚スノ行爲ヲ云フ其如何ナル行爲カ不敬トナルヤハ衆人ノ惡感情ヲ起スヘキ行爲ハ不敬ノ行爲ト云フヲ得ヘシ而シテ犯人ニ於テ其行爲カ不敬ノ結果ヲ生スルコトヲ豫期シタルコトヲ要ス

公然タルコトヲ要スルカ故ニ人ノ見サル時即チ衆人中ニ於テ爲サ、ル時ハ之ヲ罰セサルナリ本條ニ所謂ル神祠佛堂ノ其他ノ禮拜所トハ假ヘハ耶穌教會連門教會ノ如キモノヲ云フ第二項ハ說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル場合ナリ說教ヲ妨害スルトハ說教者ニ對シテ暴力ヲ加ヘ其他罵詈訕笑シ其場所ヲ騷カシ說教スルコト能ハサラシムルヲ云フ禮拜ヲ妨害スルトハ神佛ノ前ニ至リテ信仰スル場合ニ妨害ヲ加ヘテ禮拜セシメサルヲ云フ葬式ノ妨害ハ途中ノ妨害ト其家ニ於テ爲ストヲ問ハス葬式ノ器具ヲ損壞シ又ハ出棺ヲ爲サシメサルカ如キヲ云フ

### 第百八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ單ニ墳墓ヲ發掘シタル場合ニシテ其目的ノ如何ヲ問ハス而シテ發掘トハ埋葬シアリタルモノヲ掘出シテ外面ニ露出セシムルヲ云フモノニシテ外面ヨリ一見シテ人ノ知ルニ至ラシメタルヲ以テ本罪ヲ構成スルモノトス

### 第百九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニシテ發掘シタル死體、遺骨又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄スル等ノ場合ヲ規定シタルモノナリ

死體ハ死屍ト謂フニ同シク人類ノ遺骸ニシテ其ノ形狀ノ存スルモノヲ云フ故ニ單ニ死者ノ首級又ハ手足ノ如キヲ包含セス遺骨ハ遺骸ノ一部ニシテ人體ノ形狀全クナキモノナリ遺髮ハ頭髮ヲ謂フ胎兒ハ之ヲ死屍ト謂フコトヲ得ヘキヤ妊娠後既ニ四月以上ニ至リ人類ノ形ヲ具ヘタル胎兒ノ遺骸ハ本條ノ死體中ニ包含スルモノトス明治十七年十一月十八日內務省乙第四十八號第十一號第三項ニ依リテ知ルヘシ然レトモ學理上ヨリ論スルトキハ胎兒ハ未タ人類ト謂フコトヲ得スシテ出生ノ後ニ始メテ人類ト謂フコトヲ得ヘク從テ胎内ニ於テ死亡シタルモノハ死屍中ニ包含セシムルコトヲ得ストスルナリ

損壞トハ死體等ヲ傷ケルヲ云フ即チ形狀ヲ分離シ首級四肢ヲ其ノ所ヲ異ニスルコトナリ遺棄トハ道路又ハ山野ニ棄テルヲ云フ棺内ニ藏置シタル物トハ死者ノ生前ニ平生愛シタル物ナトヲ棺内ニ入レテ埋葬スルコトアリ其物件ニハ往々高價ノ物アレハ之ヲ自己ニ領得スルトキハ本罪ヲ構成スルナリ

### 第百九十一條 第百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ第八十九條ノ罪ト相待テ其罪ヲ構成スルモノナリ  
第八十九條ノ場合ハ單ニ墳墓ヲ發掘シタルモノナレトモ若シ第八十九條ノ罪ヲ犯シ墳墓ニ埋葬シタル死體、遺骨等ヲ發掘シテ之ヲ損壞シ遺棄シ又ハ領得シタル者ハ本條ノ規定ニ依リ之ヲ罰スルモノトス

**第九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス**

(註)本條ハ變死者ノ檢視ヲ經スシテ葬リタル場合ノ規定ナリ  
變死者ハ變死ノ状態ニ依リテ犯罪者ヲ出スコトアルヲ以テ檢視ヲ經ルモノトス是レ本條ノ規定アル所以ナリ

### 第二十五章 瀆職ノ罪

(註)本章ノ規定ハ公務員カ其職務上ノ義務ニ違反シ且ツ個人又ハ公衆ノ利益ヲ害スル所爲ヲ罰スル規定ナリ  
公務員タル者ハ皆國家ノ目的ヲ達スル爲メニ行動スル者ナリ其行動ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ各其職務ヲ行フ者ナリ而シテ其職務ヲ行フニハ權限アリテ其權限ノ範圍ヲ脱シテ之ヲ行フトキハ越權ト謂フ越權ハ即チ職權ノ濫用ナリ之ヲ瀆職ノ罪ト爲スナリ此罪ハ公務員ト謂フ身分アルニ依リ之ヲ構成スルモノトス

**第九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス**

(註)本條ノ罪ヲ爲スニハ左ノ要素ニ因ルモノトス

第一 公務員其職權ヲ濫用スルコト

第二 人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害スルコト

第一職權濫用トハ職權外ナルコトヲ行フヲ謂フ例ハ憲兵卒巡查カ令狀ナクシテ人ヲ逮捕シ拘引スルカ如シ或ハ囚人ヲ虐待シ拷問ヲ爲スノ類ナリ

第二人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメトハ公務員カ擅ニ威權ヲ用フル場合ニシテ例ハ租稅其他諸般ノ收入ヲ徵收スル公務員カ餘計ノ金額ヲ徵收シ其他執達吏又ハ公證人市町村役場ノ公務員カ徵收スル手數料ヲ規定外ニ徵收スルカ如シ然レトモ其職務ニ伴フ權力タルコトヲ要スルカ故ニ假令ヒ權威ヲ用フルモ自己ノ職務ト何等ノ關係ナキ場合ハ本罪ヲ構成セサルモノトス

行フ可キ權利ヲ妨害シタルトハ人民ノ權利内ニテ行フ可キコトヲ行ハシメサルヲ云フ例ハ訴訟ヲ爲スコトヲ得ヘキ權利ヲ妨害シテ訴訟ヲ爲サシメサルカ如キ選舉權アル者ニ對シテ選舉ヲ行ハシメサルカ如キヲ謂フナリ

**第九十四條** 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

(註)本條ハ不法ニ人ヲ逮捕監禁スヘキ犯罪ヲ規定シタルモノナリ  
人ヲ逮捕監禁スルニハ其職權ト法令ノ命スル所ニ從ヒテ之ヲ爲スモノナリ即チ裁判、檢察ノ職務ヲ行フ者ハ職務ニ於テハ違法ナキモ其職權ヲ濫用シ不法ニ人ヲ逮捕監禁シタルトキハ本條ノ罪ヲ成スモノトス  
本條ノ規定ヲ分析スレハ即チ左ノ如シ

第一 犯人ハ逮捕監禁スヘキ職權アル者

第二 法律ノ規定ヲ遵守セズ不法ナルコト

第三 人ヲ逮捕シ又ハ監禁シタルコト

第四 犯人ニ於テ其不法タルコトヲ知リタルコト

裁判、檢察、警察ノ職務ヲ補助スル者トハ知事及ヒ市町村長等ヲ云フ

**第九十五條** 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

(註)本條ノ規定ハ左ノ人ト條件トヲ以テ犯罪ノ要素ト爲ス

一 裁判官、檢察官、警察官又ハ其職務ヲ補助スル者ナリ是等ノ職務ヲ行フ者カ左ノ者

ニ對シテ爲シタル行爲ニ因リ犯罪ヲ構成スルモノトス

二 刑事被告人、囚人、監置人、留置人又ハ懲治人ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲アリタルコト

三 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ

第一ノ職務ヲ行フ人ハ其職權ヲ以テ監獄内ニ於テ刑事被告人囚人等ヲ取扱フ職務ナリ  
刑事被告人トハ未決囚ノ者ニシテ未タ裁判確定セサル者ナリ囚人ハ既決囚ノ者ヲ云フ監督人トハ精神ニ異狀アル者ニシテ罪ヲ犯シタル者カ情狀ニ因リテ此處分ヲ命セラレタル者ナリ留置人トハ罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ留置場ニ入レテ勞役ニ服セシムルヲ云フ懲治人ハ瘡腫者ノ如キ其罪ヲ罰セサル者ヲ或ル期間監獄内ニ置クヲ云フ右等ノ者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲スニ因リテ本罪ヲ犯スモノナリ凌虐トハ非道ノ取扱ヒヲ爲スコトニシ



ヲ或ハ衣服又ハ食物ヲ與ヘス堪ヘ難キ所爲アルヲ云フナリ

法令ニ因リ拘禁セラレタル者トハ裁判官、檢察官カ法律ノ規定ニ因リ警察署又ハ監獄内ニ入レ又ハ逮捕シタル者ヲ云フ此等ノ者ヲ看守スル者又ハ護送スル者ニシテ被拘禁者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シタルトキモ前項ト同一ノ罪ニ處スヘキモノトス

**第九十六條** 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ

罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

(註)裁判官、檢察官等カ刑事被告人其他ノ囚人ニ對シテ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ普通人ヲ傷害スル罪ニ比シ其重キニ從テ處斷スルモノトス是レ職權濫用ノ爲ス所ナルヲ以テ至當ノ事ト謂フ可シ

**第九十七條** 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ

要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サ、ルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス

(註)本條ハ公務員又ハ仲裁人カ其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタル等ノ場合ニ關スル規定ナリ故ニ左ノ行爲ヲ爲スヲ要ス

- 一 公務員又ハ仲裁人ナルコト
  - 二 其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルコト
  - 三 因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サ、ルトコト
- 第一本罪ノ主體タル者ハ公務員又ハ仲裁人ナルコト而シテ公務員ハ其職務アルコトヲ要ス

第二其職務ニ關シトハ他人ヨリ公務員又ハ仲裁人ノ職務行爲ニ關シ一定ノ囑託ヲ受クルヲ云フ一定ノ囑託トハ他人カ自己ノ利益ノ爲メニ或事ヲ依頼スルモノナリ而シテ其依頼スル目的ノ行爲ハ職務ニ付テノ行爲ナルコト例ヘハ判事カ裁判事件ニ付テ囑託ヲ受クルカ如ク其職務權限内ニ在ルヲ要ス

賄賂ヲ收受ストハ依頼セラレタル事ヲ承諾シテ其行爲ヲ爲スニ因リ報酬トシテ受クル財産上ノ利益ナリ收受ハ公務員ニ於テ既ニ手ニ受取ルコトニシテ即チ既遂ノ場合ナリ又要求ス、ルトハ公務員ヨリ賄賂ヲ提出スルコトヲ求メタルナリ而シテ要求ト約束ノ場合ハ其引渡ヲ後日ニ期スルナリ此ノ要求ト約束トハ双方ノ合意ニ因テ既遂トナル

第三ハ公務員カ賄賂ヲ收受シ又ハ要求約束シタルニヨリ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ爲スヘキ相當ノ行爲ヲ爲サ、ルモノナリ例ヘハ裁判官カ被告人ノ有罪タルヲ無罪ノ判決ヲ與ヘタルカ

如シ又相當ノ行爲ヲ爲サストハ裁判官檢察官故ナク刑事ノ訴ヲ受理セサルカ如シ是皆賄賂ノ爲メニ依頼者ノ便益ヲ謀リタルモノナリ而シテ賄賂收受罪ハ此等ノ不正ノ行爲ヲ爲スト爲サ、ルトヲ問ハス之ヲ爲シタルトキハ其罪ヲ加重スルノミ

公務員カ收受シタル賄賂ハ發覺シタルトキハ其全部又ハ一部ヲ沒收スルモノトス然ルニ之ヲ沒收スルコト能ハサルニ至リタルトキ例ヘハ金錢ヲ收受シタル場合ニ此金ヲ以テ衣服ヲ買ヒ物品ヲ收受シタルトキ之ヲ他人ニ贈與シテ犯人ノ手ニ在ラサル場合ノ如キハ其價額ニ相當スル代價ヲ取立ルモノトス是レ其ノ犯人ヲシテ不當ノ利得ヲ爲サシメスト云フニ在ルナリ

### 第百九十八條

公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

(註)本條ハ舊法ニナキ規定ナリシヲ新法ニ於テ新ニ設ケタルモノナリ

賄賂ハ之ヲ贈ル者ナケレハ亦之ヲ收受セント欲スル者モ收受スルコト能ハサルモノナリ故ニ之ヲ提出スル者ヲモ罰セサレハ此犯罪ヲ防クコト能ハサルハ當然ナリ而シテ舊法ニハ賄賂ヲ贈リ又ハ提供シ約束シタル者ヲ罰スル規定ナカリシ爲メ公務員等ノ收賄罪ヲ防クニ困

難ナルヲ以テ改正法ハ本條ニ於テ此等ノ者ヲ處罰スル規定ヲ設ケ以テ收賄罪ヲ豫防セントノ趣旨ナリ

第二項ハ自首又ハ自白シタル者ハ減輕若クハ免除ノ特典ヲ與ヘ以テ賄賂收受ノ弊ヲ減殺セシコトヲ期シタルモノナリ

交付トハ本人又ハ本人ノ代理スヘキ者ニ手渡シスルヲ云フ提供トハ賄賂ヲ贈ル者ヨリ收受者ニ差出シタル場合ニシテ未タ受取ラサルトキヲ云フ故ニ提供ハ收受者ニ於テ之ヲ受クルコトヲ承諾スルヤ否ヤハ未定ノ場合ナリ約束ハ双方ノ意思ノ合致シタル場合ニシテ約束シタルハ双方ニ於テ之ヲ事實ニ行フヘキニ至リタルモノナリ

### 第二十六章 殺人ノ罪

第百九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

(註)殺人罪ノ客體タルヘキ人ハ胎兒ニアラス死亡者ニアラス出産後ヨリ死亡ニ至ルマテ現ニ存在シタル人ヲ指ス而シテ之ヲ殺スト云フハ人タル者ノ生命ヲ斷ツニ在ルナリ本罪ノ構成要件ハ左ノ如シ

- 一 殺人トハ他人ノ生命ヲ不正ニ破壊スルコトナリ即チ奪フヲ云フ故ニ破壊セラレタル人ノ生命カ現ニ存在シタリシコトヲ要ス若シ生命ナキ人ヲ傷害スルモ死ト謂フ結果ヲ

生セザレハ殺人罪ヲ構成セス

二 殺人ノ意思アルコトヲ要ス 殺人ニハ殺人ト謂フ結果ノ發生スルヲ前以テ知ルヲ謂フモノニシテ其意思ナキ場合ハ無意ノ犯罪ナレハ本罪ハ成立セス意思アリテ其目的カ殺人ニアルトキハ假令ヒ其人ハ犯人カ殺サント欲セシ所ノモノニ非サルモ殺人罪ヲ構成スヘキナリ

苟モ殺人ノ意思アルニ於テハ甲ヲ殺サント欲シ誤テ乙ヲ殺シタルカ如キ場合ニ於テモ人ヲ殺スノ行爲ニ付テハ成立シタルヲ以テ其目的ノ人タルト否トヲ問ハス殺人ノ犯罪ヲ爲スモノトス

四 殺人ノ方法手段

殺人ノ行爲ハ必スシモ被害者ノ身體ニ對スル有形的ニ依ルコトヲ要セス被害者ノ精神ニ對スル無形的手段ニ依テモ亦之ヲ行フコトヲ得ヘシ然レトモ法律ニハ別ニ之カ區別ヲ認メサルモ亦殺人ノ行爲中ニ包含セラル、モノト解釋スルヲ至當トス

改正法ハ此等ノ方法手段ノ區別ハ總テ之ヲ廢シ舊法ニ謀殺故殺ノ區別アリシヲモ廢シタルナリ其理由ハ殺人行爲ニ付キ謀殺及ヒ故殺ノ區別ヲ爲ス法制ノ可否ハ現時刑法界ノ一大問題ナリト雖モ理論上殺人行爲ニ付キ豫謀ノ有無ヲ區別シ能ハサルヲ以テ此區別ヲ認ムル結果實益ナキ上訴提起ノ弊ヲ生スルノミナラス之ヲ實際ニ鑑ミルモ謀殺必スシモ重シト謂フ可カラズ故殺必スシモ輕シト謂フヘカラス而シテ改正法ハ刑ノ範圍

ヲ擴張スルニアレハ此等ノ區別ハ弊害アリテ何等ノ實益ナキ謀殺ノ區別ヲ全廢シテ廣ク殺人行爲ニ對シ範圍ノ廣キ刑ヲ科シ其情狀ニ應シ裁判官ヲシテ相當ナル刑ヲ科セシムルト云フニ在リ

本條ノ殺人ハ自己又ハ配偶者ノ直系尊族ノ外總テノ人ヲ殺シタル場合ノ規定ナレトモ皇族等ニ關スル殺人犯ハ本條ノ規定ニ從フヘキモノニアラス皇室ニ對スル罪ノ規定ニ從フヘキモノトス

第二百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

(註)本條ノ罪ハ我國民カ最モ尊重スヘキ祖父母、父母ヲ殺スモノナレハ其罪モ亦從テ重キ刑ニ處スルモノトス法文ニ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者トアリ自己ノ直系尊屬トハ即チ祖父母父母ヲ指ス配偶者ノ直系尊屬トハ妻タル者ノ祖父母父母ヲ指ス何レモ人倫ノ最モ敬愛スヘキ最モ深キ恩愛ヲ蒙リタル人ニ對シテ亦最モ重キ殺人罪ヲ犯シタル者ナリ

第二百一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

(註)前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者トハ例ヘハ兇器ヲ買求メ又ハ毒藥ヲ買求メテ殺スニ於テ之ヲ遂ケ得ヘキ手段ヲ整ヒタル場合ヲ云フ此豫備ノ所爲ハ法律ニハ罰

スル場合ト之ヲ罰セサル場合トアリ之ヲ罰スル場合ハ其犯罪ノ社會ヲ害スルコト大ナル事  
件ニ限ルモノトス即チ殺人犯ノ如キ亦重大ナル犯罪ナレハ之ヲ罰スルモノトス然レトモ本  
條ハ但書ヲ設ケテ情狀ニ因其刑ヲ免除スルコトヲ得ルモノトス其情狀トハ例ヘハ非常ナル  
害ヲ受ケテ已ムヲ得ス殺害セントシテ之カ準備ヲ爲シタル場合ノ如キ是ナリ

**第二百二條**

人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ

受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役  
又ハ禁錮ニ處ス

(註)本條ハ自殺ニ關スル規定ナリ

自殺ニハ人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ  
之ヲ殺スノ場合ニ區別シタリ而シテ自殺トハ自己ノ意思ニ依テ自己ノ生命ヲ絶ツコトヲ云  
フ且ツ其生命ヲ絶ツヘキ手段ハ自殺者自身ニ依テ行ハル、ト他人ニ依託シテ行ハシムルト  
ハ問フ所ニアラサルナリ

第一自殺ノ教唆トハ強制ニ依ラス他人ニ自殺ヲ決心セシムルノ所爲ヲ云フ其手段方法ハ法  
律ニハ此ノ限定ナキカ故ニ茲ニ之ヲ例セスト雖モ要スルニ威權ヲ以テ強制シタル場合ニア  
ラスシテ其決心ヲ爲サシメタルニ在リ

第二自殺者ヲ幫助シタル場合自殺ノ幫助トハ自殺者ノ爲メニ殺人ノ實行々爲ニアラサル方

法ニ依テ自殺ヲ容易ナラシメタル凡テノ行爲ヲ云フ而シテ自殺ノ幫助ハ自殺ノ教唆ト同シ  
ク自殺罪ノ從犯トシテ處罰スルモノニアラス獨立ノ一罪トシテ處分スルモノトス

第三自殺者ノ囑託ヲ受ケタル場合トハ自殺ヲ決心シタル者ノ依頼ニ因リ其生命ヲ絶ツヘキ  
行爲ヲ行フコトヲ決意シタル者ニ對シ殺害ヲ實行シタル行爲ヲ云フ而シテ自殺者ノ依頼ト  
依頼ヲ受ケタル者ノ殺害行爲トハ其主要ナル點ニ付テ互ニ相一致スルヲ要ス即チ例ヘハ自  
殺者カ定メタル殺害ノ方法日時場所ノ異ナラサルヲ要スルカ如シ

第四自殺者ノ承諾ニ依ル場合ハ單純ナル承諾ト強テ之ヲ承諾セシメタル場合アリ承諾ニ依  
ル場合トハ例ヘハ情死スルカ如シ情死ニハ單純ニ承諾スルモノト強テ承諾セシメラレタル  
場合トアルハ實際上見ル所ナリ

**第二百三條 第百九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス**

(註)本條ハ殺人未遂罪ノ場合ヲ規定シタルモノナリ

殺人罪ノ未遂罪ハ其罪狀種々アレトモ要スルニ人ヲ殺スノ意思アリテ其手段方法ヲ施シ即  
チ着手以上ニ及ヒテ錯誤ノ爲メニ之ヲ遂クルコト能ハサルヲ謂フ又殺人ノ所爲ト死亡ノ結  
果トノ時間ノ長短ヲ問ハス故ニ殺害シタル當時ニハ死亡セシテ數日ヲ經テ死亡スルモ之  
カ爲メニ死亡シタルハ未遂罪トナラス然レトモ一旦殺人未遂罪ノ判決確定シタルトキハ其  
後ニ死亡スルモ之ヲ未遂罪トス是レ一事不再理ノ原則ニ從フカ故ナリ

### 第二十七章 傷害ノ罪

(註)舊法ハ本章ノ罪ヲ毆打創傷罪ト名ケタリト雖モ其語穩當ナラサルヲ以テ改正法ハ之ヲ改メテ傷害ノ罪ト名ツケ況ク身體傷害ニ關スル規定タルコトヲ明ニシタリ是ヲ以テ毆打以外ノ方法ニ依リ又ハ外部ニ創傷ヲ生セシテ傷害ヲ生シタル場合ノ如キモ皆之ヲ包含セシメタルナリ

其語ハ異ナルモ其所爲ニ於テハ異ナル所ナシ唯タ毆打以外ノ方法ニ依リ又ハ外部ニ創傷ヲ生セシテ傷害ヲ生シタル場合ニモ本章ノ罪トスルカ故ニ毆打創傷トスルトキハ毆打シタル結果ノ創傷ニ限ルカ如キ觀アルヲ以テナリ之ヲ要スルニ人ヲ殺スノ意ナクシテ人ノ身體ヲ傷害シタル罪ナリ

**第二百四條** 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

(註)本罪ヲ構成スルニハ左ノ行爲アルヲ要ス

- 第一 犯罪ノ目的ノ主體タルヘキ者ハ生活セル人ニシテ出産後ヨリ死亡ニ至ルマテノ人ノ身體タルコト
- 第二 生活セル人ノ身體ヲ傷害スルコト
- 第三 其所爲ノ結果トシテ人身ニ傷害ヲ生シタルコト

**第四** 不法ノ所爲ナルコト

**第五** 人身ニ傷害ヲ加フルノ意思アルコト

第一人ノ身體ニ對スル行爲ナルヲ以テ人ノ生命、名譽、財産、自由ニ對スルモノニアラス  
第二ハ現ニ生活セル人ノ身體ニ傷害ヲ加フルニ在レハ胎兒又ハ死體ニ對スル行爲ニアラス  
第三ハ行爲ノ結果トシテ人ノ身體ニ傷害ヲ生スルニ在レハ單ニ毆打セシノミニシテ身體ニ傷害ヲキトキハ第二百八條ノ規定ニ從ヒ拘留又ハ科料ニ處スヘキモノトス

第四ハ不法ノ所爲ナルコトヲ要スルカ故ニ正當ノ行爲ナルトキハ本罪ヲ成サス例ヘハ父母カ子弟ヲ教訓スル爲メニ析檻シタルカ如キ又醫師カ治療ノ目的ヲ以テ爲シタルトキノ如キハ不法ニアラス職業上ノ行爲ヲ爲シタルモノナリ然レトモ醫術界ニ於ケル學術ヨリ施ス常法ノ行爲ニ限ルモノトス故ニ研究ノ爲メニシテ治療ノ場合ニアラサルトキニ身體ヲ傷害スルハ不法行爲トスルナリ

第五人身ニ傷害ヲ加フル意思アルコトヲ要スルカ故ニ立腹ノ際又ハ常ニ怨ミアリタル爲メニ手足其他ノ物ヲ以テ暴行ニヨリ人ヲ傷害シタル場合ニアリ而シテ其ノ傷害ノ程度ハ現狀ヲ傷害スレハ足レリトス舊法ニハ耳目手足生殖器等ヲ列記シテ傷害ノ程度ヲ示シタリ本條ニハ之ヲ列記セスト雖モ此等ノ傷害ハ勿論内部ニ對スル傷害ヲモ含ミ又毒物ヲ使用シテ身體ニ異狀ヲ生スルモノ本罪ヲ成スモノトス

本罪ハ過失罪ニアラス意思アルヲ要スルカ故ニ身體ニ傷害ヲ加フル意思アラハ則チ身體ヲ

毆打スレハ其ノ結果トシテ創傷ノ生スヘキヲ豫見スルト否トヲ問ハス唯タ其ノ結果ノ程度カ如何ナルカヲ豫見セサルノミ

**第二百五條** 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ人ノ身體ヲ傷害スル結果死ニ致シタル場合ヲ規定シタリ

本罪ハ元ト人ヲ死ニ致スノ意思アリタルニアラスシテ唯タ傷害スルニ在リシモ圖ラヌ死ニ致シタル場合ニシテ過失殺傷ノ行爲ナリ故ニ其罪モ亦比較的輕キモノナルハ是レ犯罪ハ其ノ行爲ノ當時ニ意思ノ如何ト結果トニ因リテ處斷スルモノナレハナリ

然ルニ本條ノ場合ト雖モ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ其情狀重キモノナリトシテ普通一般ノ者ニ對スルトキトハ大ニ其罪ヲ重クシタルナリ

**第二百六條** 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ料料ニ處ス

(註)本條ハ人ヲ傷害スル場合ニ當リ自カラ人ヲ傷害セスト雖モ其勢ヲ助ケタル者ノ罪ヲ規定シタルモノナリ

毆打創傷ノ各共同正犯ハ共同行爲ニ基ツク全部ノ結果ニ付テ責任ヲ負フコトナク又自己ノ幫助ニ依テ他ノ共同正犯カ與ヘタル結果ニ付キ刑ヲ輕クシタルハ總則共犯ノ規定ノ例外ナリ而シテ法文ニ勢ヲ助ケタル者トアルハ單ニ使喚スル意味ニ解スルガ穩當ナラン

**第二百七條** 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

(註)本條ハ舊法第二百五條ト同一ノ場合ニ關スル規定ニシテ舊法ハ共謀ノ有無ヲ問ハス現ニ手ヲ下シタル傷害ニ付キ各自ニ責任ヲ負ハシムルヲ原則トシ若シ傷害シタル者カ何人ニ在ルヤヲ知ラサルトキハ各自ヲ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減シテ處斷スルコト、爲シ教唆者ヲ此中ニ加ヘス改正法ハ右ノ場合ニ付テハ若シ犯人共犯ナルトキハ總則ノ共犯例ニ依リ共犯ニ非サルトキハ各自カラ成シタル傷害ノ正犯トシテ之ヲ處斷スルコト、爲シ又暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯例ヲ適用シ各自ヲ最モ重キ傷害ノ正犯トシテ處分スルコト、爲シタルナリ

人ヲ傷害シタル場合ニ於テ何レノ行為カ傷害ノ輕キヤ重キヤヲ知ルコト能ハス又ハ其共犯者ニシテ何レノ行為カ傷害ヲ生セシメタル者ナルコトヲ知ルコト能ハサル場合アリ此場合ニハ共同者ニ非スト雖モ即チ實行シタル者ニ非サルモ共犯例ニ依リ各自ヲ最モ重キ傷害ノ正犯トシテ處分スルモノトス是レ舊法ト異ナル所ナリ舊法ハ何人ノ爲シタル傷害ナルヤヲ知ラサル場合ニ實際其傷害ヲ爲サ、ル者ニ對スル刑ノ重キニ過クルヲ避ケル爲メニ一等ヲ減スルモノトシテ罪ノ疑ハシキハ輕クスヘシト云フノ趣意ナルヘシト雖モ然ルトキハ犯罪實行ト刑ノ權衡ヲ失スルモノトシテ共犯例ニ依リ處分スルコト、爲シタリ

**第二百八條** 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科科ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

(註)本條ハ舊法ニ於テ違警罪トシテ處分シタル極メテ輕微ノ罪ナレハ之ヲ親告罪トシテ本人ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スルモノトシタルナリ

**第二十八章 過失傷害ノ罪**

(註)舊法ハ本章ノ罪ヲ過失殺傷ト名ツクト雖モ其語穩當ヲ缺クカ故ニ之ヲ改メテ過失傷害ト爲シタリ又舊法ニハ職務ニ關スル過失傷害ノ場合ニ付テ特別ノ規定ヲ設ケスト雖モ改正法ニハ之ヲ必要ナリト認メ新タニ其規定ヲ設ケタリ

**第二百九條** 過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

(註)過失傷害トハ人ヲ傷害セントノ意思ナクシテ過テ即チ不注意ニテ人ヲ傷害シタルモノナリ故ニ過失傷害罪ハ其刑罰モ亦自由刑ニアラスシテ罰金刑ナリ且ツ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スルモノトス而シテ過失ニハ疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス又ハ無意即チ犯罪トナルヘキ事實ヲ知ラサリシ場合ナリ

過失ト爲ルヘキ結果ヲ生スル所ノ原因ニ二個アリ即チ一ハ犯人ノ思慮カ毫モ其結果ニ及ハサル場合一ハ思慮カ必スシモ結果ニ及ハサルニハアラサルモ此結果ハナカルヘシト誤信シ注意ヲ怠リシ場合はナリ

第一ノ場合ハ疎忽ニ出テタルモノニシテ第二ノ場合ハ犯罪者ニ於テ己ニ危險ヲ生スルヤモ計リ難キコトヲ知ルカ故ニ其事ヲ中止セサレハ危險ヲ防ク方法ヲ思慮セサルヘカラサルニ其事面倒ナリトシテ萬一ノ僥倖ヲ得ントシ遂ニ其危害ヲ生スル場合ニシテ俗ニ云フ横着ヲ爲シタル場合ナリ

本條ノ罪ハ親告罪ト爲ス是レ過失ハ其被害者ニ於テ之ヲ恕スルコトアルヲ以テ必ス公訴ヲ起ス者トスルトキハ被害者ノ意思ニ反スルヲ以テ被害者ノ告訴アリタル時ニ限りテ其罪ヲ

論スルモノトス

### 第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

(註)本條ハ過失罪ノ最モ重キ場合ノ規定ナリ

舊法第三百十七條ハ本條ノ場合ヲ疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ出テタル場合ヲ規定シタルトモ徒ニ疑義ヲ生スル嫌ヒアルヲ以テ改正法ハ單ニ本條ノ如ク規定シタルナリ唯々趣旨ニ於テハ同一ナルヘシ本罪ハ其結果ハ重シト雖モ元ト是レ過失ニ出テタル行爲ナレハ大ニ恕スル所アルヲ以テ罰金刑ニ處スルモノトス

### 第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

(註)本條ハ過失罪カ業務アル者ニ於テ犯シタル場合ノ規定ナリ業務上必要ナル注意ヲ怠リタルトハ例ヘハ汽車ノ機關手、汽船ノ船長等ノ如キ者カ其注意ヲ怠リタル場合ナリ此等ノ者ハ一般ノ者ヨリハ一層特ニ注意ヲ加ヘサルヘカラサルニ之ヲ怠リタル場合ハ其罪重カルヘキハ當然ナリ其他爆發物ノ營業ヲ爲ス者即チ煙火又ハ火藥ノ營業ヲ爲ス者ノ如キ是ナリ又ハ其他ノ業務ニ従事スル者例ヘハ電氣若クハ瓦斯ノ如キ危險物ヲ使用スル業務ニ従事スル者ノ如キ皆必要ナル注意ヲ加ヘサルヘカラサル者ナリ

### 第二十九章 墮胎ノ罪

(註)墮胎ハ其父母タル者カ多クハ養育ノ途ニ窮シ若クハ其原因タル不名譽ノ結合ヲ蔽ハシカ爲メニスルモノニシテ不品行ニ出ツル場合ト養育ニ困難ナルコトヲ思フテ犯ス罪ナレハ法律ハ直接ニ將來ノ人ヲ殺ス罪ヲ間ヒ間接ニ不品行ヲ爲ス者ヲ防クニ在ルナリ

### 第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ婦女自身カ藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎スル場合ノ規定ナリ墮胎罪ヲ犯スニハ左ノ條件ヲ必要トス

一 墮胎ハ未タ母體ノ外ニ於テ獨立シタル生活ナキ自然ノ時期ニ到達セサル胎内ノ兒ヲ云フ而シテ墮胎ノ行爲ハ之ヲ左ノ二個ニ區別スルモノトス

(1) 自然ノ分娩期ニ先タチ胎兒ヲ母體ヨリ分離スル場合

(2) 母ノ體内ニ於テ胎兒ヲ殺ス場合

(1)ノ場合ニ於テハ犯人ニ於テ胎兒ヲ殺スノ意思アルコトヲ要セス又胎兒カ死亡スルト否トヲ問ハス唯々分娩期ニ先タチ母體ヲ出テシメタルヲ以テ既遂トス(2)ノ場合ニ於テハ胎兒カ母體内ニ於テ死亡スレハ本罪ヲ構成スルモノトス

本罪ハ墮胎ノ結果死セサルヲ以テ之ヲ養育セントシテ後日死シタルモ其原因タル墮胎ノ行爲ニ在ルヲ以テ之ヲ罪トナス是レ墮胎罪ハ自然ノ分娩期ニ先チ人爲ヲ以テ母體ヨリ胎兒ヲ



分離セシムルニ依リテ成立スルモノナレハナリ從テ胎兒カ其結果トシテ死亡スルト否トハ問フ所ニアラス而シテ犯人カ墮胎シタル後チ尙ホ其兒ノ生活スルヲ見テ更ニ殺意ヲ生シ之ヲ殺シタルトキハ墮胎及ヒ殺人ノ二罪ヲ成スモノトス

**第二百十三條**

婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ婦女自身カ墮胎ノ行爲ヲ爲スニ非スシテ他人ニ囑託シ又ハ他人ノ勸メニ依リ之ヲ承諾シ他人ニ其行爲ヲ爲サシムルヲ云フ故ニ本條ノ場合ハ婦女ノ任意ニ墮胎スルモノニシテ婦女自カラ之ヲ實行セス他人ノ手ヲ借リテ墮胎スルニアルノミ前條ト異ナル點ナリ而シテ婦女ハ其罪責ナクシテ之ヲ實行シタル者其罪責ヲ負フモノトス是レ假令ヒ婦女ノ囑託ヲ受クルモ此ノ如キ行爲ハ之ヲ實行スル者ニ於テ之ヲ行ハサルトキハ墮胎スルコト能ハサル場合アレハナリ殊ニ婦女ノ承諾ヲ得タル場合ノ如キハ或ハ情夫カ私通ノ婦女ニ對シテ後日ノ困難ヲ説キ若クハ墮胎セサレハ縁ヲ絶ツヘシナトノ手段ヲ以テ承諾セシムルカ如キ場合ナレハナリ

**第二百十四條**

醫師、產婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因

テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ職務上又ハ營業上ヨリ婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキノ規定ナリ

醫師、產婆、如キハ自己ノ職業上犯シ易シ又藥種商、藥劑師ノ如キモ其業務上之ヲ犯スニ容易ナルヲ以テ此等ノ者ハ其罪重カルヘキハ當然ナルヘシ

**第二百十五條**

婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(註)本條ノ罪ハ強制シテ墮胎セシムル場合ノ規定ナリ

婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎スル場合ハ婦女ノ意ニ反シテ之ヲ爲ス者ニシテ舊法ニハ此ノ場合ヲ威逼、誑騙ヲ以テ墮胎セシムル場合トシタリ威逼トハ恐喝スル意ニシテ誑騙トハ懷胎ノ婦女ヲシテ墮胎ノ實行々爲タルコトヲ覺ラシメシテ墮胎セシムルコトヲ云フ例ヘハ懷胎ノ婦女ニ對シ下毒劑ナリト稱シテ墮胎藥ヲ服用セシメテ墮胎セシムルカ如シ

**第二百十六條**

前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ

### 罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

(註)前條ノ罪ハ懷胎ノ婦女ノ承諾セサルニ強テ墮胎セシメタル場合ナレハ前ニ述ヘタル如ク威逼、毆打、誑騙等ニ因リタル行爲ニシテ之カ爲メニ婦女ヲ死傷ニ致スコトアルヘシ若シ然ルトキハ傷害罪中ノ重キモノニ從テ處斷スルモノトス而シテ此ノ場合ニハ犯人ニ於テ毆打創傷ノ犯意アリタルト否トハ問フ所ニアラサルナリ然ルニ若シ墮胎ノ結果死ニ致スノ意思アリタルトキハ殺人罪ヲ以テ論スルモノトス

### 第三十章 遺棄ノ罪

**第二百十七條** 老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ老幼ハ何レマテヲ幼者トシ何十歳ニ至ラハ老者ト爲スヤニ付テハ規定ナシト雖モ舊法ニ八歳ニ滿タサル幼者ト規定シタルヲ以テ滿八歳ヲ超エタル幼者ハ全ク保護ヲ受クルコトヲ得サルニ至ル即チ之ヲ改メテ扶助ヲ要スヘキ幼者ト爲シ其認定ハ裁判所ニ一任シタリ故ニ何レモ獨立シテ生活スルコト能ハサル者ニシテ扶養保護ヲ受ケサルヘカラサル者ヲ謂フナリ

遺棄トハ其所爲ヲ二個ニ區別スルコトヲ得ヘシ

- 一 現在ノ狀況ヨリ生命、身体ニ害ヲ生シ得ヘキ危險ナル狀況ニ移スコトヲ要ス即チ之

ヲ打チ棄テ置ケハ生命ニモ別條カアルト云フ程ノ狀況ニ至ラシムルニ在リ故ニ假令現在ノ狀況ヲ變スルモ遺棄セラレタル者カ他人ノ爲メニ保護セラル、ナラントノ希望アル場合ハ之ヲ遺棄ト云フコトヲ得然レトモ此希望カ他人ノ保護ヲ得ルナラントノ期望スルノミニテ確保スヘキ事實ノナキトキハ遺棄ト爲ルヘシ例ヘハ往來ノ道路ニ遺棄スルトキハ或ハ道路通行人ノ保護ヲ受クルコトアルヘシト雖モ果シテ此事アルヤ否ヤハ確保シ難キヲ以テ遺棄ト云フコトヲ得ヘシ

二 無人寂寥ノ地即チ人ノ往來セサル山野ノ地ニ遺棄スルコト 此ノ場合ニハ直チニ生命、身体ニ害ヲ生シ得ヘキ危險アルモノナレハ前項ノ如ク或ハ他人ノ保護ヲ受クルコトアラント云フ希望ハ之ナキ者ニシテ絶對的ニ遺棄シタル者ナリ  
然レトモ他所ニ移サストモ衣服飲食ヲ給セスシテ養育ヲ欠キタルトキハ本條ノ罪ヲ成スナリ

**第二百十八條** 老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サ、ルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ老幼不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者カ之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サ、ルトキノ處罰ヲ規定シタルモノナリ

責任アル者トハ給料ヲ得テ人ヲ寄託ヲ受ケ保護ス可キ者又ハ其老幼不具者等ニ特別ノ身分關係アル者例ヘハ子孫カ祖父母父母ニ對シ又ハ配偶者即チ妻タル者カ夫ノ家ノ祖父母父母ニ對スル場合ノ如キハ其罪他ノ者ヨリ重キハ當然ナルヘシ此ノ身分ノ關係アル者ハ現在ノ狀況ヨリ他ノ狀況ニ移スコトヲ要セスト雖モ其犯人ト老幼者等トノ場所ヲ離ル、ヲ要ス故ニ犯人カ自己ノ居ル場所ヲ置キ去リニスルモ亦老幼者ヲ他ノ場所ニ移スコトヲ問ハス要スルニ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サ、ルトキハ本條ノ罪ヲ成スモノナリ

舊法ニハ第三百三十八條ニ於テ單ニ給料ヲ受ケ人ノ寄託ヲ受ケ保護ス可キ者、老者、幼者又ハ病者ヲ遺棄シタル場合ノミニ付キ規定スト雖モ改正法ハ本條ニ於テ之ヲ擴張シ廣ク保護ノ責任アル者カ此等ノ者ヲ遺棄シ其他生存ニ必要ナル保護ヲ爲サ、ル場合ヲ規定シタリ

**第二百十九條** 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

(註)本條ハ舊法第三百二十九條ト同一ノ場合ニ關スル規定ナリ而シテ舊法ハ前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ別ニ刑ヲ設クト雖モ改正法ハ其ノ必要ナシトシテ傷害ノ罪ニ比シ重キニ從テ處斷スルモノトス是レ犯人ニ於テ元ヨリ殺人ノ意思アリタル者ニア

ラサレハナリ

### 第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

**第二百二十條** 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本罪ハ人ノ自由ヲ束縛スル行爲ニシテ人ハ法令ノ命スル所ニ依ルノ外ハ逮捕及ヒ監禁セラル、コトナキ者ナリ然ルニ不法ニ人ヲ逮捕監禁スル者ハ本罪ヲ構成スルモノトス本罪ヲ成スニハ左ノ條件ヲ要ス

- 一 人ヲ逮捕シ又ハ監禁スルコト 人ヲ逮捕スルニハ其職務アル巡查ト雖モ令狀ナクシテ之ヲ逮捕スルコトヲ得サル者ナレハ一般人民ニシテ人ヲ逮捕スルコトヲ得サルハ言ヲ俟タス監禁モ亦然リ私ニ監禁スルコトヲ得サルモノナリ世間往々室内ニ押籠メテ自由ニ外出スルコトヲ得サラシムルコトアリ而シテ舊法ニハ私家ニ監禁シタル者ト爲シ監禁ノ場所ヲ示スト雖モ其意義狹キニ過キタルヲ以テ本條ハ場所ニ關スル規定ヲ除キタリ又其監禁ノ日數ニ依リテ刑ヲ加重スル規定アリト雖モ煩ハシクシテ却テ裁判所ヲ

シテ適宜ノ刑ヲ科スルコトヲ得サラシムルノ弊害アルヲ以テ改正法ハ此規定ヲ廢シ刑ノ輕重ハ之ヲ裁判所ノ判定ニ任スコト、シタリ

二 不法ナルコトヲ要ス 故ニ巡查ノ令狀執行又ハ私人ノ現行犯人ヲ逮捕スルカ如キハ本罪ヲ成サス一私人カ不法ニ爲ス場合ニ限リテ本條ノ規定ニ從ヒ之ヲ罰スルモノトス 監禁ハ精神狂亂者ノ如キ者ヲ官ノ許可ヲ得テ自宅ニ監禁スルカ如キハ不法ニアラス

**第二百二十一條** 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ斷處ス

(註)本條ノ規定ハ説明ヲ要セスシテ明カナレハ之ヲ略ス

**第三十二章 脅迫ノ罪**

(註)脅迫トハ意思ノ自由ヲ妨クル行爲ニシテ相手方ニ於テ現ニ危害ヲ受クヘキコトヲ確信スルコトヲ要ス而シテ脅迫スル者ニ於テ眞實ニ危害ヲ加フルノ意思アルコトヲ要セス當ニ意思ナキノミナラス唯タ戯レヲ以テスルモ犯人ノ意思ニシテ脅迫即チ危害ヲ加フルニ在ルモ相手方ニ於テ之ヲ確信セサルトキハ脅迫ノ實ナキ者ニシテ未遂ナリ例ヘハ婦女子カ男子ニ對シ汝ニシテ子カ意ニ從ハサレハ暴行ヲ加ヘント脅迫シタルモ男子ハ屈強ナル者ニシテ毫モ脅迫ノ實ナキカ如シ然レトモ老幼婦女ノ如キ弱者ニシテモ脅迫ノ實ナシト謂フヘカラサル場合アリ即チ名譽ヲ害シ又ハ財産ニ火ヲ放ツト脅迫スルカ如キハ其ノ脅迫ノ實アルモ

ノト謂フヘシ

**第二百二十二條** 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

(註)本條ハ脅迫スル客體ヲ規定シタルモノナリ脅迫ノ危害ヲ受クル者ハ本條ニ掲タルモノニ對シテ爲ストキハ最モ人カ其脅迫ヲ恐ル、モノナルヲ以テナリ

第一 人ノ生命 此ノ脅迫ハ汝ヲ殺害セント云フカ如シ此ノ場合ニハ脅迫者ト被害者トノ體力ニ於テ脅迫者ノ體力カ勝レタル場合ナルヘシ若シ然ラスシテ脅迫者ニ於テ危害ヲ加フルノ意思アルモ相手方ニ於テ之ヲ確信セサルトキハ脅迫ノ實ナケレハナリ又其ノ脅迫ハ直接ナルト間接ナルトヲ問ハス

第二 身體 身體ニ對スル脅迫ハ暴行ヲ用ヒ傷害ヲ加フヘシト云フカ如キ場合ナリ

第三 自由 自由ニ對スル脅迫ハ或ル事ヲ爲サシメント云ヒ又ハ爲サシメサルト云フカ如キ意思ノ自由ヲ害スル場合ト身體ヲ監禁スルト云フカ如キ自由ヲ害スル場合ヲモ包

合ス

第四 名譽 名譽ヲ害セントスルハ被害者ノ惡事醜行ヲ摘發シ社會ノ名譽ヲ害セント脅迫スルモノニシテ新聞紙ニ惡事醜行ノ記事ヲ掲載セントスルカ如キモ其一例ナリ

第五 財産 財産ニ對スル脅迫トハ或ハ家屋ニ火ヲ放ツトカ又ハ損壞セントカ云フ如キ場合ヲ謂フナリ

右ノ脅迫ハ獨リ他人ニ對スル場合ノミヲ以テ本罪ヲ構成スルモノトセス親族ノ者ニ對シテ危害ヲ加ヘント脅迫スルトキハ同シク本罪ヲ構成スルモノナリ

第二百二十三條

生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可

キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(註)本條ハ前條ノ脅迫ノ外暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ

妨害シタル場合ヲ規定シタルモノナリ

生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ其脅迫ニ因リテ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ニシテ被害者カ其ノ脅迫ヲ確信シテ脅迫者ノ意ニ從ヒ脅迫ノ條件ヲ實行シタル者ナリ而シテ義務ナキ事ヲ行ハシメトハ例ヘハ債務ノナキニ債務ヲ負擔シテ支拂ヒタルカ如シ又行フ可キ權利ヲ妨害シタル者トハ選舉權ヲ妨害シテ選舉ヲ行ハシメサルカ如キ場合ヲ謂フ

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰スルモノトス舊法ハ脅迫罪ヲ親告罪ト爲スト雖モ脅迫罪ノ如キハ私人ノ名譽ニ關スルヨリハ寧ロ公ケノ秩序ニ關スル罪ノミナラス之ヲ親告罪ト爲ス結果被害者ヲシテ徒ニ不當ノ賠償ヲ貪ラシムルニ過キサルヲ以テ改正法ハ之ヲ廢シタルモノナリ

第三十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪

(註)舊法ハ幼者ヲ略取誘拐スル罪ト題シテ唯二十歳未滿ノ幼者ヲ保護スル規定ナリト雖モ改正法ハ之ヲ改メ廣ク人ヲ略取及ヒ誘拐スル罪ト爲シ成年者ヲモ保護スルコト、爲シタリ

舊法ハ直接ニ幼者ヲ保護スル主義ナルヤ又ハ其監督者ヲ保護スル主義ナルヤヲ知リ難キヲ以テ改正法ハ之ニ關スル主義ヲ明ニシタリ

本章ノ罪ハ人ヲ略取及ヒ誘拐シテ其目的外國ニ移送シ又ハ自家ニ隱匿シ猥褻又ハ結婚ヲ爲ス等ニ在ルモノナリ要スルニ營利ニ出ツルト猥褻、淫行ノ二個ニ在ルナリ其手段ニ付テハ

左ノ行爲アルヲ要ス

- 一 父母又ハ監督者ノ承諾ナクシテ爲スコト
- 二 偽計又ハ威力ヲ用フルコト
- 三 略取者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被略取者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシムルコト

**第二百二十四條** 未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ未成年者ヲ略取又ハ誘拐スル場合ノ規定ナリ

略取ト誘拐トノ意義ヲ區別スレハ略取トハ本人又ハ監督者ノ承諾ナキニ威力ヲ用ヒテ奪ヒ去ルヲ云ヒ誘拐トハ本人又ハ監督者ニ對シ偽計ヲ以テ説キ付ケ承諾セシメテ引出スヲ云フ例ヘハ近年例ノ多キ外國ニ行ケハ非常ニ好キ事カアルトカ出世ヲスルトカ云フ如キ被害者ノ意中ヲ動かスニ足ルヘキ甘言ヲ以テスルニ在リ而シテ幼者カ承諾シタルモ其承諾ハ此自由ヲ侵害シタル所爲ノ違法ヲ消滅セシムルコトヲ得サルナリ故ニ假令ヒ幼者ニ於テ承諾スルモ本罪ヲ免レサルモノナリ又監督者カ之ヲ承諾スルモ其承諾ヲ與ヘタルニ因リテ其監督者ハ犯罪人タル者トスルコトヲ得ス

**第二百五條** 營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ人ヲ略取誘拐スル者ノ其目的ヲ規定シタルモノナリ即チ其ノ目的トスル所ハ左ノ如シ

營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ニ在リ營利ハ被害者ヲ利用シテ金錢ヲ得ルヲ云フ者ニシテ或ハ他人ニ渡シ淫賣ヲ爲サシムルカ又ハ勞働者トシテ利益ヲ得ルニアリ猥褻ノ目的タルトキハ自己又ハ他人ノ家ニ藏匿シテ自カラ猥褻ノ行爲ヲ爲スニ在リ  
本條ノ被害者トナルヘキ者ハ未成年者ノミニ限ラス何トナレハ前條ハ未成年者ナルコトヲ明示スト雖モ本條ハ單ニ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者トアレハナリ是レ結婚ノ目的ヲ以テ略取誘拐スル場合アル所以ナリ

**第二百二十六條** 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

(註)本條ハ人ヲ略取又ハ誘拐スル目的カ帝國外ニ移送スル場合ニ在ル規定ナリ  
本條ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ行爲ニ因ル

第一 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタルコト 其移送スル目的カ如何ナルヲ問ハス唯タ移送スル目的ヲ以テ略取又ハ誘拐シタルハ本條ノ罪ヲ構成スルモ

ノナリ

第二八二個ニ區別シテ其一ハ帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買スルニ在リ人身賣買ハ明治五年十月二百九十五號布告ヲ以テ之ヲ禁セラレタルモノナリ其文ニ曰ク

人身ヲ賣買致シ終身又ハ年期ヲ限リ其主人ノ存意ニ任セ虐使致シ候ハ人倫ニ背キ有間敷事ニ付古來制禁ノ處從來年期奉公等種々ノ名目ヲ以テ奉公住爲致其實賣買同様ノ所業ニ至リ以テノ外ノ事ニ付キ自今可爲嚴禁事

又同年十月司法省二十二號達ヲ以テ人身賣買ノ資本金ハ賍金ト看做ストセラレタリ其二ハ被拐取者又ハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同一ノ罪ニ處ストアリ此ノ場合ハ本人カ略取誘拐シ若クハ賣買シタルニアラサレトモ他人ノ略取誘拐シタル者ナルカ又ハ賣買シタル者ヲ唯々移送シタル者ナリ

**第二百二十七條** 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス  
營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ前二條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助シタル者ト營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ニ關スル規定ナリ  
前二條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ニテトハ其犯人ヲシテ實行ヲ遂ケシムル爲メニ便宜ヲ與フルヲ云フ即チ略取セラレタル者又ハ賣買セラレタル者ヲ受取リテ之ヲ自己ノ家ニ藏匿シ又ハ他人ノ目ニ觸レサル所ニ隱シテ其場ヲ避ケシムル方法手段ヲ爲スモノナリ而シテ本條ノ場合ハ單ニ受取リタルノミニテモ罪ヲ成スモノトス  
第二項ハ他人ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スルニ非スシテ自己カ營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ヲ罰スル規定ナリ

**第二百二十八條** 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(註)本條ハ說明ヲ要スル事項ナキヲ以テ之ヲ略ス

**第二百二十九條** 第二百二十六條ノ罪 同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限り告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無效又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

(註)舊法ハ本章ノ罪ヲ悉ク親告罪ト爲シタルトモ改正法ハ廣キニ失スルモノトシテ本條ノ如ク改正シタリ

本章ノ罪ハ被害者ノ名譽ニ關スルモノナルヲ以テ親告罪ト爲シタルモノナリト雖モ營利ノ目的ニ出テタル者ハ略取及ヒ誘拐者ノ情狀憎ムヘキ所アルヲ以テ此場合ノミヲ公訴ヲ起スヘキモノトシタルナリ若シ然ラスンハ此犯罪者ヲ増シ殆ト人身ノ賣買ヲ許スニ等シク而シテ被拐取者ニ於テ告訴ヲ爲サルトキハ遂ニ此惡風習行ハル、ヲ以テナリ且ツ其他ノ行爲即チ猥褻又ハ結婚ノ目的ニ至テハ被略取者ニ於テモ社會ニ對シテ名譽ヲ損スルモノナレハ之ヲ親告罪トスヘキハ被拐取者ノ名譽ヲ保護スル上ニ於テ必要ナリトスルニ在リ  
本條但書ハ被拐取者ニ於テ一旦婚姻ヲ許シタルハ最早結婚ノ上ヨリ見ルモ其ノ訴訟ヲ採用スヘキモノニアラサルハ當然ナリ故ニ犯人ト結婚ヲ爲シタルトキハ其婚姻カ無効トナルカ又ハ取消ノ訴訟ヲ起シテ其裁判カ確定シテ愈取消サレタル後ニ非サレハ告訴ノ效ナシトスルナリ

### 第三十四章 名譽ニ對スル罪

第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス

(註)本條ノ罪ハ舊法ニ之ヲ誹毀罪トセリ本章ニハ名譽ヲ害スル罪トシタルナリ其名ハ異ナレトモ其意義ニ於テハ異ナル所ナシ

本條ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ要素ニ因リテ成ルモノトス

第一 惡事醜行ヲ摘發スルコト 惡事醜行トハ被害者ノ名譽ヲ毀損スヘキ事實ト名譽ヲ毀損スヘキ行爲トヲ謂フ例ヘハ何月何日何處ニ於テ竊盜ノ行爲アリシトカ又ハ詐欺ノ罪ヲ犯シタリトカ云フハ其人ノ惡事醜行ナリ而シテ之ヲ摘發スルトハ多數ノ人カ知ルヘキ方法ヲ以テ告知スルヲ云フ故ニ公衆ニ知ラシメスシテ一二人ニ告知スルカ如キハ茲ニ謂フ摘發ニアラス又告知スルニハ自己カ目撃シタルト風聞ナリトシテ告知スルトヲ問ハス

第二 惡意アルコトヲ要ス 故ニ惡意ナクシテ惡事醜行ヲ公ニシタルモ本罪ヲ構成セス例ヘハ裁判所ニ於テ刑ノ宣告アリタル事實ヲ新聞紙上ニ掲載スルカ如キハ惡意アル者ニアラス世ノ人カ知ラサル前ニ之ヲ告知シテ名譽ヲ毀損セントノ意ニ出テ新聞紙上ニ掲載スルカ如キハ本罪ヲ成スモノトス

第三 公然ナルコトヲ要ス 公然トハ一般ノ人ニ於テ知ルヘキ方法ヲ以テスルヲ云フ即チ新聞ニ演說ニ雜誌ニ掲載スルカ如キハ皆是レ公然ナリト謂フヘシ  
又人トハ廣ク社會ニ立テ名譽ヲ有スル人ナリ人ニシテ名譽ヲ重ンセサル者ナシ故ニ何



人ニテモ惡事醜行ヲ摘發スレハ名譽ヲ毀損セラル、ナリ而シテ一人ナルト數人ナルト又法人ナルトヲ問ハズ誰某ト指名シテ特定ノ人ヲ謂フ又摘發者ニ於テ其惡事醜行ヲ摘發スレハ其人ノ名譽ヲ毀損スヘキコトヲ知リテ爲シタル場合ニ限ル是レ惡意アルヲ要スルモノト謂フ所以ナリ

第四 事實ノ有無ヲ問ハズ 被害者ニ於テ果シテ事實アルモ之ヲ罰ス事實ナケレハ固ヨリ然ルナリ決シテ事實ノ有無ニ關セス然レトモ死者ノ名譽ヲ毀損スル場合ニ於テハ事實ノナキトキハ之ヲ罰スルモノトシテ其事實ノアリシトキハ之ヲ罰セサルモノトス即チ誣妄ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セストシタリ誣妄トハ全ク無實ノ事ヲ言フモノナリ

死者ニ對シテ名譽ヲ毀損シタル場合ニ其事實ノナキトキハ之ヲ罰スル所以ハ死者其人ノ名譽ヲ害スルニ非スト雖モ其死者ノ遺族ノ名譽ヲ害スルヲ以テナリ

### 第二百三十一條 事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

(註)本條ハ公然人ヲ侮辱シタル者ヲ罰スル規定ナリ

惡事醜行ノ事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處スルモノトス、誹毀ト侮辱トノ區別ハ誹毀ハ其人ニ對スル第三者ノ輕蔑ヲ招キ侮辱ハ犯人自身カ被侮辱者

ヲ尊敬セスト謂フコトヲ意味スルモノナリ侮辱ハ被侮辱者ニ對シテ行フコトヲ得ヘシト雖モ誹毀ハ被誹毀者以外ノ第三者ニ對スルニアラサレハ之ヲ行フコトヲ得ス

### 第二百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

(註)本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論スルモノトスルハ名譽ヲ毀損セラレタル者ニ於テ左程ニ感セサルコトモアリ又之ヲ感シタリトモ宥恕シテ告訴ヲ必要トセサルモノアレハ却テ被害者ノ意思ニ反スルニ至リ法律ノ保護ニ因リ迷惑ニ感スル者アレハナリ

### 第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

第二百三十三條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

(註)本條ノ規定ハ人ノ信用ヲ毀損スルト其業務ヲ妨害スルトノ二個ニ分チテ犯罪ヲ構成スルナリ

第一 人ノ信用ヲ毀損スルコト 信用ハ之ヲ分テ對人信用ト對物信用トノ二種アリ對人信用トハ人ニ注目スル信用ニシテ人ノ性質、技術、資力又ハ業務ノ狀況等ニ基クモノヲ謂ヒ對物信用ニハ貨物ニ着目スル信用ニシテ質物又ハ抵當物等ノ提供ニ基クモノヲ

此等ノ信用ヲ毀損スルニハ虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用フルモノトス虛偽ノ風説トハ事實無根ノ惡説ヲ言觸シテ世間ニ傳ヘルコトヲ謂フ偽計ヲ用フルトハ不實ノ計略ニ依リテ人ノ信用ヲ毀損スルヲ謂フモノナリ

第二 業務ヲ妨害スルコト 業務ヲ妨害スルトハ例ヘハ農工及ヒ商業ヲ妨害スル所爲ニシテ物品ノ賣買等ヲ妨害スルカ如シ舊法第二百六十七條ニ偽計又ハ威力ヲ以テ穀類其他衆人ノ需用ニ欠クヘカラサル食用物ノ賣買ヲ妨害シタル者云々トアルハ本條ノ業務ヲ妨害スル場合ニ該當スルモノトス

第二百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

(註)本條ノ規定ハ舊法第二百七十條ノ規定ニ該當スルモノニシテ同條ニ曰ク農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル云々ト又第二百六十九條ニハ偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業務ヲ妨害シタル者トアリ而シテ此偽計トハ詐僞ノ計策ヲ意味シ威力トハ暴行脅迫ノ意味ナリ

第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

舊法ハ竊盜又ハ強盜ニ關シ其目的ヲ以テ家宅ニ侵入シタル者ハ既ニ強盜又ハ竊盜ノ未遂ト

爲スト雖モ解釋上多少不明ノ嫌ナキ能ハス因テ改正法ハ之ヲ改メ竊盜又ハ強盜ノ未遂ハ單ニ強盜又ハ竊盜ノ實行ニ着手シタル場合ニ於テノミ始メテ成立スルコト、爲シタリ

右ノ結果トシテ本章ニ於テ新ニ賊盜ノ目的ヲ以テ人ノ住所ニ侵入シタル罪ノ規定ヲ設ケタル

舊法第三百六十七條乃至第三百七十二條及ヒ第三百七十三條乃至第三百七十四條ハ共ニ竊盜ノ情狀ニ因リ設ケタル區別ニシテ少シモ實益ナキノミナラス爲メニ却テ刑ノ範圍ノ狹隘ヲ感シ不使少カラサルヲ以テ斷然斯ノ如キ煩ハシキ規定ヲ廢棄シ汎ク強盜竊盜ニ關スル規定ヲ設ケ其情狀ハ一ニ裁判所ノ認定ニ任シタリ

舊法第三百九十二條第三百九十三條及ヒ第三百九十五條末段ノ規定ハ詐欺ニ因ル賊盜ノ一ノ情狀ニ過キサルヲ以テ之ヲ削除シタリ

第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以

下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ竊盜ノ如何ナルモノナルコトヲ規定シタルモノナリ即チ竊盜罪ノ性質ヲ分チテ説明スレハ左ノ如シ

一 人ノ所有スル物ヲ竊取スルコト即チ我ヨリ外ノ他人カ所有シ又ハ保管シアルモノヲ竊取スルヲ要ス

- 二 其物体ハ動産ナルヘシ且ツ有體物ナラサルヘカラス故ニ權利ハ物ニアラス但債權證書ノミ一ノ物體ナリトス
  - 三 自己ノ所有物ト雖モ竊盜ノ目的物タルコトアリ共有物はナリ共有物ハ自己ノ持分ト雖モ他人即チ共有者ノ承諾ヲ得サレハ處分スルコトヲ得サルナリ
  - 四 自己ノ所有物ト雖モ他人ニ質入シ又ハ差押ヘラレタル物件ハ他人ノ看守スルモノナレハ之ヲ處分スレハ竊盜罪ヲ構成ス
  - 五 他人ノ保管ニ係ル物ヲ竊ムコトヲ要ス
  - 六 他人ノ物ヲ竊カニ盜ムコト即チ夜間又ハ晝間ニテモ人ノ不在中ニ竊ムコト而シテ屋外ト屋内トヲ區別セス
- 竊取ノ意義ニ付テハ左ノ諸説アリ

- (一) 接觸主義 即チ他人ノ保管セル物ニ手ヲ觸ル、時ヨリ竊取アルモノトス是單ニ手ヲ觸レタルノミナレハ未タ之ヲ竊取シタルモノニアラサレハ此説ハ非ナリトス
  - (二) 遷移主義 此主義ハ物ヲ甲所ヨリ乙所ニ持去リタル場合ナリトス是レ未タ自己ノ所持ニ移リタルモノニアラサレハ竊取シタリト云フヲ得ス
  - (三) 隱匿主義 ハ竊取スルノ意思ヲ以テ他ニ物ヲ隱シ置キタル場合ニシテ亦竊取シタリト云フヲ得ス
- 右三個ノ説何レモ正確ナラス要スルニ竊取ハ保管者ヲシテ其保管ヲ失ハシメ自己ノ保管ニ

移シテ收得シタルトキ始メテ竊取ノ所爲ナリトス故ニ竊盜ノ目的ヲ以テ他人ノ家宅ニ侵入シ目的物ヲ探索中ハ勿論其目的物ニ手ヲ觸ル、ト雖モ未タ保管ヲ自己ニ移サ、ル間ハ竊盜ノ未遂ニシテ實行ニ着手シタル場合ナリ

着手ハ物ニ對スル他人ノ保管ヲ侵害スルニ始マルト雖モ竊盜罪ノ着手ナリヤ否ヤハ侵害セラルヘキ保管物ノ状態ニ依リテ決スヘキモノトス例ヘハ牧場ニ在ル獸畜森林内ノ材木等ノ如キハ自己ノ手ニ所持スル以前ニ於テハ着手ノ行爲ハ之ナキモ家宅内ノ如キ門牆アル場所ニ存在スル物ニ對シテハ犯人カ竊取スヘキモノヲ撰擇スルト否トヲ問ハス其場所ニ侵入スルトキハ着手シタルモノトスヘキナリ

此ノ如クニシテ竊盜罪ハ物ニ對スル他人ノ保管ヲ自己ノ保管ニ移スニ依テ生スルモノナレハ或ル行爲カ竊盜ノ着手ナリヤ否ヤヲ判斷スルニハ侵害セラルヘキ保管物ノ如何ニ從フテ定マルヘキハ前ニ述ヘタルカ如シ從テ家宅内ニ在ル物ニ付テハ其邸宅内ニ侵入スルニ依リテ已ニ保管ノ侵害アリト云ハサルヘカラス故ニ縱令ヒ物ニ手ヲ觸レサルモ尙ホ竊盜ノ未遂ニシテ實行ニ着手シタルモノトス

又屋外竊盜ハ家屋其他ノ建物外ニ於テ犯スモノニシテ其贓品額五圓未滿ノ竊盜ヲ云フ建造物外トハ門戶牆壁外ニ在ルヲ云フ

**第二百三十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ハ強**

盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

(註)本條ハ強盜ノ場合ヲ規定シタルモノナリ本條ノ罪ヲ犯スニハ左ノ行爲ヲ要ス

- 一 暴行脅迫ヲ以テ其手段トナスコト
- 二 脅迫シテ現ニ被害者又ハ被害者ニ於テ救護スヘキ者ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對シ危害ヲ加ヘント言ヒナカラ財物ヲ強取シタル者

第一 強盜ノ場合ニ手段トスル暴行ハ物ヲ奪取スルノ手段タルコトヲ要ス故ニ盜取ノ意ナキトキニ人ニ暴行ヲ加ヘテ而シテ後ヲ物ヲ盜取スルノ意ヲ生シテ奪取スルカ如キハ強盜ニ非ス故ニ暴行ハ強盜着手ノ際ニ之ヲ爲スコトヲ要ス又其暴行ハ人ニ對シテ爲スコトヲ要シ物ニ對シテ之ヲ爲スハ本罪ノ暴行ニアラス又其人ハ財物ヲ盜取スルニ當リ妨害セシ者ヲ云フナリ

第二ノ脅迫ハ單ニ脅迫スルト持兇器脅迫トノ二アリテ持兇器脅迫ヲ以テ其罪ヲ重シトス而シテ脅迫ハ現ニ之ヲ爲スヲ云フ今此場ニ於テ被害スルトカ毆打スヘシトカ若クハ財産ニ對シ危害ヲ加ヘルトカ云フニ在リ而シテ脅迫ノ場合ノ人ハ被害者ニ限ラス被害者ノ救護スヘキ者即チ祖父母、父母、妻子等ニ對シテ脅迫スルヲモ本條ノ罪ヲ成スモノトス

前ノ方法ヲ以テ現ニ財物ヲ強奪セサルモ不法ニ人ノ得ヘキ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者モ亦強盜ヲ以テ論スルモノトス財産上ノ利益トハ總テ金錢ニ換ヘルコトヲ得ヘキ利益ヲ謂フ從テ新ニ物ノ上ニ權利ヲ得又ハ既ニ自己ニ屬スル財産ノ價額ヲ増スコト又ハ新タニ財産上ノ請求權ヲ得或ハ既ニ得タル請求權ヲ更ニ確實ナラシムル爲メ保證又ハ擔保ヲ得ルコト又ハ財産ノ義務ノ免除ヲ得ル場合ヲ云フ

**第二百三十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス**

(註)強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者トハ強盜ニ用フヘキ兇器ヲ所持シタル場合ノ如キヲ云フ豫備ヲ罰スルハ重キ罪ニ限ルモノニシテ而シテ豫備ハ既ニ危險ヲ生シタルモノナレハ之ヲ罰セサルトキハ犯人ハ其意思ヲ遂クルニ至ルモノナレハナリ

**第二百三十八條 竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス**  
 (註)本條ハ竊盜ノ所爲カ強盜ヲ以テ論スヘキニ至リタル場合ヲ規定スルモノニシテ左ノ行爲ニ因テ本罪ヲ構成スルモノトス

第一 財物ヲ得テ其取還ヲ拒クニ付暴行又ハ脅迫ヲ爲スコト 竊盜カ財物ヲ保管者ヨリ

盜取シテ自己ノ保管ニ移シタルトキ家人ノ見ル所トナリテ家人之ヲ取還サントスルニ因リ之ヲ拒クニ暴行ヲ加ヘ又ハ脅迫ヲ爲スヲ云フ

第二 逮捕ヲ免レントスル場合ノ暴行又ハ脅迫ヲ爲スコト 此場合ハ屋内又ハ屋外ニ在ルトヲ問ハス竊盜ヲ行ヒタルトキ巡查又ハ被害者等カ來リテ逮捕セントスルニ因リテ之ヲ免レン爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲スコト

第三 罪跡ヲ湮滅スル爲メナルコト 自己カ竊盜ヲ爲シタル證據ヲ滅失スル爲メニ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルコト

竊盜カ持兇器ノ場合アリト雖モ其兇器ヲ以テ脅迫セサレハ強盜ヲ以テ論スヘキモノニアラス竊盜ハ始メヨリ此兇器ヲ使用スルノ意思ナクシテ臨機應變ノ準備トシテ之ヲ攜帶スルノミ近時大審院判決例ニ左ノ如ク判決シタリ

苟モ人身ニ危険ナル器具ヲ攜帶シテ人ノ住居シタル邸内ニ入り竊盜ヲ爲スニ於テハ持兇器竊盜罪ヲ構成スルモノトス而シテ其兇器ハ竊盜ヲ行フニ當リ故ラニ之ヲ攜帶セシモノナルヤ否ヤ又顯然之ヲ攜帶シタルヤ否ヤハ問フ所ニアラス云々

然ラハ則チ兇器ノ意義甚タ廣シ苟クモ人身ニ危険ナル器具トアル以上ハ針一本ニテモ其使用ニ依リテハ随分危険ナルモノトナレハ之ヲ携ヘ居タル時モ持兇器竊盜トナルヘシ

**第二百三十九條** 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ

テ論ス

(註)本條ハ暴行脅迫ニアラサル他ノ手段ニ依リテ財物ヲ盜取シタル者ニ對シテ強盜ヲ以テ論スル場合ナリ

人ヲ昏醉セシムルトハ藥酒又ハ麻睡劑ノ如キモノヲ用ヒテ精神ヲ昏マシ睡眠セシムルヲ云フ此ノ行爲ヲ以テ財物ヲ盜取スルハ被害者之ヲ抗拒スルコト能ハサルモノナレハ被害者ハ其自由ヲ失ヒタルモノニシテ暴行又ハ脅迫ニ因リテ財物ヲ盜取シタルト同一ノ行爲ニ屬スルカ故ニ強盜ヲ以テ其罪ヲ論スルモノトス

**第二百四十條** 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

(註)強盜傷人罪ヲ成スニハ其暴行カ財物ヲ奪取スル手段タルコト、又ハ其實行中妨害ニ對スル所爲ナルヲ要ス故ニ強盜傷人ノ所爲ハ單一ノ犯罪ヲ構成シ強盜及ヒ傷人ノ二罪ヲ構成シタルモノニアラス又死ニ致スト云フモ殺スト云フ意思即チ死ノ結果ヲ豫期シタルニアラサル場合ト之ヲ豫期シタル場合トヲ包含ス

**第二百四十一條** 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

(註)本條ノ罪ヲ成スニハ強盜ノ目的ヲ以テ家宅侵入シタル場合ニ婦女ヲ強姦シタルノ罪ノミナラス先ツ婦女ヲ強姦シテ後チ強盜ヲ爲シタル場合ヲモ本條構成ノ條件トナルヘシ例ヘハ途中ニテ婦女ヲ強姦シ其婦女ノ所持シタル金錢物品ヲ強奪シタルトキハ強姦罪ト強盜罪トヲ併發シタルモノトセス此場合ニハ家宅侵入ナキモノニシテ家宅ニ侵入シタル時ニ限リリテ當初ニ強盜カ目目的タリシコト明カナリ

**第二百四十二條** 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

(註)本條ハ自己ノ財物ニシテ自己カ處分スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ關スル規定ナリ  
他人ノ占有ニ屬スルトハ例ヘハ質入シ又ハ抵當ト爲シタルトキハ其質取主又ハ抵當權者ノ占有ニ屬スルモノニシテ其實物又ハ抵當ノ債務ヲ辨濟セサル間ハ自己カ處分ヲ爲スコトヲ得サルモノナリ  
公務所ノ命ニ依リ他人ノ看守シタルモノトハ例ヘハ財産差押ヲ受ケタル物件ハ之ヲ公務所ノ保管スルモノトナリ自己ノ處分權ヲ失ヒタル場合ニシテ此等ノ場合ハ竊盜強盜ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做スモノナレハ之ヲ竊取又ハ強奪シタルトキハ竊盜又ハ強盜ヲ以テ論

スルモノトス

**第二百四十三條** 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(註)本條ハ新タニ設ケタル規定ニシテ現行ノ判例ニ於テハ強盜ノ目的ヲ以テ人ノ住所ヲ侵ストキハ之ヲ強盜ノ未遂罪ト爲スト雖モ此主義ヲ改メ強盜ノ未遂罪ハ強盜ノ實行ニ着手シタル後始メテ成立スルモノト爲シタルヲ以テ強盜ノ目的ヲ以テ人ノ住所ヲ侵ス場合ト單ニ其他ノ目的ヲ以テ人ノ住所ヲ犯ス場合トハ之ヲ分チ刑期其他ノ規定ヲ異ニスルヲ以テ本條ヲ設ケ第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰スルモノトス

**第二百四十四條** 直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百二十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス  
親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

(註)本條ニ掲クル親族其他ノ者ノ間ニ於テ竊盜罪ヲ犯シ及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル場合ニハ其刑ヲ免除スルモノトス是レ此等ノ親族ノ間ハ相互ニ救助ノ義務アルモノニシテ人情ニ於

テ之ヲ罪トスルハ道ニ非ストシテ本條ノ規定ヲ設ケタルモノナリ法律ハ道德ニ背戾シテ人ヲ罪スルモノニアラサレハナリ古人モ父ハ子ノ爲メニ隱シ子ハ父ノ爲メニ隱シ直キコト其中ニ在リト曰フ

其他ノ親族トハ傍系親族ニシテ叔伯父母從兄弟等ヲ云フ此等ノ者ノ間ハ直系血族トハ其情誼モ比較的薄キモノナレハ告訴スルトキニ限リ其罪ヲ論スルモノトス

親族又ハ家族ニ非サル者カ共犯ニシテ竊盜ヲ爲シタルトキハ親族ノ者カ其罪ヲ免除セラル、モ其共犯者ハ決シテ無罪タルヘキ者ニアラス即チ相當ノ罪ニ處セラル、モノナリ

### 第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

(註)電氣ハ經濟學上ニ所謂自然ノ財ニシテ空氣日光等ト同一ノ性質ノ物ナリシカ理學ノ進歩ニ從ヒ之ヲ日用ノ物トシテ使用スルニ至リタレハ之ヲ使用スルニハ其對價ヲ以テ使用セサルヘカラス故ニ法律上之ヲ財物ト看做シ若シ供給者即チ電燈會社ノ承諾ヲ得スシテ約束外ニ使用シタルトキハ竊盜ノ罪ヲ構成スルモノトス

### 第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

(註)舊法ハ本條ノ場合ヲ恐喝取財罪ト爲シタルモ改正法ハ暴行又ハ脅迫ノ意義ト其ノ區別頗ル不明ニシテ從來疑義ヲ生シタルヲ以テ強盜罪ノ場合ニ於テ明ニ其手段ヲ限定シ本章ニ於テハ之ヲ區別スルカ爲メニ第二百三十六條ニ記載シタル以外ノ脅迫ヲ用ヒ人ノ動産ヲ奪

取シタル場合ヲ規定シタルモノナリ

脅迫罪ノ脅迫ト恐喝ノ場合トノ區別ヲ爲サハ強盜罪ノ脅迫ハ精神ノ自由ヲ全ク失ヒ抗敵スルコト能ハサルニ至ル場合ヲ云ヒ恐喝ハ被害者ニ於テ精神ノ自由ヲ全ク抑壓セラレタルモノニアラスシテ之ニ對シ反抗スルコトヲ得ヘキモノトス脅迫ハ現ニ危害ノ迫リタル場合ナレトモ恐喝ハ現ニ危害ノ生スルニアラサルノミナラス其被害者ニ對シテモ亦直接ナル場合ト間接ナル場合トアレトモ脅迫ハ總テ直接ナルモノナリ恐喝ノ場合ハ被害者ニ於テ其精神ニ恐怖ヲ生セサルコトアルヲ以テ之ヲ親告罪ト爲シタルカ如キモ其身體ニ對シ現ニ危害ヲ生スヘキコトヲ以テスルニアラサルコト明カナリ例ヘハ財産ニ對シ或ハ其名譽ニ對シテ告訴スルトカ新聞ニ之ヲ掲載スルトカ云フカ如キ必ス其災害ノ後日ニ在ルコトヲ以テ被害者ノ精神ノ自由ヲ失ハシメントスルモノナリ

### 第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者八十年以下ノ懲役

ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

(註)本條ハ詐欺取財罪ノ場合ヲ規定シタルモノナリ

本條ハ左ノ要素ニ因テ犯罪ヲ構成スルモノトス

- 一 人ヲ欺罔スルコト 欺罔トハ全ク事實ノナキコトヲ有ル如クニ云フコト、其事實ノ一部ハ之アルモ其他ハ全ク無キ場合ト又眞實ヲ變更スルコトアリ何レノ場合ニテモ人ニ信ヲ措カシメ事實トシテ錯誤ニ陥ラシメタルハ欺罔シタルモノトナル而シテ其手段方法ノ如何ヲ問ハス假令ヒ單ニ虚言ヲ以テスルモ人ヲ欺罔スルニ足ルモノトス
  - 二 財物ヲ騙取スルコト 財物トハ廣ク動産ヲ云フ舊法ニハ證書類ヲモ財物トシタレトモ本條ニハ之ヲ明示セス此ノ財物ハ人ノ保管ニ係ルモノニシテ自己ノ保管ニ非サルモノナルハ勿論ナリ騙取トハ欺罔ヲ手段トシテ自己ノ保管ニ移スヲ云フ若シ欺罔ニ依ラサルトキハ騙取ト謂フヲ得ス即チ騙取ハ錯誤ヲ生セシメタル結果ナリ欺罔スルモ錯誤ニ陥ラサレハ財物ヲ騙取スルコトヲ得サレハナリ錯誤トハ眞實ニ相違スルコトヲ眞實ト信シタルヲ云フ
- 要スルニ先ツ欺罔ノ所爲アルヘク欺罔ニヨリテ錯誤ヲ生スルコトヲ要シ其結果トシテ財物ヲ交付セシメ騙取シタルトキハ本罪ノ既遂ナリ其財物ハ被害者ノ所有ナリト否トヲ問ハス唯タ自己カ處分スルコトヲ得ヘキ占有者ナルヲ要スルナリ
- 近キ判決例ニ依レハ左ノ如シ
- 人ヲ欺罔スルニ足ルヘキ詐言ハ取財ノ手段ト爲ルコトハ從來本院判例ノ認ムル所ナレハ虚言ヲ以テ人ヲ錯誤ニ陥ラシメ騙取ノ目的ヲ遂ケタル場合ハ詐欺取財ヲ完成シ其目的ヲ遂ケサリシ場合ハ未遂罪ヲ構成スルヤ疑ヲ存セス云々

ト是即チ騙取シタルヲ以テ既遂ノ場合ト爲シタリ又其ノ欺罔ハ事實カ現在ノ事ノミニ限ラス將來ノ事實ヲモ含ムモノトス例ヘハ吾カ町村ニ近々電鐵ノ布設アルカ故ニ彼ノ近傍ノ地面ヲ買フヘシ必ス地價ノ騰貴ニ依リテ利益ヲ得ルナリト欺罔シテ其地所ヲ高價ニ賣却スルカ如シ

本條第二項ノ規定ハ人ヲ欺罔スル手段ヲ以テ現ニ在物ヲ騙取シタルノミナラス其手段ニ依リテ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ此利益ヲ得セシムルモ亦同シク本罪ヲ成スモノトス

**第二百四十七條** 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

(註)他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者トハ財産管理人ノ如キ者ナリ他人ノ財産ヲ管理スルハ義務上ヨリ之ヲ爲ス者ト委託ヲ受ケテ之ヲ爲ストノ二個アリ何レノ場合ト雖モ私利ヲ營ミ自己ノ利益ヲ得ルコトヲ爲ス場合ヲ謂フ其他任務ニ背キタル行爲トハ他人ノ財産ヲ保管スル任務ニ在ル者カ其任務ニ非サル行爲ヲ爲シテ本人ニ損害ヲ加フルトキハ本罪ヲ成スモノトス此等ノ場合ハ民事ノ訴訟ヲ起シ損害賠償ヲ求ムル方法アリト雖モ實際ニ至テハ其賠償



ヲ受クルコト能ハサルト同一ニ歸シ且ツ其ノ行爲ノ治安ヲ害スルコトアルヲ以テ本條ヲ設ケタル所以ナリ

**第二百四十八條**

未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

(註)未成年者ハ思慮淺薄ニシテ事理ノ辨別至ラサルヲ以テ此等ノ者ヲ欺罔スルハ甚タ易キコトナリ又成年者ト雖モ精神耗弱ニシテ辨別心ノ不充分ナルニ乘シテ其保管セル財物ヲ交付セシメ自己ノ所持ニ移シタル場合例ヘハ汝ノ所持スル金錢ハ偽造ナルヲ以テ通用セス之ヲ所持スルトキハ犯罪者ナリト云ヒ之ヲ交付セシムルカ如シ又不法ニ財産上ノ利益ヲ得ルコトヲ要ス不法トハ權利侵害ノ行爲ヲ云フ即チ法律ノ保護スル利益ノ侵害ナリ

**第二百四十九條**

人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

(註)本條ハ人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル場合ノ規定ナリ

恐喝取財ノ恐喝ハ不法ニ自己又ハ第三者ヲシテ財産上ノ利益ヲ得セシムル目的ヲ以テ他人ノ自由ノ意思ヲ制限シ財産上ノ處分行爲ヲ強制スルコトヲ云フ財産上ノ處分行爲トハ自己ノ財産ヲ恐喝者ノ意思ニ從ヒ交付スル等ノコトヲ爲スヲ云フ例ヘハ家屋地所等ノ所有者名義ヲ恐喝者ノ名義ニ書替ヘシムルカ如キモ財産上ノ處分行爲ナリ而シテ恐喝ハ恐喝者ニ於テ直接又ハ間接ニ危害ヲ加フヘキコトヲ以テ手段トスルノ外ニ人間ノ行爲ニ關セサル天災又ハ神ノ祟ヲ説クコトヲ以テ手段トスル場合ヲモ包含スルモノトス

**第二百五十條** 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(註)本章モ亦未遂罪ヲ罰スルモノトス是レ本罪ノ如キハ弱者及ヒ未成年者又ハ精神耗弱者ノ如キ抗拒スル能ハサル者又ハ知識ノ十分ナラサル者ヲ害スル者ナレハ其情狀憎ムヘキ所爲ナルヲ以テナリ

**第二百五十一條** 本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ

**第二百四十五條**ノ規定ヲ準用ス

(註)本條ハ意義明了ナレハ之ヲ略ス

**第三十八章** 横領ノ罪

(註)舊法ハ受寄物費消罪ニ關シテハ唯タ金額物件ニ關シテノミ規定ヲ設ケ不動産ニ關スル

場合ハ其規定ナキヲ以テ改正法ハ本章ニ於テ明ニ他人ノ爲メ占有スル物ヲ横領シタル罪ト爲シ本章ノ適用ヲ全フセリ

舊法ハ受寄物ヲ費消スルカ又ハ騙取、拐帶等ノ行爲ヲ爲スニ非サレハ罪ト爲サ、ルヲ以テ單ニ受寄ノ財物ヲ自己ノ物ト爲シタル場合ニ在テハ何等ノ罪ヲモ構成セス故ニ被害者ハ唯民事上ノ救済ヲ求ムルノ外ナク其保護極メテ薄弱ナリシヲ以テ改正法ハ改メテ費消又ハ拐帶スルニ至ラスト雖モ既ニ横領ノ行爲アリタル場合ニハ之ヲ罪トシ以テ此弊害ヲ濟フニアリ

舊法ハ受寄ノ財物ニ關シ業務上他人ノ爲メニ占有スル場合ハ否ラサル場合トノ區別ヲ爲サスト雖モ業務ニ因リ他人ノ爲メニ占有スル場合ハ通常ノ場合ト異ナリ自カラ保管ノ責アルノミナラス一方ニハ交通取引ヲ妨ケ社會ノ信用ヲ害スルコト甚大ナルヲ以テ此二者ヲ區別シ各別ノ規定ヲ設ケタリ

**第二百五十二條** 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

(註)本條ハ舊法ノ冒認罪及ヒ受寄物財産費消罪ト同シ今左ニ此二罪ノ如何ナルモノナルカ

ヲ説明スヘシ

- 一 冒認罪トハ他人ノ動産不動産ヲ自己ノ所有物ノ如ク處分スルヲ云フ例ヘハ自己カ借り居ル家ヲ自己所有ノ如ク詐リテ之ヲ賣却スルカ如シ冒認トハ一言セハ他人ノ物ヲ自己ノ物ナリト言ヒテ處分スルコトヲ云フ
- 二 受寄物トハ他人ヨリ委託セラレ預リ居ルモノニシテ何時ニテモ眞ノ所有主ニ返還スヘキ義務アルモノナリ之ヲ自己ノ物ノ如ク費消スルトキハ受寄物費消罪ニ問ハル、モノナリ

本條ノ第一項ハ右二個ノ場合ト同一ノ意義ニシテ占有トハ未タ完全ニ自己ノ所有物タラサルモ或時期ニ達スルトキハ時効ニヨリテ自己ノ所有ニ歸スルモノナリ然ルニ本條ノ場合ハ一時他人ノ物ヲ預リ占有シ居ル場合ナレハ之ヲ自己ノ所有ノ如ク言ヒテ或ハ賣却シ質入シ又ハ抵當權ヲ設定スルトキハ即チ他人ノ物ヲ横領シタルコト、ナルモノナリ

第二項ハ自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合例ヘハ差押ヲ受ケタル物件ヲ自己ニ保管ヲ命セラレタル如キ場合ヲ謂フ財産差押ヲ爲シタルトキハ多クハ本人ニ保管ヲ命スルナリ此場合ニ於テ之ヲ處分シタルトキハ横領罪トナルナリ

**第二百五十三條** 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

(註)業務上他人ノ爲メニ物ヲ占有スル場合トハ例ヘハ倉庫會社カ他人ノ荷物ヲ預リ又ハ運輸會社カ他人ノ荷物ヲ預リタル場合ノ如シ此等ハ他人ノ爲メニ便宜ノ業務ヲ爲スニ付テ他人ノ物ヲ占有スルモノニシテ此ノ荷物ヲ自己ノ物ト處分スルトキハ即チ之ヲ橫領スルモノナリ此等ノ業務ヲ爲ス者ハ保管ノ責任アルノミナラス一方ニハ交通取引ヲ妨ケ社會ノ信用ヲ害スルニ至ラシムルモノトス

**第二百五十四條** 遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ橫領

シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

(註)遺失物ハ一時所有主ノ手ヲ離レタルモノト無主物ニアラサレハ其所有主カ顯ハレタルトキハ之ヲ交付スヘキ物ナルニ直チニ之ヲ橫領スルトキハ本罪ヲ構成スルモノトス明治三十二年三月法律第八十五號遺失物法ノ規定アリ其第一條ニ曰ク

他人ノ遺失シタル物件ヲ拾得シタル者ハ速ニ遺失者又ハ所有者其他物件回復ノ請求權ヲ有スル者ニ其物件ヲ返還シ又ハ警察官署ニ之ヲ差出スヘシ但シ法令ノ規定ニ依リ私ニ所有所持スルコトヲ禁シタル物件ハ返還スルノ限リニアラス

漂流物トハ洪水ノトキ河川ニ多ク流レ來テ岸ニ漂着スルコトアリ其他常ニ河海ニ漂流物ヲ拾得スルコトアリ此物モ無主物ナルニ非ヌ一時所有主ノ手ヲ離レタルモノニシテ後日所有主カ現ハル、コトアレハ直チニ警察署ニ届出テ自己ニ占有スルモノニアラス

其他占有ヲ離レタルモノトハ例ヘハ鳥獸ノ如キ飼養者ノ手ヲ離レテ他ニ飛來リ逃レ來ルコトアルカ如シ此等ノ物モ飼養者カ追放シタルモノニアラサルヲ以テ之ヲ飼養者ニ交付セザルヘカラス

**第二百五十五條** 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

(註)本章ノ罪モ亦第二百四十四條ノ場合ノ如ク直系血族及ヒ同居ノ親族間ニ於テ爲シタル行爲ナルトキハ橫領ノ罪トナラス其他ノ親族間ニ於テ爲シタルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スルモノトス

### 第三十九章 贓物ニ關スル罪

**第二百五十六條** 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ

千圓以下ノ罰金ニ處ス

(註)本條ハ贓物ニ關スル犯罪ノ規定ナリ

本罪ヲ構成スルニハ左ノ要素ニ因ルモノトス

第一 贓物ナルコトヲ要ス 贓物トハ強竊盜其他詐欺取財其他ノ犯罪ニ依テ得タル物件ヲ謂フ此等ノ物件カ如何ニシテ得タルモノナルヤヲ問ハス總テ不正ノ所爲ニ依リ得タ

ル物ニ在リ

第二 本罪ヲ構成スルノ所爲 贓物ハ必ス犯人ノ手ヨリ之ヲ賣買交換譲渡シテ爲シテ之ヲ取得スルモノナレハ此等ノ間ニ立チ周旋スル者アリ是本章ノ罪ノ共犯者トモ謂フヘキ者ナリ今之ヲ擧クレハ左ノ如シ

- (1) 寄藏 不正ノ盜品等ナルコトノ情ヲ知り直接間接ニ寄託ヲ受ケテ隠匿スル者
- (2) 故買 不正ノ品ナルコトヲ情ヲ知リテ賣買交換スル者ヲ云フ
- (3) 牙保 是亦不正ノ品ナルコトヲ知リテ讓渡人ト讓受人トノ間ニ立テ其媒介ヲ爲ス者ヲ云フ

(4) 運搬 不正ノ品ナルコトヲ知リ犯罪場所又ハ賣買交換等ノ場合ニ他所ニ運搬スル者ヲ云フ

右ノ者等ハ贓物ニ依リ利ヲ得ントシテ間接ニ受渡スル者ニシテ共犯者ノ如クナレトモ共犯ニアラスシテ獨立ノ一罪ナリ  
贓物ヲ收受スル者トハ盜品等ノ不正品ナルコトノ情ヲ知リテ之ヲ犯人ヨリ受取ル者ニシテ、貸借、贈與、質取主トナル如キ者ヲ云フ

要スルニ本罪ハ前ニ犯罪ニ依テ取得セラレタル不正ナル財産ノ狀況ヲ更ニ安固ナラシメ以テ前ノ犯罪ニ於ケル被害者ヲシテ被害物件ニ關スル返還請求權ノ行使ヲ更ニ困難ナラシムルニ在ルナリ

**第二百五十七條** 直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者

ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

(註)本條ハ説明ヲ要スル事項ナキヲ以テ之ヲ略ス

**第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪**

**第二百五十八條** 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本章ハ文書及ヒ財物ヲ毀棄隱匿スル罪ヲ規定シタリ文章ニハ公務所ノ用ニ供スル文書ト一私人ノ權利義務ニ關スル文書トノ二種アリ

本條ハ公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル場合ナリ公務所ノ用ニ供スル文書トハ行政及ヒ司法上ノ事務ニ取扱フヘキ總テノ文書ニシテ人民ヨリ差出シタル文書モ一旦公務所ニ受理シタルトキハ公務所ノ文書トナルヘシ其他帳簿ニ至ルマテ包含ス唯タ何時ニテモ作製シ得ラル、往復文書即チ手簡ノ如キモノハ包含セス而シテ文書ヲ毀棄スルトハ破損セシメテ使用スヘキ效用ヲ失フニ至ルヲ云フ

**第二百五十九條** 權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五

年以下ノ懲役ニ處ス

(註)本條ハ一人ノ文書ヲ毀棄スル場合ヲ規定シタルモノナリ  
權利、義務ニ關スル文書トハ賣買、貸借、贈與、讓渡讓受等ノ金錢物品ニ關スル文書ヨリ  
遺言書家督相續其他ノ契約ニ關スル權利義務ニ關スルモノハ總テ之ヲ含ムモノトス但法律  
關係ナキモノハ茲ニ所謂權利義務ニ關スル證書トハ謂フヘカラス

第二百六十條 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲

役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ  
處斷ス

(註)本條ハ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ニ付テノ規定ナリ

建造物トハ家屋、倉庫、工場其他學校等ノ建設ニ係ルモノハ之ヲ包含ス之ニ附屬スル戸障  
子、門戸、牆壁ノ如キモ建造物中ニ包含スヘキモノトス而シテ其一部ト全部トヲ問ハス其  
使用ニ堪ヘサルニ至ラシメタレハ本罪ヲ成スモノトス艦船ノ如キモ亦然リ而シテ一部ノ場  
合ハ門戸、牆壁又ハ艦船ノ一部分ニシテ全部ノ使用ニ何等ノ差支ナク實際小部分ノ如キハ  
本罪ヲ成サス苟モ家屋ハ家屋トシテ其儘ニテ住居スルコト能ハサルニ至ラシムルヲ云フ

第二百六十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル

者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

(註)前三條ニ記載シタル以外ノ物トハ動産タル器物ノ如キ又ハ牛馬鳥類ヲモ含ムナリ而シ  
テ器物ハ損壞ノ爲メニ其價值ヲ減スルト否トヲ問ハス唯タ其形ヲ損壞シタルトキハ本罪ヲ  
構成ス是レ毀棄ノ場合ト異ナル所ナリ毀棄ノ場合ハ其物質ヲ害シタルニヨリ其物ノ效用ヲ  
失フニ至ルヲ云フ故ニ文書ヲ毀棄シタルモ其效用ヲ失フニ至ラサルトキハ本罪ヲ構成セス  
ト謂フヲ至當トス然レトモ器物ニ付テハ僅カニ一部ヲ損壞スルモ其用ヲ失フニ至ルヲ通常  
トスレハナリ

第二百六十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸

シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

(註)本條ノ趣旨ハ從來屢々述ヘタル事項ナレハ重テ茲ニ之ヲ説明スルノ必要ナケレハ之ヲ  
略ス

第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ

禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

(註)本條ハ他人ノ信書ヲ隱匿シタル罪ヲ規定シタルモノナリ  
前ノ第十三章ノ規定ハ他人ノ信書ノ秘密ヲ侵ス罪ナリシカ本條ハ秘密ヲ侵スト否トヲ問ハ  
ス他人ノ信書ヲ隱匿スルヲ以テ犯罪ヲ構成スルモノナリ隱匿スレハ其信書ハ終ニ之ヲ送達

スルコト能ハスシテ宛名人ノ手ニ入ルコトナシ是レ本條カ信書ヲ保護スル必要ヨリシテ比較的罪責ヲ重クシタル所以ナリ

**第二百六十四條 第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス**

(註)本條ニ掲クル場合ヲ親告罪ト爲シタルハ被害者ニ於テ却テ面倒ニ感スル場合ト名譽ヲ毀損スルカ如キコトナントセサルヲ以テ被害者ノ意思ニ任スコトヲ利益トシタル法律ノ精神ナリ

## 改正刑法釋義終

### 刑法施行法

(明治四十一年三月法律第二十九號)

(註)法律ニハ實體法ト形式法トアリ實體法トハ法律其物カ直接實物ニ就テ行ハル、所ノモノヲ謂フ即チ商法、民法、刑法ノ如キモノ是ナリ而シテ此等ノ法律ハ固ト死物ニシテ活物ニ非サレハ自カラ實地ニ應用スルコトヲ得ス之ヲ應用スル法律ヲ形式的法律ト謂フ即チ民事訴訟法刑事訴訟法及ヒ此ノ施行法ノ如キ手續法ナルモノ是ナリ故ニ實體法ト形式法トハ相須テ行ハル、モノニシテ單獨ニ行ハル、モノニ非サルヲ常トス然ラハ則チ實體法新規ニ發布セラレタルトキハ必ス之カ手續法ノ發布モ伴ハサルヘカラス而シテ刑法ノ如キハ刑事訴訟法ノアルアリテ其手續法備ハレリト雖モ刑事訴訟法ハ刑罰ヲ適用スヘキ手續ニシテ刑法ノ改正廢止ノ條項ニ付テ其ノ運用法ヲ規定シタルモノニアラス是レ本法ノ發布アル所以ナリ

**第一條** 本法ニ於テ舊刑法ト稱スルハ明治十三年第三十六號布告刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ刑法施行前ニ公布シタル法律及ヒ勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

(註)本法即チ此施行法ニテ舊刑法ト稱スルモノハ新刑法ノ實施セラル、マテ行ハレタル明治十三年發布セラレタル第三十六號布告刑法ヲ謂フナリ他ノ法律ト稱スルハ今回改正發布

セラレタル刑法ノ施行セラル、以前ニ公布ニナリタル法律及ヒ勅令、布告ハ改正刑法ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フトス何トナレハ此等ノ勅令、布告ニモ刑罰ヲ定メタル條項アルヲ以テ此ノ條項ニシテ刑法ト同一ノ效力ヲ有スルモノハ刑法ノ規定ニ依ラスシテ其刑罰ハ行ハル、ヲ以テナリ唯々特ニ刑法ノ規定ニ從フヘシト云ヒタルモノハ此限ニ在ラサルナリ

**第二條** 刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ主刑ト舊刑法ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其輕重ヲ定ム

刑法ノ刑

舊刑法ノ刑

死刑

死刑

無期懲役

無期徒刑

無期禁錮

無期徒刑

有期懲役

有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮

有期禁錮

有期徒刑、重禁獄、輕禁獄、輕禁錮

罰金

罰金

拘留

拘留

科料

科料

(註)本條ハ改正法ト舊刑法トノ罪ノ對照方法ヲ規定シタルモノナリ

刑罰ハ既往ニ遡ラサルヲ原則トスルヲ以テ刑法ノ改正アリタルトキハ其刑法施行前ニ犯シタル罪ト施行後ニ犯シタル罪ト又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル場合ニ當リ其ノ罪ヲ處斷スルニ新刑法ヨリ重キ罪ニ罰スルコトヲ得サルモノナレハ其犯罪ノ當時ト新刑法施行後ト異ナルトキハ如何ニシテ其ノ輕重ヲ定ムルヤハ疑義ノ生スル處ナレハ本條ハ此ノ場合ニハ新刑法ノ主刑ト舊刑法ノ主刑トヲ對照シテ新刑法第十條ノ規定ニ依リテ其輕重ヲ定ムルモノトス

元來刑ノ輕重ハ刑名ニ依ルモノニ非ストシテ其ノ輕重ハ死刑ヲ除クノ外ハ刑期ノ長短金額ノ多寡ニ依リ輕重アルモノナレハ必ス刑名ニ因ルモノト云フヘカラス故ニ同シク懲役ト雖モ無期有期アリ有期ノ中ニモ亦長短アリ加之ス新法第十條ノ規定ニ依ルトキハ懲役ハ禁錮ヨリ重キ性質ノ罪ナレトモ有期禁錮ノ長期カ有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス其他二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ムルモノトス

本條カ輕重ヲ定ムル例ヲ掲ケタルハ唯々其ノ性質ノ同シキ刑ノ種類ヲ對照シタルモノナレ

ハ其同種ノ刑ニ付テモ期間ノ長短金額ノ多寡アルトキハ之ヲ斟酌シテ其輕重ヲ定ムルモノトス

新刑法ニ無期懲役トシタルモノハ舊法ノ無期徒刑ニ相當シ無期ノ禁錮ハ舊法ノ無期流刑ト相對照スルモノトアルニ依レハ舊法ノ當時ニ無期流刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者ヲ罰スルニ無期懲役ヲ以テスレハ新法ニ於テ重ク罰スルコト、ナルハ其性質上懲役ハ流刑ヨリ重キモノナレハナリ然レトモ新法ノ有期懲役ニハ舊法ノ有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮ノ數種ヲ合セタルモノナレハ舊法ノ數種中刑期ノ長短ヲ斟酌シテ定メサルヘカラス

其他罰金ニ就テモ舊法ハ二圓以上トシ新法ハ二十圓以上トスルカ如キ若シ此ノ場合ニ二十圓以下ノ罰金ヲ科スル罪ニ該ル者ニハ舊法ヲ適用シテ其輕キニ從ハサルヘカラス

**第三條** 法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトキ又ハ酌量減輕ヲ爲ス可キ

トキハ加重又ハ減輕ヲ爲シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

數罪ヲ犯シタル者ニ付テハ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科ス可キトキ又ハ二個以上ノ主刑中其一個ヲ科ス可キトキハ其中ニテ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲ス可シ

併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ數罪ノ主刑ヲ併科ス可キトキ亦同シ

(註)本條ハ刑ノ對照ヲ爲スニ刑ヲ加重減輕シ又ハ酌量減輕ヲ爲スヘキトキニ其對照ノ方法ヲ規定シタルモノナリ

刑ノ對照ヲ爲スノ必要ハ新舊刑法刑ノ輕重アルニ依リ其刑孰ニ從ヒ處斷スヘキモノトスルヤニ付テ其輕キ刑ヲ適用スヘキ爲メニ爲スモノナレハ法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトキ又ハ酌量減輕ヲ爲スヘキトキハ加重又ハ減輕ヲ爲シタル後ニ刑ノ對照ヲ爲スヘシトス是レ酌量減輕ノ如キ裁判官ニ其自由ヲ與ヘタルモノナレハ死刑ニ該ルヘキ犯罪モ之ヲ酌量シ無期徒刑ニ減輕スルコトヲ得ヘケレハナリ尙ホ舊法ニハ輕罪ノ刑ニ付テハ一等又ハ二等ヲ減スルモ其減等ノ法ハ本刑ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲スカ故ニ犯人ハ猶ホ本刑ノ範圍内ニ於ケル刑期金額ニ處セラル、コトアルヘク隨テ酌量減輕ノ利益ヲ受ケサル場合ヲ生スヘシ又加重ノ場合ニモ舊法ニハ重罪ノ刑ニ在リテハ刑名一ヲ以テ一等トナスモ新法ハ重罪輕罪ノ刑名ヲ廢シタルハ加重スルニ處死刑ヲ除クノ外ハ刑期ノ長短ニ依リテ刑名ニ依ラス故ニ新法ニ加重減輕シテ後チ舊法ノ刑ト對照スヘシトス

舊法ニハ數罪俱發トシ新法ニハ併合罪トシテ其適用法ヲ異ニスルヲ以テ舊法當時ノ數罪俱發ヲ犯シタル者ニ對シテハ新法ノ併合罪ニ關スル規定ヲ適用シテ其刑ノ定リタル後ニ對照



スルモノトス

第三項ハ二個以上ノ主刑ヲ併科スヘキトキハ其中ノ重キ刑ノミニ付テ又併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ二個以上ノ主刑ヲ併科スヘキトキモ亦其中ノ重キモノニ付テ對照スルモノトス例セハ舊法第百條新法第四十七條ノ場合ニ對照スルカ如キ是ナリ

**第四條**

刑法施行前舊刑法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ告訴ヲ待テ論ス可キ罪ヲ犯シタル者ハ刑法ノ規定ニ依リ告訴ヲ要セサルモノト雖モ告訴アルニ非サレハ其罪ヲ論セス

(註)本條ハ被害者ノ利益即チ名譽ヲ保護スルノ規定ナリ

刑法施行前ニ舊刑法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リテ親告罪ヲ犯シタル者ハ新法ニハ親告罪トセサル犯罪ナリトスルモ舊法等ノ規定ニテ親告罪ト認メタルモノハ之ヲ親告罪トスルハ被害者ノ利益ナルコト、シタルモノナリ

**第五條**

刑法第六條ニ依リ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テ剝奪公權、停止公權、監視又ハ罰金ヲ附加ス可キトキト雖モ之ヲ附加セス

(註)刑法第六條ハ犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用スルノ規定ナリ而シテ附加刑ヲ科スルハ其刑ヲ重ク罰スルトキニ限ルヲ以テ輕キ刑ヲ適用スル趣旨

ニ附加刑ヲ科スルハ其當ヲ得サルモノトス且ツ本條ニ掲クル如キ附加刑ハ新法ニハ之ヲ削除シテ附加セサルモノトシタルハ刑名ヲ廢シタルモノヲ科スルノ必要ナシ是レ舊法ハ重ク新法ハ輕ケレハ其輕キニ從フハ原則ナリ

**第六條**

刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行ノ前又ハ後ニ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル

- 一 確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス
- 二 確定裁判アリタル罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用シタルトキト雖モ舊刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ數罪俱發ニ關スル規定ニ依ル

(註)本條ハ舊法時代新法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ其確定裁判ハ刑法施行ノ前又ハ後ニアリテ唯タ其施行以前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ裁判ヲ爲ス時ノ例ヲ規定シタルモノナリ其例ハ即チ左ノ如シ

一 舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シテ確定裁判アリタル罪ト雖モ其罪ト確定裁判後ニ發覺シタル餘罪トノ關係ハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リテ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ併合罪ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス

二 本項ハ前項トハ反對ノ場合ニシテ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用シテ確定裁判アリタル罪ト雖モ其罪ト餘罪即チ未タ確定裁判ヲ經サル罪トニ付テハ舊刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依ルトシタリ

是レ第一ノ場合ハ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルモ第二ノ場合ハ新刑法又ハ他ノ法令ニ依リテ適用シタルヲ以テ舊法ノ規定ナル數罪俱發ノ例ニ依ルトシタルモノハ第一ノ場合ハ刑法施後ニ確定裁判アリタルモノニシテ第二ノ場合ハ刑法施行前ナルヲ以テナリ

**第七條**

左ニ記載シタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期懲役ニ相當スル

刑ニ該ル罪ヲ犯シ刑法施行後其罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

一 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者

二 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪

ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ニ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用ス

(註)本條ハ刑法施行前ニ或ル罪ヲ犯シ又更ニ一罪ヲ犯シタル者カ刑法施行前ニ新刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ナルトキ刑法施行後其罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキノ適用例ヲ規定シタルモノナリ而シテ其犯罪者ハ左ノ第一第二號ニ記載シタル者ニ限ルコト、シタリ此等ノ者ヲ新刑法施行後ニ裁判ヲ爲ストキハ新刑法又ハ新刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス是レ孰モ舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ新刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者ナルヲ以テナリ

**第八條** 刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キト雖モ其罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

(註)本條モ亦併合罪ノ場合ヲ規定シタルモノナリ

刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ罪シタル一罪又ハ數罪トニ付テ之ヲ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ併合罪ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス是レ法律ハ新舊比照スルトキハ其輕キ被告ニ利益ナルモノヲ適用スルニ在リテ本條ノ場合ハ單ニ舊刑法ノ時代ニ犯シタル罪ノミニ非スシテ新法施行後ニ犯シタル罪ト同時ニ裁判ヲ爲スベキヲ以テナリ而シテ假令ヒ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スヘキトキト雖モ其罪即チ新刑法施行前ノ罪ト新刑法施行後ノ罪トニ付テハ併合罪ニ關スル規定ニ依リ處斷スルモノトス

**第九條**

刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一ノ重キ罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用ス可キトキハ其數罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

(註)舊刑法ニテハ數罪俱發ノ場合ニ其ノ罪ノ中ニ一ノ重キモノニ就テ刑ヲ適用スルモノト

シ新法ハ併科主義ヲ採リタルヲ以テ本條ノ如キ場合即チ刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ストキニハ刑法施行前ノ罪ニハ一ノ重キ罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス然レトモ刑法施行前ノ罪ニ刑法又ハ本法ニ依リ刑名ヲ變更セラレタル他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ其ノ刑法施行前ノ數罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用スルモノトス

**第十條**

刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ其罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ確定裁判アリタル罪ト其罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

(註)本條ハ新刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタル後新刑法施行前ノ餘罪カ發覺シタル場合ヲ規定シタリ

併合罪ハ確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トシ其中ノ一罪ニ付テ確定裁判アリタルトキハ其確定裁判アリタル罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トスルハ刑法第四十五條ノ規定スル所ナリ本條ハ即チ此ノ規定ノ適用ノ場合ヲ規定シタルモノナリ

**第十一條**

刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行後確定裁判アリタ

ル後刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

(註)刑法施行前ニ犯シタル罪カ刑法施行後ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シテ確定裁判アリタルニ其後即チ刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付テ裁判ヲ爲スニハ前ノ確定裁判アリタル罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス本條ノ規定ハ刑法第五十條ノ場合ニ適應スヘキモノナリ

**第十二條** 第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行後有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

(註)第七條第一二號ニ記載シタル者ハ同條ニ於テハ新刑法施行前ニ其ノ刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ヲ犯シテ刑法施行後其罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ノ刑ノ適用ヲ規定シタルモ本條ハ同條ト反對ニシテ刑法施行後有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタル場合ノ規定ナリ而シテ本條ノ場合モ累犯ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ併合罪ニ付キ處斷セラレタル者カ其併合罪中懲役ニ處ス可

キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ之ニ再犯例ヲ適用スルトキハ其刑ハ懲役ニ處セラレタルモノト看做スノ規定ナリ而シテ此規定ハ併合罪ニ關スルモノナルヲ以テ舊法ノ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用スルハ本法第七條第二項ノ規定ナリ右ノ規定ハ本條ノ場合ニモ亦之ヲ準用ストシタリ是レ兩條トモ累犯ニ關スル規定ヲ準用スル場合ナレハナリ

**第十三條** 刑法施行後ハ舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法令ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ刑ノ執行、假出獄及ヒ時効ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニ於テハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所決定ヲ以テ其言渡ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ第二條及ヒ明治十四年第八十一號布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ  
舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ於ケル時効期間ノ起算及ヒ時効ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

(註)本條ハ刑ノ執行、假出獄及ヒ時効ニ付テ新舊刑法孰レニ依ルヤノ場合ヲ規定シタルモ

ノナリ

舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法律命令ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ新刑法施行後ハ刑ノ執行假出獄及ヒ時効ニ付テハ新刑法ノ規定ヲ準用スルモノトス法律ノ效力ハ既往ニ遡ルコトヲ得サレトモ此等ノコトハ新法ニ依ルモ既得權ヲ害スルコトナキノミナラス却テ囚人ニ利益ナルコトアレハ何等ノ支障ヲ見ルコトナシ  
然レトモ罰金又ハ科料ニ處セラレタル者ハ自由刑ト異ナレハ本人ノ意思ニ從フ場合アルヲ以テ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニ於テハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所ノ決定ヲ以テ其言渡ヲ爲スヘシトス

舊刑法ノ刑ノ執行、假出獄及ヒ時効ノ規定ト新刑法ノ規定トハ異ナルモノナレハ如何ニシテ之ヲ準用スヘキヤト云フニ此ノ場合ニハ本法第二條及ヒ明治十四年第八十一號布告第一條ノ例ニ依リテ主刑ヲ對照スヘキモノトス例ヘハ舊法ノ刑ハ無期徒刑ニ處セラル、者ナルトキハ新法ノ無期徒刑ト對照シ又假出獄ノ場合ニハ舊刑法ハ有期徒刑ニ付テハ其刑期四分ノ三、無期徒刑ニ付テハ十五年ヲ經過シタル後假出獄ノ恩典ヲ與フルコト、爲シタリト雖モ改正法ハ有期徒刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期徒刑ニ付テハ十年ト爲シタレハ對照シテ適當ニ之ヲ準用セサルヘカラス時効ニ付テハ舊法ノ無期徒刑ハ二十五年トシタレトモ新法ハ無期徒刑又ハ禁錮ニ二十年ト改メタルヲ以テ之ヲ對照スルトキハ其輕キ方二十年ヲ以テ時効ヲ完成セシメサルヘカラサルカ如シ

舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ於ケル時効期間ノ起算及ヒ時効ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フモノトス期滿免除ハ刑ノ執行ヲ通レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ缺席裁判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ストシタリ而シテ新法ハ刑期ハ總テ裁判確定ノ日ヨリ起算スルモノトスルニ依リ新法ニ依ルトキハ犯人ニ不利益ナルコトアルヲ以テ舊法ノ期滿免除ニ從フモノトスルニ在リ又時効ノ中斷ハ舊法ハ逮捕ヲ命シタル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ストシタリ新法ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ依リ之ヲ中斷シ罰金科料及ヒ沒收ノ時効ハ執行ヲ爲テ爲シタルニヨリ之ヲ中斷スト爲シタリ此ノ如ク異ナル點アリテ舊法ニ依ルヲ利益トシテ本條ハ舊法ノ期滿免除ニ關スル規定ニ從フモノトス

#### 第十四條 刑法施行後ハ舊刑法ノ刑ニ處ス可キ者ト雖モ刑ノ施行猶豫

ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

(註)舊法ノ刑ノ執行猶豫ハ死刑ト懷胎ノ婦女子ニ付テノミ之ヲ設クト雖モ新法ハ此ノ他猶ホ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル者ノ情狀ニ一年以上五年以下ノ期間内其ノ執行ヲ猶豫シ其期間内再ヒ刑ヲ犯サ、ル者ハ刑ヲ全免スル者トシタリ大ニ犯人ニ恩典ヲ與ヘタル規定ナレハ新法ノ規定ヲ準用ストシタリ尤モ此ノ場合ニハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對

照ヲ爲ス可シトス

**第十五條**

刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス  
刑法施行前罰金又ハ科料ヲ納完セサル爲メ輕禁錮又ハ拘留ニ換ヘラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法第十八條及ヒ第三十條ノ規定ヲ準用ス但留置ノ日數ハ其執行ノ日ヨリ起算シ刑法第十八條ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

(註)假出獄ニ付テ舊法ト異ナル所ハ前ニ述ヘタルカ如シ本條ノ規定ハ舊法ニテ假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉ヲ免セラレタル者ハ新刑法施行ノ日ヨリ新法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス然ラハ則チ其假出獄中ニ新法第二十九條ニ該當スル處爲アリタルトキハ同條ノ規定ニ依リ之ヲ取消スコトヲ得ヘキナリ

又舊法ニ依リ罰金又ハ科料ヲ納完セサル爲メ輕禁錮又ハ拘留ヲ換ヘラレタル者ニ付テハ新法施行ノ日ヨリ新法第十八條ノ規定ニ從ヒ完納スルコト能ハサル者ニ付テ留置スルコト、ス而シテ留置ノ期間ハ新法施行ノ日ヨリ起算シテ第十八條ノ期間ヲ超ユルコトヲ得サルモノトス若シ舊法ノ規定ニ依リ幾分ヲ經過シタルトキナラハ新法ノ期間ト通算シテ新法ノ期間内ニ止ムルモノトス

又舊法ニ依リ輕禁錮又ハ拘留ニ換ヘラレタル者モ新法施行ノ日ヨリ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許サル、コトアルヘキナリ

**第十六條**

懲治場留置ノ執行ハ刑法施行後ト雖モ從前ノ例ニ從フ但司法大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感化院ニ入院セシムルコトヲ得

(註)舊法ニハ懲治場留置ノ執行ノ規定アリタレトモ新法ニハ此等ノ規定ナキヲ以テ新法施行後ト雖モ舊法ノ規定ニ從フモノトス但司法大臣ニ於テハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感化院ニ入院セシムルコトヲ得ルモノトス元ト此等ノ者ハ幼年者ノ智識未タ十分ナラサルモノ、爲メニ設ケタル懲罰法ナルヲ以テ單ニ懲治ノ效ヲ奏スルニ止マルモノナレハナリ

**第十七條**

闕席判決ヲ以テ言渡シタル刑ノ時効期間ハ其言渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス

(註)刑ノ時効期間ハ裁判確定ノ日ヨリ起算スルモノナレトモ若シ闕席判決ノ場合ノ刑ノ時効間ハ其ノ規定ナキヲ以テ疑ヲ生スルカ故ニ本條ハ之ヲ規定シテ對席判決ノ場合ト同シク裁判言渡ノ日ヨリ之ヲ起算スト爲シタリ

刑法ニ於テ述ヘタルカ如ク闕席判決ハ被告人カ故障又ハ控訴ヲ爲スコトヲ得ヘキモノナレ

ハ或ル手續ヲ以テスルニ非サレハ確定セサルモノトス然ルトキハ其ノ條件ノ具備スルニ非サレハ語ヲ換テ云ハ、控訴上告ノ手續ヲ了ルカ又ハ其期間ヲ經過スルニ非サレハ宣告シタル刑ハ執行力ヲ生セス隨テ時効ノ完成スルコトナシト云フハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナリ是レ本條ノ規定アル所以ナリ

**第十八條** 剝奪公權、停止公權、監視及附加ノ罰金ノ言渡ハ刑法施行ノ

日ヨリ其效力ヲ失フ但既ニ徵收シタル附加ノ罰金ハ之ヲ還付セス

附加ノ罰金ヲ納完セサル爲メ換ヘラレタル禁錮ニ付キ亦前項ニ同シ

(註)法律ハ舊法ニアリシ規定カ新法ニテ廢セラレタルトキハ舊法ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ハ新法ニ依リ其刑ヲ免ル、ハ當然ナリ新刑法ニハ剝奪公權、停止公權、監視及ヒ附加ノ罰金刑ハ廢シタリ故ニ舊法ノ此等ノ言渡ハ新法ニ從ヒ其效力ヲ失フモノトス但シ一旦徵收シタル罰金ハ之ヲ還付セス

本條第二項ノ規定ハ前項ニ依リ自カラ明カナルモノニシテ既ニ附加ノ罰金刑ヲ廢セラレタルハ之ニ換ヘタル禁錮ノ刑ノミ存在スルノ理ナキコト辯ヲ待タサルナリ

**第十九條** 他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準シ刑法ノ刑ニ對

照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役

又ハ禁錮ニ變更ス

他ノ法律ノ規定中剝奪公權、停止公權、監視及ヒ附加ノ罰金ニ處ス可

キ旨ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

(註)本條ハ他ノ法律ニ定メタル主刑ノ刑名ヲ新刑法ニ依リ變更スヘキコトヲ規定シタルモノナリ

舊刑法ニ非サル他ノ法律ニ定メタル主刑ハ本法第二條ニ依リ新刑法ト對照シテ適用スヘキコトハ前ニ述ヘタリ而シテ其刑名ニ新刑法ニナキモノアルトキハ之ヲ新刑法ニ對照シテ新刑法ノ刑ニ相當スル刑名ニ變更スルモノトス然ルニ單ニ禁錮トアルトキハ之ヲ新刑法ノ有期ノ懲役又ハ有期ノ禁錮ニ變更スヘシ

**第二十條** 他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更セス

但他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總

則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

(註)他ノ法律ニ定メタル刑ハ其ノ犯罪ノ性質カ刑法ノ犯罪ノ性質トハ異ニスルモノナレハ其ノ刑ノ輕重モ同一ニ論スルコトヲ得ス單ニ刑名ヲ變更スルモ其ノ刑ノ期間又ハ金額ヲ變更セストス若シ之ヲモ變更スルモノトセハ刑ノ輕重ヲ變更スルモノトナル若シ然ラハ他ノ法律ノ刑ノ性質ニ影響スルニ至ルナリ然レトモ他ノ法律ニ於テ刑ノ期間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ付テハ刑法ノ規定ニ從ハサルヘカラス此ノ如キ場合ハ新刑法ノ規定ニ從ハス仍ホ舊

刑法總則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フモノトス

**第二十一條** 他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス可キ場合ニ於テ

ハ第二十三條ノ場合ヲ除ク外舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ依ル

**第二十二條** 他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ掲ケ又ハ舊刑法ノ規定ニ依リ

若クハ之ニ依ラサルコトヲ定メタル場合ニ付キ刑法中其規定ニ相當

スル規定アルモノハ刑法ノ規定ニ變更ス

爆發物取締罰則第十條ハ之ヲ廢止ス

右二ヶ條ハ説明ヲ要セスシテ明カナレハ之ヲ略ス

**第二十三條** 前條ノ規定ニ依リ刑法ノ刑ヲ適用ス可キ場合ニ於テハ他

ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セス刑ノ減輕ノ方

法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ從フ

(註)他ノ法律中舊刑法ノ規定ニ依ラサルコトヲ定メタル場合ニ新刑法中其規定ニ相當スル規定アルモノハ新刑法ノ規定ニ變更スト云フハ前條ノ規定ナリ若シ前條ノ規定ニ依リテ新刑法ノ刑ヲ適用ス可シト雖モ他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セス其ノ理由ハ前ニ述ヘタル如ク其刑ノ本タル犯罪ノ性質カ異ナルヲ以テナリ然ルニ刑ノ減輕ノ方

法ニ付テハ新刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ從フモノトス是レ減輕ハ犯人ニ利益ヲ與フル場合ナルカ故ニ何等ノ差支ナキモノトスルニ在ルナリ

**第二十四條** 明治二十二年法律第二十八號及ヒ明治二十三年法律第十九號ハ之ヲ廢止ス

**第二十五條** 左ニ記載シタル舊刑法ノ規定ハ當分ノ内刑法施行前ト同

一ノ效力ヲ有ス

一 第二編第三章第五節

二 第九十八條乃至第二百條

三 第二編第四章第七節及ヒ第九節

四 第二編第五章第三節

五 第三編第二章第四節

刑法第八條ノ規定及ヒ本法中他ノ法律ニ關スル規定ハ之ヲ前項ノ規定ニ準用ス

(註)本條ハ舊刑法ノ規定ノ當分ノ内新刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有スル條項ヲ明示シタルモノナリ即チ左ノ條項ハ是ナリ



- 一 第二編第三章第五節 此ノ規定ハ私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪ナリ
- 二 第九十八條乃至第二百條 第九十八條ハ官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ニ附加ス
- 第九十九條ハ已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スト規定ス
- 第二百條ハ此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂罪ノ例ニ照シテ處斷ストシタルモノナリ
- 三 第二編第四章第七節及ヒ第九節 第七節ノ罪ハ度量衡ヲ偽造スル罪第九節ハ公選ノ投票ヲ偽造スル罪
- 四 第二編第五章第三節 第三節ハ傳染病豫防規則ニ關スル罪
- 五 第三編第二章第四節ハ家資分産ニ關スル罪

**第二十六條** 左ニ記載シタル罪ハ刑法第二條ノ例ニ從フ

- 一 軍機保護法ニ掲ケタル罪
- 二 徵兵令ニ掲ケタル罪
- 三 明治二十八年法律第六十六號ニ掲ケタル罪

**四 通貨及證券模造取締法ニ掲ケタル罪**

- 五 船舶法ニ掲ケタル罪
- 六 船員法ニ掲ケタル罪
- 七 船舶職員検査法ニ掲ケタル罪
- 八 船舶検査法ニ掲ケタル罪
- 九 戶籍法ニ掲ケタル罪
- 十 郵便法ニ掲ケタル罪
- 十一 舊刑法中印紙ノ偽造、變造及ヒ其知情使用ニ關スル罪

(註)本條ニ記載スル事項ハ刑法第二條ノ例ニ從フモノトス刑法第二條ノ規定ハ内外人ノ別ナク帝國外ニ於テ犯シタル罪ニ我刑法ヲ適用スヘキ旨ヲ規定シタル者ニシテ其罪ヲ列記シタルナリ今本條ニ掲ケタル事項ヲ刑法第三條ノ例ニ從フモノトスレハ何人タルヲ問ハス帝國外ニ於テ本條ニ記載シタル罪ヲ犯セシトキハ同法ノ例ニ依リ處罰スルモノトス

**第二十七條** 左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フ

- 一 著作權法ニ掲ケタル罪
- 二 重要物産同業組合法ニ掲ケタル罪

### 三 移民保護法ニ掲ケタル罪

(註)本條モ亦刑法第三條ノ例ニ從フモノトス刑法第三條ハ帝國外ニ於テ犯シタル帝國臣民ニ適用スヘキ罪ヲ列記シタルモノナリ然ラハ則チ本條ニ掲ケタル三個ノ犯罪事件モ帝國臣民カ外國ニ於テ之ヲ犯シタルトキハ同法ニ從ヒ處罰スルモノトス

**第二十八條** 人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ掲ケ

タル他ノ法律ノ規定ハ刑法施行ノ爲メ變更セラルルコトナシ

(註)新刑法施行ノ爲メニ他ノ法律ノ規定セル刑名又ハ罪別ハ變更セラル、コトアルハ前ニ既ニ見ル所ナリシカ人ノ資格其他ノ事項ニ關シテハ舊刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ掲ケタル他ノ法律ノ規定ハ變更セラル、コトナシトス

**第二十九條** 死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪

ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス

(註)他ノ法律ニ依リ死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ハ舊刑法ノ規定ニ依レハ重罪ト看做スモノトス固ヨリ死刑無期刑ハ何レノ法律ニテモ重罪タルヘキハ言フ俟タサルニ本條ニ特ニ此ノ規定アリシハ舊法ニハ刑ニ重罪輕罪ノ刑名區別シタルカ故此ニ掲ケタル刑ハ即チ舊法ニ重罪ノ刑名中ニ入レタル刑ナレハナリ

**第三十條** 前條ニ該當セサル懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ハ他ノ

法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ノ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ該ル罪ト看做ス

前條ニ該當セサル禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ該ル罪ト看做ス

(註)本條ハ前條ニ異ナル罪即チ舊刑法ノ重罪ト看做スコトヲ得サル他ノ法律ノ適用ノ場合ヲ規定シタルモノナリ

前條ニ該當セサル罪トハ死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役ニ該當セサル罪ヲ謂フモノナリ此等ノ罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

**第三十一條** 拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ違警罪ト看做ス

**第三十二條** 他ノ法律ニ定メタル罪ニシテ死刑、無期又ハ短期六年以

上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

(註)未遂罪ヲ罰スル場合ハ總則ニ從ハス各條ニ就テ各別ニ規定スルモノナレトモ他ノ法律ニ此ノ規定ナキトキニシテ其罪カ死刑、無期又ハ短期六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノ、未遂罪ハ之ヲ罰スルモノトス此等ノ罪ハ皆重罪ナルヲ以テナリ刑法ニハ重罪ニシテ未遂罪ヲ罰セサル場合アリト雖モ其罪ノ性質カ社會ニ害ヲ與ヘサリシ場合ニ限ルモノトス

**第三十三條** 死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

(註)第二十九條ノ規定ト殆ト同一ノ如クナレトモ同條ハ刑ノ適用上ニ付テ規定シ本條ハ既ニ刑ニ處セラレタル場合ヲ謂フモノナレハ前ノ場合ハ未タ裁判確定セサル場合ナルモ本條ハ裁判確定シテ刑ノ執行ヲ受ケタル者ナリ

**第三十四條** 前條ニ記載シタル者及ヒ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公權ヲ剝奪セラレタルモノト看做ス  
前項ノ規定ハ復權ヲ得タル者ニハ之ヲ適用セス

(註)舊刑法又ハ他ノ法律上重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ附加刑トシテ當然公權ヲ剝奪セラレ、者ナレハ前條ニ記載シタル罪ニ處セラレタル者又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公權ヲ剝奪セラレタル者ト見做スモノトス  
前項ノ規定ハ復權ヲ得タル者即チ一旦公權ヲ剝奪セラレタル者カ舊刑法第六十三條ニ定メタル期間經過シタル後刑事訴訟法第三百二十四條ノ手續ニ從ヒ復權願ヲ差出シ其ノ許可ヲ得タル者ハ公權ヲ剝奪セラレタル者ト見做スコトナシ是レ刑ハ之ヲ取消ストキハ無垢ノ人ト同一ニ見做スモノナレハナリ

**第三十五條** 六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ懲役ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス  
六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

**第三十六條** 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及ヒ舊刑法ノ

禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ刑ノ執行ヲ終  
リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテ公權ヲ停止セラレタルモ  
ノト看做ス

(註)本條ハ公權モ剝奪シタル者ニ非ス單ニ之ヲ行フコトヲ停止セラレタルモノト見做ス公  
權停止ハ舊刑法第三十三條及ヒ第三十四條ニ規定ス此ノ停止ハ舊刑法ニ依リ禁錮ニ處セラ  
レタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止セラル、モノトス剝奪ハ復權  
ノ恩典ヲ受ケサレハ主刑ハ滿期スルモ復權スルコトナケレトモ停止ハ其主刑ノ期間中ニ止  
マリ主刑ノ期滿免除ト共ニ復權スルモノナリ

**第三十七條** 他ノ法律中舊刑法第三十一條又ハ第三十三條ノ規定アル  
爲メ人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケサリシ場合ニ付テハ舊刑法第  
三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一  
ノ効力ヲ有ス

(註)人ノ資格トハ舊刑法第三十一條ニ掲ケタル(一)國民ノ特權(二)官吏ト爲ルノ權(三)勳  
章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權(四)外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權(五)兵籍ニ入ルノ權(六)  
裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權(七)後見人ト爲ルノ權(八)分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及

ヒ共有財産ヲ管理スルノ權(九)學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

以上ノ資格ニ關シ他ノ法律ニ於テ別段ノ規定ナキ場合ニ付テハ舊刑法ノ此ノ規定即チ第三  
十一條ノ剝奪公權第三十三條ノ公權停止ノ規定ハ新刑法施行後モ仍ホ施行前ト同一ノ效力  
ヲ有スルモノトス是レ新刑法ニハ此ノ附加刑ナキヲ以テ他ノ法律ニモ新刑法施行後ハ此ノ  
規定ニ依ルコトヲ得サルカ如ク思フカ故ニ本條ノ規定アリタル所以ナリ

**第三十八條** 刑事訴訟法第八條ヲ左ノ如ク改ム

第八條公訴ノ時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ完成ス

- 一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年
- 二 無期又ハ長期十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ  
十年
- 三 長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年
- 四 長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ  
三年
- 五 刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ一年
- 六 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

(註)本條ハ刑事訴訟法第八條ヲ改正シタル規定ナリ

刑事訴訟法第八條ハ公訴ノ時效ヲ完成スル期間ト罪ノ種類トヲ明ニシタルモノナリ即チ公訴ノ時效ハ本條第一號ヨリ第六號ニ至ル期間ヲ經過スルニ因テ完成スルモノトス而シテ其罪ノ種類ニ從ヒ期間ニ長短アルハ犯罪ノ重キハ社會ノ遺忘スルコトノ遅キヲ以テナリ且ツ犯罪人其者ニ對シテモ重キ罪ヲ犯シタル者ニハ時效ノ完成スルニ付テ長キ期間ヲ要スヘキハ當然ナリ何トナレハ罪ノ輕重ニ依テ其ノ期間ニ長短ナキトキハ重キ罪ヲ犯スノ利益ナリトシテ萬一ヲ僥倖スルニ至ルヲ以テナリ

**第三十九條** 刑事訴訟法第六十二條第三號ヲ左ノ如ク改ム

第三 區裁判所ノ管轄ニ關スル罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ區裁判所ニ送致ス可シ

(註)刑事訴訟法第六十二條ハ地方裁判所檢察官犯罪ノ搜查ヲ終リタルトキノ手續ヲ爲ス可キ規定ナリ其搜查ノ結果其ノ犯罪ノ事件カ區裁判所ノ管轄ニ屬スル者ト思料シタルトキハ其ノ證據書類ニ意見書ヲ添ヘテ之ヲ區裁判所ノ檢察官ニ送ルモノトス今此ノ如ク規定ヲ修正シタルモノハ同條第三號ハ裁判所構成法第十六條第二號第三號ニ記載シタル輕罪又ハ違警罪ト思料シタル……トアリシヲ以テ其裁判所構成法第十六條ハ今回改正シ大ニ其權限ヲ擴張シタルハ舊條項ノ規定ニ從フコト能ハサル故ナリ茲ニ同法第十六條ヲ掲ケテ參考ニ供スルモ無益ノ業ニ非サルト信ス

第十六條ノ一 區裁判所ハ檢察官ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但シ第二以下ニ記載シタル罪ハ豫審ヲ經サルモノニ限ル

第一 拘留又ハ科料ニ該ル罪

第二 竊盜ノ罪

第三 竊盜及ヒ刑法第二百五十四條ノ罪ノ贓物ニ關スル罪

第四 刑法第三百三十條第三百七十五條第三百八十五條乃至第三百八十七條及第二百九條ノ罪並ニ第三百三十條ノ未遂罪

第五 一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓ヲ超過セサル罰金ニ該ル罪

**第四十條** 刑事訴訟法第二百二十五條第二號ヲ左ノ如ク改ム

第二 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者及ヒ宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スルトキ

**第四十一條** 刑事訴訟法第二百二十六條第一項中「刑法第八十條ニ從

ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改メ同條第二項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第二百二十八條中「刑法第七十九條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第四百四十四條第一項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム  
(註)右二ヶ條ハ意義明了ナレハ説明ヲ略ス

第四十二條 刑事訴訟法第六十七條第一項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削ル

被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト思料シタルトキハ公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ

(註)本條ノ改正モ亦裁判所構成法第十六條第二號ヲ改正シタルニ依リ改正ノ必要ヲ來タシタルモノナリ而シテ刑事訴訟法第六十七條第二項ヲ削除シタル所以ハ今回改正シタル裁判所構成法第十六條第二號以下ハ豫審ヲ經サルモノニ限リテ區裁判所ニ權限ヲ附與スルニ在レハ刑事訴訟法第六十七條第三項ハ豫審ヲ經ヘキ事件ニ該ルヲ以テ之ヲ削除シタルモノナリ

第四十三條 刑事訴訟法第七十二條ヲ左ノ如ク改ム

第七十二條 檢事ハ免訴又ハ管轄違ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得

(註)刑事訴訟法第七十二條ハ「檢事ハ重罪公判ニ付スル決定又ハ免訴若ハ管轄違ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得被告人ハ重罪公判ニ付スル決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得」トアリシヲ本條ノ如ク改正シタルモノナリ改正ニ依レハ單ニ檢事ノ抗告ヲ許シ被告人ノ抗告ヲ許サス是レ免訴又ハ管轄違ノ決定ニ對シテハ被告人ニ於テ抗告ヲ爲スノ必要ナケレハナリ舊ノ規定ハ重罪公判ニ付スル決定ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ許シタルヲ以テ被告人モ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘカリシナリ

第四十四條 刑事訴訟法第二百三十六條中「輕罪、重罪ノ」ヲ削ル

第四十五條 刑事訴訟法第二百四十一條ヲ左ノ如ク改ム

第二百四十一條 裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキハ其事件ヲ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲スコシ  
檢事ノ請求アルトキ亦同シ

被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ受命判事ヲシテ其事件

ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムヘシ  
受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

(註)本條ヲ解釋スルニ先チ舊刑事訴訟法第二百四十一條ノ改正セラレタル點ヲ擧ケント欲  
ス即チ左ノ如シ

第二百四十一條 裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ檢  
事ヨリ更ニ其事件ヲ重罪トシテ訴追スルコトヲ申立タルトキハ豫審判事ニ送付スル決  
定ヲ爲スコシ但被告人拘留ヲ受ケサルトキハ拘留狀ヲ發スヘシ  
其被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ  
爲シ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム可シ

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得  
右ノ點ヲ付シタル字句ヲ削リ改正シタルモノナリ而シテ其削除セラレタル字句ハ必要ナ  
ラサルモノナルコト明カナリ

第四十六條 刑事訴訟法第二百六十四條中「更ニ重罪事件トシテ裁判  
ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ」ヲ削ル

第四十七條 刑事訴訟法第三百十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

監獄ニ於テ執行ス可キ二個以上ノ主刑ノ執行ハ其重キモノヲ先ニ  
ス但特別ノ事由アルトキハ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ  
執行ヲ爲サシムルコトヲ得

(註)監獄ニ於テ執行ス可キ二個以上ノ主刑ノ執行トハ例ヘハ有期懲役ト有期禁錮ト執行ス  
ルカ如シ此ノ場合ニ於テハ孰レヲ先キニ執行スヘキヤト云フニ本條ハ其重キモノヲ先キニ  
スト爲ス即チ前例ニ於ケル場合ニ懲役ノ期間禁錮ノ期間ト同シキカ又ハ長キトキハ懲役ノ  
執行ヲ先キニセサルヘカラス然レトモ必ス規定ノ如クスルトキハ實際ニ於テ能ハサル場合  
ナキニシモアラス例ヘハ本法第四十九條第二ノ場合ノ如シ此ノ場合ニハ檢事ノ意見ヲ以テ  
重キ刑ヲ後ニシテ他ノ刑ノ執行ヲ爲スコトヲ得セシム

第四十八條 刑事訴訟法第三百十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第三百十八條ノ二 死刑ノ執行ハ檢事及ヒ裁判所書記ノ立會ニテ  
之ヲ爲スコシ

死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス但檢事又ハ監  
獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三百十八條ノ三 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失シタルトキ

ハ司法大臣ノ命令ニ因リ其痊癒ニ至ルマテ執行ヲ停止ス  
死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懐胎ナルトキハ分娩後司法大臣ノ命  
令アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス

(註)本條ハ死刑ノ執行ニ付テ刑事訴訟法ノ規定ヲ補ヒタルモノナリ本條カ追加シタルニケ  
條ハ舊刑法ニ規定スル所ナレトモ新刑法ニ之ヲ削除シタルニ依リ本法ニ規定シタルモノナ  
リ

**第四十九條** 刑事訴訟法第三百十九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル  
トキハ其事故ノ止ムマテ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

- 一 心神喪失ノ状態ニ在ルトキ
- 二 刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ
- 三 受胎後七月以上ナルトキ
- 四 分娩後一月ヲ經過セサルトキ

(註)本條ハ刑事訴訟法第三百十九條ノ刑ノ執行ニ付テ其ノ不備ヲ補ヒタル規定ナリ  
刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ直チニ執行スヘキモノナルモ本條ニ記載スル事故ノアルトキハ

其事故ノ止ムマテ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ルモノトス是レ等ノ事故ノアルニモ拘ハラ  
ス刑ヲ執行スルトキハ或ハ刑ノ苦痛ヲ感セサル者アリ或ハ残酷ニ涉ル等ノ弊害アルモノナ  
リ今之ヲ左ニ區別シテ説明スレハ

- 一 心神喪失ノ状態ニ在ルトキ 此ノ場合ニ刑ヲ執行スレハ本人ニ於テ其ノ刑ノ何タル  
コトヲ覺知セシテ却テ刑ノ執行ノ效ヲ奏セサルコトアルナリ
- 二 刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ 病氣又ハ其他ノ事由ニテ身體  
カ非常ニ衰弱シタルトキノ如シ
- 三 受胎後七月以上ナルトキ 女子ニシテ懷胎後七ヶ月以上ナルトキ最早分娩期ニ近キ  
タル者ナレハ刑ノ執行ヲ受クレハ堪難キヲ以テ之ヲ停止スルヲ至當トス
- 四 分娩後一月ヲ經過セサルトキ 出産ノ爲メニ血液未タ完全ニ舊ニ復セサル時ナリ

**第五十條** 刑事訴訟法第三百二十條中「之ヲ爲ス可シ」ノ下ニ「刑ノ

執行ノ停止ニ付キ亦同シ」ヲ加ヘ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

**第五十一條** 刑事訴訟法第二十四條、第六十三條、第六十八條、第百

七十三條及ヒ第七十四條但書ハ之ヲ削ル

右二條ノ説明ヲ要スヘキナキヲ以テ之ヲ略ス



**第五十二條** 刑事訴訟法中復権及ヒ特赦ニ關スル規定ハ之ヲ削ル

(註)舊刑法ニハ復権及ヒ特赦ニ關スル規定アリシニ依リ刑事訴訟法ニモ之カ手續ノ規定アリタレトモ新刑法ニハ之ヲ憲法ノ規定ニ讓リテ削除シタルヲ以テ之カ形式的ノ法律ノ必要ナク故ニ削除シタリ

**第五十三條** 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ム可

キ場合ニ於テハ其犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

(註)刑法第五十二條ハ併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其中ノ一罪カ大赦ヲ受ケタル場合ニハ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ムルノ規定ナリ第五十八條第一項ハ裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ムル規定ナリ右二條ハ何レモ一旦犯罪ヲ處斷セラレタル後ニ至リ復タ他ノ罪ニ依リ刑ヲ定ムル場合ナリ此ノ刑ヲ定ムルニハ普通裁判ヲ爲スヘキ手續ニ從フモノニ非ス即チ其ノ犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ヨリ其裁判所ニ請求ヲ爲ス可キモノトス而シテ此ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ被告人又ハ被告人ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘキモノトス尤モ此決定ニ對シ

不服アルトキハ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

**第五十四條** 刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權

ヲ以テ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ

(註)本條ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ニ付テノ規定ナリ

刑ノ執行猶豫ハ當然ニ生スヘキモノニアラスシテ別ニ宣告ヲ爲スヲ要ス而シテ此ノ言渡ハ檢事ヨリノ請求ニ依ルヘキ時ト又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ其刑ノ言渡ヲ爲スト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡スヘキモノトス檢事ヨリノ請求モ則チ裁判言渡前ニ之ヲ爲サ、レハ本條ノ手續ヲ行フコト能ハス

**第五十五條** 刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ上訴ニ因リ其效力ヲ失フコトナシ

但原判決ヲ取消シ又ハ破毀シタル場合ハ此限ニ在ラス

上訴裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

(註)上訴ヲ爲シタルトキハ刑ノ執行猶豫ニ關係スルモノ、如ク思惟スルモ上訴ニ依テ原判決ヲ取消サル、カ又ハ破毀セラレタル場合ニ非サレハ其ノ執行猶豫ノ言渡ハ依然トシテ効力ヲ有スルモノナリ

第二項ノ規定ハ上訴ニ依リ原判決ヲ取消サル、カ又ハ破毀セラレタル場合ニ上訴裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

**第五十六條** 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可キ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

(註)本條第一項ノ規定ハ被告人等ノ意見ヲ聽ク爲メノ便宜ニ依リ此ノ如ク規定シタルモノナリ若シ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ニ對シ檢事カ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スコトヲ請求セスシテ他ノ裁判所ニ請求スルトキハ其ノ請求ヲ受ケタル裁判所カ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スニ管轄ヲ異ニスルノ不便アリ又被告人カ此ノ決定ニ對シテ抗告ヲ爲スニモ不便ナルニ依ルナリ

**第五十七條** 第五十二條及ヒ前條ノ裁判及ヒ抗告ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

(註)第五十三條及ヒ前條ノ裁判及ヒ抗告ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用スト爲スハ第五十三條ハ刑ヲ定ムル言渡ニ付テ抗告ヲ爲スコトヲ得セシメ前條ノ裁判ト抗告トノ手續ニ付テハ刑事訴訟法ニ規定アルヲ以テ之ニ依ルヘキヲ至當トスルニ在ルナリ

**第五十八條** 明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ仍ホ猶豫ノ期間ヲ經過セサル者ハ刑法ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做ス

(註)刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スノ規定ハ明治三十八年法律第七十號ニ依リ始メテ行ハル、ニ至リタルナリ是レ舊刑法ニハ此ノ規定ナカリシヲ以テナリ然レトモ新刑法ニハ此ノ規定ヲ設ケタルヲ以テ法律第七十號ハ自ラ消滅スルカ故ニ右法律ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者其ノ猶豫ノ期間ヲ經過セサルトキハ其猶豫ノ期間ハ新刑法ニ移リテ即チ刑法ニ依リ刑ノ執行ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做スモノナリ若シ本條ノ規定ナキトキハ法律ノ消滅ト共ニ其期間ノ利益ヲ失フニ至ルヘケレハ本條ヲ以テ其利益ヲ失ハサルモノトス

**第五十九條** 明治二十九年法律第五十四號ハ之ヲ廢止ス

**第六十條** 私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事訴訟ノ法式ニ依ラス書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

(註)本條ハ公訴ニ附帶シテ私訴ヲ爲ス場合ノ手續ヲ規定シタリ元來私訴ヲ爲スニ民事訴訟ノ手續ニ從フテ爲スモノナルモ公訴ニ附帶シテ之ヲ爲ストキハ民事訴訟法ノ方式ニ依ラストモ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

**第六十一條** 贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ爲ス可シ

(註)沒收ハ犯人ノ手裏ニ存スルモノニ限ルトス故ニ贓物カ他人ノ手ニ渡リ轉帳シアルトキハ之ヲ沒收セス故ニ若シ贓物カ犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ヲ待タス之ヲ沒收シテ被害者ニ還付スヘキモノトシ裁判言渡ト同時ニ之ヲ言渡スモノトス

**第六十二條** 左ニ記載シタルモノヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用トス

一 豫審、公判ニ付キ呼出シタル證人、鑑定人及ヒ通事ニ給與ス可キ日當、旅費及ヒ止宿料

二 第六十六條ニ記載シタル費用、

**第六十三條** 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ左ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

一 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付金二十錢乃至金五十錢但止宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日當ヲ給與セス

二 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付金二十錢乃至金五圓

**第六十四條** 證人、鑑定人及ヒ通事ノ旅費ハ海陸路一里ニ付金五錢

乃至金二十錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

前項ニ掲ケタル者ノ止宿料ハ一日ニ付金二十錢乃至金一圓ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但八里以上ノ地ヨリ來リ滞在スルトキニ非サレハ之ヲ給與セス

**第六十五條** 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當、旅費及ヒ止宿料ハ豫審ニ於テハ其終結前、公判ニ於テハ其判決前ニ本人ヨリ請求スルニ非サレハ之ヲ給與セス

**第六十六條** 鑑定、通譯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得

**第六十七條** 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ノ連帶負擔トス  
以上ノ數條ハ一讀意義明了ナレハ之ヲ略ス

附 則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令ハ之ヲ廢止ス

# 刑法施行法終

## 改正刑事訴訟法釋義目次

第一編	總則	一
第二編	裁判所	二五
第一章	裁判所ノ管轄	二五
第二章	裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避、回避	三九
第三編	犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審	四六
第一章	捜査	四六
第一節	告訴及ヒ告發	四八
第二節	現行犯罪	五二
第二章	起訴	五七
第三章	豫審	五九
第一節	令狀	六一
第二節	密室監禁	七三
第三節	證據	七四
第四節	被告人ノ訊問及ヒ對質	七七

○目次

第五節	檢證、搜索及ヒ物件差押	八〇
第六節	證人訊問	八六
第七節	鑑定	一〇一
第八節	現行犯ノ豫審	一〇五
第九節	保釋	一一四
第十節	豫審終結	一二一
第四編	公判	一三〇
第一章	通則	一三一
第二章	區裁判所公判	一五三
第三章	地方裁判所公判	一六九
第五編	上訴	一七五
第一章	通則	一七五
第二章	控訴	一八一
第三章	上告	一九二
第四章	抗告	二一三
第六編	再審	二一九

第七編	大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續	二二八
第八編	裁判執行	二三四
第一章	裁判執行	二三四
附則		二四三

改正刑事訴訟法釋義目次



# 改正刑事訴訟法釋義

吉永鐵太郎著

## 第一編 總則

(註)總則ノ何モノタルコトハ刑法ニ於テ説明シタレハ今ハ之ヲ略シテ刑事訴訟法ノ如何ナルモノナルカノ大体ヲ述ヘント欲ス刑事訴訟法ハ刑法ノ應用ニ必要ナル法律ナリ夫レ刑法ハ如何ナル行爲ヲ犯罪ト爲スヤ其犯罪ニハ如何ナル刑罰ヲ科スルヤヲ規定セルモノナレトモ法ハ死物ナリ自ラ活動スル能ハサルヲ以テ刑法ノミヲ以テシテハ其所定ノ犯罪タル行爲ヲ爲ス者アリト雖モ之ヲ逮捕シ審理シテ之ニ所定ノ刑罰ヲ科スルニ由ナシ是ヲ以テ刑法ノ活動ヲ得セシメンカ爲メニハ之ヲ活動セシムヘキ權力ヲ有スル機關アリテ其應用ヲ爲スヲ要ス其機關ハ即チ裁判所ニシテ而シテ其裁判所ヲ應用ヲ爲スニ付テハ一定ノ手續ニ依ラサルヲ得ス其手續ヲ定メタルモノハ刑事訴訟法即チ是ナリ故ニ刑法カ罪トシ罰スル所ノ行爲ヲ犯罪トシテ之ニ刑罰ヲ科スルニハ刑法、裁判所構成法及ヒ刑事訴訟法ノ三者ヲ要シ三者相俟テ初メテ其用ヲ爲スモノナリ

# 第一條 公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルコトヲ目的トスルモノニシテ法律ニ定メタル區別ニ從ヒ檢事之ヲ行フ

(註)公訴ハ其目的ノ如何ヲ知レハ公訴ノ何タルヤハ自然ニ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ本條ハ其目的ヲ示シテ「公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルコトヲ目的トスルモノニシテ」トアリ即公訴ハ刑ノ適用ノミヲ唯一ノ目的トシ犯罪證明ハ其方法ヲ示セルニ過キスト爲ス者ナリ而シテ公訴權ノ主体ハ誰ソ何人カ之ヲ有スルヤ他ナシ國家是ナリ犯罪ハ害ヲ國家ニ及ホスモノニシテ之ヲ處分スルハ國家ノ權利ナリトノ思想上ヨリ刑罰權ハ全ク國家ニ屬スル者ト爲セシヲ以テ其ノ刑罰權ノ實行方法タル公訴ヲ提起スルノ權利モ亦自ラ國家ニ屬スルモノト云ハサルヲ得ス然ルニ檢事ハ公訴權ヲ有スルニ非ス單ニ之ヲ行フニ過サルヘシ國家カ公訴權ヲ有スルモ國家ハ無形ニシテ自ラ之ヲ實行スルコト能ハサルヲ以テ檢事ニ其ノ職權ヲ授ケ之カ實行ニ當ラシムルニ過キス而シテ此結果トシテハ檢事ハ隨意ニ公訴ヲ處分スルヲ得ス即チ一タヒ之ヲ起セハ之ヲ取下ケ若クハ和解ヲ爲スヲ得ス

公訴提起ハ右ノ如ク檢事カ公訴權ヲ行フノ一ナリ故ニ此提起ハ檢事限リ之ヲ爲シ得ルヲ原則トス然レトモ或僅少ノ場合ニ於テ其例外アリ左ニ列舉ス

第一 現行犯ノ場合ニ豫審判事カ檢事ニ先タチ其事ヲ知レハ自カラ犯所ニ臨檢シテ豫審處分ヲ爲スヲ得即チ此場合ハ檢事ノ公訴提起ナキモ此處分ヲ爲シ得ルモノニシテ此處分ノ

一トシテ臨檢調書ヲ作ルトキハ法律上其一事ニ因リ既ニ公訴提起アリシモノト看做ス(第四百四十二條第四百四十三條)

第二 公判中附帶犯罪ヲ發見セルトキハ檢事ノ公訴提起ヲ俟タスシテ裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ取調ヘ之ヲ處罰スルコトヲ得即チ公訴ハ檢事ノ提起ヲ俟タス裁判所自カラ裁判スルコト、ナルナリ(第八十四條第八十五條)

第三 公判ニ於テ證人鑑定人ヲ取調フルニ方リ故意ヲ以テ不實ノ供述ヲ爲セリト認ムルトキハ裁判所職權ヲ以テ其證人鑑定人ヲ取押ヘ拘引狀ノ效力ニ依リ豫審判事ニ送致スルヲ得(第九十五條)此場合ニ於テハ送致ヲ受ケシ豫審判事ハ別ニ檢事ノ公訴提起ヲ俟タスシテ直チニ豫審處分ニ着手シ通常ノ規定ニ從フテ豫審終結ヲ爲スヲ得

第四 證人カ故ナク呼出ノ時日ニ裁判所ニ出頭セサルトキハ直チニ其證人ニ對シテ罰金ノ言渡ヲ爲スコトヲ得テ檢事ノ公訴提起ヲ要セサル前ノ如シ(第十八條)而シテ此ノ事ハ豫審ニ關スル規定ナルヲ以テ公判ニ適用ス可キモノナリ(第九十條)

第五 違警罪即決例ニ依レハ違警罪ナルトキハ檢事ノ公訴提起ヲ俟タス警察官之ヲ處分スルヲ得是レ警察官カ自ラ公訴ヲ提起シテ自ラ裁判スルモノナリ

第六 間接國稅犯則者處分法又ハ關稅犯則者處分法ニ依リ關稅官吏又ハ稅關長ハ其犯則者ヲ處分スルノ權アリ此處分ハ固ヨリ眞ノ裁判ニ非サルモ亦一種ノ裁判ナルカ此場合ニモ檢事ノ公訴提起ヲ要セス職權ヲ以テ直チニ處分シ得ルモノニシテ亦此例外ニ近キモノト

ス

**第二條** 私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償、贓物ノ返還ヲ目的トスルモノニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ス

(註)私訴ハ公訴ト同ク同一ノ犯罪ヨリ生スルモノニシテ一個ノ犯罪アレハ一方ニハ公訴權ヲ生シ他方ニハ私訴權ヲ生ス然レトモ二者ノ間ニハ左ノ差異アリ

(憲義)第一 其權利ヲ生スルニハ二者共ニ同一犯罪ナルモ其之ヲ生スル原因ハ各異ナリ公訴權ハ其犯罪カ公益ヲ害シタルニ因リ私訴權ハ一人ノ權利ヲ害シ隨テ其利益ヲ害シタルニ因リテ生ス故ニ犯罪ハ必スシモ常ニ私訴權ヲ生スルニ非ス唯タ之ニ因リテ其利益ヲ害シタルトキニ生スルノミナリ

第二 私訴權ハ又公訴權ト其目的ヲ異ニセリ公訴ノ目的ハ刑ヲ適用スルニ在ルモ私訴權ノ目的ハ本條ノ明記セル如ク損害ノ賠償贓物ノ返還ニ在ルナリ

第三 公訴權ハ國家ニ屬シ檢察ハ國家ノ代表者トシテ之ヲ行フニ過キス然ルニ私訴權ハ被害者ニ屬シ且ツ被害者自ラ之ヲ行フ

第四 消滅原因モ亦異ナリ公訴權ハ被告人ノ死去ニ因リ消滅スルモ私訴權ハ然ラス親告罪ニ於ケル告訴ノ拋棄ハ公訴權ヲ消滅セシムルモ私訴權ハ爲メニ消滅セス其他刑ノ廢止大赦等ハ公訴權ヲ消滅セシムルモ私訴權ヲ消滅セシムルコトナシ

**第三條** 公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待テ起ルモノニ非ス又告訴、私訴ノ拋棄ニ因テ消滅スルモノニ非ス但法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ此限ニ在ラス

(註)公訴ハ國家ニ屬スル者ニシテ檢察之ヲ行フ者ナルコトハ前ニ既ニ説明シタリ公益ヲ害スルニヨリ公訴ヲ提起スルモノナレハ被害者ノ告訴ヲ俟テ起ルモノニアラス又前ニ述タル如ク告訴私訴ハ被害者之ヲ棄權スルトキハ消滅スルモ公訴ハ之カ爲メニ消滅スルコトナシ然レトモ刑法其他ノ法律ニ親族ノ告訴ヲ俟テ其罪ヲ論スト規定セルモノハ告訴ナケレハ公訴ヲ提起スルコトヲ得ス其親告罪ナリト云フ刑法上ニ於ケル親告罪ノ種類ハ第十三章ノ罪第二十二章ノ罪第二百八條ノ罪第二百九條ノ罪第三十四章ノ罪第二百四十四條ノ罪第四十章ノ罪是ナリ其他刑法以外ノ法律ニ於ケル親告罪ノ種類ハ(一)他人ノ耕作地又ハ構内ニ於テ所有主ノ許諾ナクシテ狩獵ヲ爲シタル罪(二)版權侵害ノ罪(三)寫真版權侵害罪(四)商標侵害罪等ナリトス

**第四條** 私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラズ公訴ニ付キ第二審ノ判決アルマテ何時ニテモ其公訴ニ附帶シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三者ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ公訴附帶ノ私訴ニ參加スルコトヲ



得

(註)私訴ハ公訴ト同一ノ訴訟ニ於テ審理裁判スルコトヲ得ルカ故ニ本條ノ規定アリタルナリ

(意義)私訴ハ公訴ニ附帶シテ同一ノ訴訟ニ加ハルヲ得裁判所ハ二者ノ審理ヲ同一ニシ裁判言渡ヲモ同一ニシ得ヘシ是レ二者ノ同一犯罪ヨリ出テ公訴ノ審理ヲ爲セハ私訴モ亦自カラ審理シ得ルカ故ニシテ唯タ損害ノ額ニ付テハ私訴ニ付キ特ニ取調フヘキ必要アルモ多クハ公訴ノ審理ニ併セテ之ヲ知リ得ヘク隨テ二者ヲ併セテ審理スルハ其時間手數及ヒ費用ヲ節省シ得テ大ニ便利ナルヲ以テナリ但私訴ハ民法上ノ法律關係ニシテ本來民事ノ訴訟ニ屬スルヲ以テ民事訴訟トシテ之ヲ提起スルモ固ヨリ妨ケナク公訴ニ附帶スルハ特ニ之ヲ許スニ止マリ必スシモ之ヲ要スト云フニ非ス

**第五條** 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償、返還ヲ要ムル妨礙ト爲ルコトナカル可シ

(註)犯罪ヨリ生スル責任ニ民事上ノ責任ト刑事上ノ責任トアリテ刑事上ノ責任ハ其ノ犯罪成立シテ初メテ生スルモノナレトモ民事上ノ責任ハ犯罪構成ノ如何ニ拘ハラヌ苟モ法律上ノ原因ナク即チ民事上ノ權利ナクシテ他人ノ財産又ハ勞役ニ因リ利益ヲ受ケ以テ他人ニ損失ヲ及ホスカ若クハ故意又ハ過失ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害シ以テ他人ニ損害ヲ及ホシタル

事實ノ明カナル場合ハ其責任ヲ生スルモノトス故ニ被害者ハ假令被告人ニシテ免訴ノ言渡ヲ受ケ無罪ノ判決ヲ受クルト雖モ民法ノ原則ニ因リ損害ノ賠償贖物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

**第六條** 公訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

第一 被告人ノ死去

第二 告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テハ告訴ノ拋棄

第三 確定判決

第四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止

第五 大赦

第六 時效

(註)公訴消滅ノ原因ハ本條ニ記載スル六種ノ原因アレハ起訴ノ前後ヲ區別セス故ニ其前後如何ヲ問ハヌ苟モ六種ノ事項中ノ一アレハ則チ消滅スルモノトス

(意義)第一 被告人ノ死去 被告人死去セハ其公訴提起ノ前ナルト後ナルトニ論ナク全ク公訴ノ目的タル刑ノ適用ヲ得サルヲ以テ其公訴權ハ自ら消滅セサルヲ得ス是レ刑ハ犯罪人ノ一身ニ止マリ子孫ニ及ハサル刑法上ノ一大原則ナレハナリ

第二 告訴ヲ俟テ受理スヘキ事件ニ付テハ告訴ノ拋棄 告訴ヲ待テ受理スヘキ事件トハ親告罪ニシテ之ニ對スル公訴權ハ告訴ノ拋棄ニ因リテ消滅ス

第三 確定判決 判決確定セハ公訴權ノ消滅スル場合ハ之ヲ分テ説明センニ若シ公訴力判決確定ニ因リ其目的ヲ達シタル場合ハ其目的ヲ達シタルカ爲メニ消滅ニ歸スルハ當然ナリ又其目的ヲ達セス公訴ヲ不當トシテ無罪若クハ免訴ノ言渡アリタル場合ハ公訴權ハ爲メニ消滅セサルヲ得ス元來法律カ判決確定ノ事ヲ定メタル理由ハ公益上訴訟ノ際限ナク長久ニ彌ルヲ防遏スルカ爲メ其眞成ノ當否ヲ問ハス強テ其局ヲ結ハシムルモノニシテ既ニ控訴ヲ許シ又上告ヲ許セルニ更ニ幾回トナク出訴ヲ許サハ幾年ヲ經ルモ結局ヲ得サルニ因リ公益上上告審ヲ以テ確定ノモノトシ復タ變易移動ヲ得サラシムルモノタリ公訴權カ之ニ因リ消滅スルノ理亦知ルヘキノミ

第四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止 犯罪ノ當時ニハ法律上之ヲ罰シタリシニ爾後法律ノ改正アリテ之ヲ罰セサルコト、ナリシトキハ其行爲ニ對スル公訴權ハ消滅セサルヲ得ス而シテ茲ニ一言スヘキコトアリ犯罪アリテ未タ公訴ノ提起アラサルニ先タチ刑ノ廢止アリシトキハ其提起ヲ爲スヲ得サルモ既ニ其提起ヲ爲セシ後ニ刑ノ廢止アリタルトキハ如何他ナシ豫審ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲シ公判ニ於テハ無罪ノ言渡ヲナスヘシ

第五 大赦ハ天皇ノ大權ニ屬シ犯罪ヲ赦免セラル、モノナリ此ノ大赦ハ未タ刑罰ヲ言渡

サ、ル犯人ヲシテ其刑罰ヲ免レシムルノミナラス既ニ刑ノ執行中ニ在ル者及ヒ執行後ニ屬スル者ニモ效力ヲ及ホシ曾テ刑罰ヲ受ケタルコトナキ無垢ノ人トナルモノナリ  
第六 時効 時効トハ法律ニ定メタル時間ノ經過ニ因リテ生スル效力ヲ謂ヒ此效力ハ即チ公訴權ヲ消滅セシムルモノナリ即チ犯罪ノ日ヨリ法律ニ定メタル時間ヲ經過シ終ルマテ檢察カ公訴ヲ提起セサレハ爾後復之ヲ提起スルコトヲ得サルコト、ナリ

第七條 私訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

第一 拋棄又ハ和解

第二 確定判決

第三 時効

(註)私訴權モ亦消滅スル原因アリテ消滅スルナリ即チ本條ニ列記スル三種ノ原因アリテ消滅スルナリ第一拋棄又ハ和解○第二確定判決○第三時効

(意義)第一 拋棄又ハ和解 拋棄ハ權利ノ全部ヲ拋棄スルモノニシテ和解ハ其一部ヲ拋棄シ互ニ讓歩スルモノナリ

第二 確定判決 私訴ニ付テノ確定判決ヲ云フモノニシテ公訴ニ付テノ確定判決アルモ私訴ハ之カ爲メニ消滅スルコトナシ

第三 時効 私訴ハ公訴ノ時効ニ從フテ消滅スルモノトス

(理由)元來私訴ハ公訴ト同一ノ犯罪ヨリ生スルモノニシテ公訴ノ時効ハ社會ノ既ニ遺忘セシ時ニ及ンテ之ヲ罰スルハ却テ公安ニ害アリト爲スニ出ツルニ爾後同一ノ犯罪ニ付キ私訴ノ提起ヲ許シテ其犯罪ノ有無ヲ審理シ裁判スレハ之ニ因リテ再ヒ社會ノ記憶ヲ呼起シテ復公安ヲ害スルニ至ルヲ以テ私訴モ亦同一ノ時効ニ因リテ消滅スルモノト爲スニ非スシハ公訴時効ノ目的ヲ達スルコト能ハス是レ此規定アル所以ナリ

第八條 公訴ノ時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ完成ス

- 一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年
- 二 無期又ハ長期十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年
- 三 長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年
- 四 長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年
- 五 刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ一年
- 六 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月(以上刑法施行法ニ依リ改正)

(註)時効ニハ刑ノ執行ニ付テノ時効ト公訴ノ時効トアリ刑ノ執行ハ裁判確定後其ノ執行ヲ免ル、ヲ云フ本條ハ公訴ノ時効期間ノ完成スル年數ヲ規定シタルモノニシテ第一ヨリ第六ニ至ル規定ニ從ヒ此ノ年月間ハ犯罪ノ時ヨリ起算シ即チ公訴ヲ起スヘキニ公訴ヲ起サスシ

テ之ヲ免レタル者ハ此ノ年限ヲ經過シタル時ハ其罪ヲ免レ再ヒ公訴ヲ起スコトヲ得サルモノトス

(理由)時効ヲ設ケタル理由ハ既ニ刑法ニ述ヘタルカ如ク法律カ定メタル時間刑ノ執行又ハ公訴ノ提起ヲ免レタル者ハ社會既ニ其犯罪アリタルコトヲ遺忘シタルモノトスルニ在リ一旦遺忘シタル罪ヲ再ヒ起シテ之ヲ罰スルノ必要ナシトスルナリ而シテ其時効ニハ年限ノ長短アルハ其罪ノ輕重ニ依リ社會ノ遺忘ニ遲速アルモノトシテ斯ノ如ク定メタルモノナリ

第九條 私訴ノ時効ハ被害者無能力ナルトキ又ハ公訴ニ附帶セスシテ其訴ヲ爲シタルトキト雖モ公訴ノ時効ト其期間ヲ同クス  
公訴ニ付キ既ニ刑ノ言渡アリタルトキハ民法ニ定メタル時効ノ例ニ從フ

(註)私訴ハ公訴ト同一ノ時効ニ因リ消滅スルハ公訴ニ附帶シテ之ヲ起セシトキノミナラス獨立シテ民事上ノ訴訟ヲ起セシトキニ於テモ亦然リ是レ本條ノ規定アリタル所以ナリ  
(意義)民法ノ規定ニ於テハ時効ニハ停止及ヒ中斷ナルモノアリ而シテ停止ノ一原因トシテ權利者即チ被害者ノ無能力ナル場合アリ即チ無能力者カ權利ヲ有スルトキハ其無能力ノ爲メ或ハ權利ヲ行使スル能ハス隨テ時効ノ中斷ヲモ爲ス能ハサルニヨリ或時間ハ時効ノ

進行ヲ停止スルモノトス然ルニ今私訴ハ公訴ト同一ノ時効ニ從フモノトスル以上ハ此停止ヲ許スヲ得ス是レ本條カ私訴ノ時効ハ被害者無能力ナルトキト雖モ公訴ノ時効ト其時  
間ヲ同クスト爲セリ

(理由)公訴ノ時効全ク成就スレハ其犯罪ヲ證明シ其犯罪ニ付テ裁判權ヲ行フコトヲ得ス然  
ルニ今若シ私訴ノ時効ヲシテ公訴ノ時効ヨリ其期間ヲ長クスルトキハ復タ犯罪ヲ證明シ  
之カ成立ヲ争ハサルヘカラサルニ至リ公訴時効ヲ認メタル法律ノ精神ニ反ス是レ公訴私  
訴共ニ其時効ノ期間ヲ共ニスル所以ナリ然リト雖ト私訴ニ付一旦刑ノ言渡アリタル以上  
ハ其犯罪ノ事實明カナル故ニ之ヲ證明シ以テ私權ヲ行フコトヲ得ルモノトシテ即チ民法  
ニ定メタル時効ノ例ニ從フモノトス

**第十條 公訴 私訴ノ時効ハ犯罪ノ日ヨリ其期間ヲ起算ス 但繼續犯罪  
ニ付テハ其最終ノ日ヨリ起算ス**

(註)本條ハ時効期間ノ起算點ヲ規定シタルモノナリ本條ニ依レハ此起算點ハ犯罪ノ日即チ  
犯罪成立ノ日トス故ニ今日竊盜罪ヲ犯セハ其時効ハ直チニ今日ヨリ始マルモノトス而シテ  
此犯罪成立ノ日ヨリ起算スルハ即時犯ノ場合ニ限ルモノニシテ繼續犯ノ場合ハ少シク之ニ  
異ナルモノナリ

(意義)繼續犯トハ多少ノ時日繼續スヘキ性質アル犯罪ニシテ不法監禁ノ如キ數日或ハ數月

ニ涉リテ繼續スルモノナルヲ以テ此一例ニ屬ス而シテ繼續犯ハ其犯罪行為ノ初ニ於テ犯  
罪ハ既ニ成立セルモ若シ其時ヨリ時効期間ヲ起算セハ其繼續セル行為ノ未タ終ラサルニ  
當リテ時効ノ早ク既ニ完成スルニ至ルコトナシトセス故ニ本條ハ特ニ其最終ノ日即チ行  
爲ノ最終ノ日ヨリ起算スヘキコト、爲シタリ

**第十一條 時効ハ起訴豫審又ハ公判ノ手續アリタルニ因リ其期間ノ  
經過ヲ中斷ス其未タ發覺セサル正犯、從犯及ヒ民事擔當人ニ付テモ  
亦同シ**

時効ノ經過ヲ中斷シタルトキハ起訴、豫審又ハ公判ノ手續ヲ止メタ  
ル日ヨリ更ニ其期間ヲ起算ス

(註)本條ハ時効期間ノ經過ノ中斷スル場合ヲ規定セリ時効ハ起算、豫審又ハ公判ノ手續ア  
リタルニ因リ其期間ノ經過ヲ中斷スルモノトス其未タ發覺セサル正犯、從犯及ヒ民事擔當  
人ニ付テハ同一ナリトス

(意義)中斷トハ時効期間ノ經過ヲ中斷シ以前ノ日子ヲ經タルコトナキニ至ラシムルヲ云フ  
故ニ中斷アレハ前後ノ時間ヲ通算スルヲ得ス其期間ヲ一新シ中斷ノ止ミシ時ヨリ更ニ期  
間ヲ經過スルヲ要スルナリ例ヘハ重罪ヲ犯シテ八年間經過セルニ中斷セハ其時ヨリ更ニ  
十年ヲ要シ前後ヲ通シテ十八年ニシテ時効始メテ成ル而シテ中斷ノ原因ハ起訴、豫審及

ヒ公判ノ手續ノ三種トセリ

中斷ノ效力ノ及フ範圍ハ如何訴ノ中ニ指名サレタル被告人ニ對シテ中斷ノ效力アルノミナラス其中ニ指名サレタル共犯人ニ對シテモ尙ホ其效アリテ檢事カ起訴ノ當時ニ共犯人ノ名ヲ知悉セルモ其不在ナルカ爲メ指名セサリシ者ハ勿論共犯人タルコトヲ知ラサリシ爲メ指名セサリシ者ニ對シテモ尙效力アリ即チ本條ニ其未タ發覺セサル正犯、從犯及ヒ民事擔當人ニ付テモ亦同シトアルコト是ナリ故ニ此ノ中斷ハ人ニ對スルニ非スシテ犯罪事件ニ對スルモノヲ謂フヘシ

第十二條

起訴、豫審又ハ公判ノ手續其規定ニ背キタルニ因リ無効ニ屬スルトキハ時効ノ經過ヲ中斷スル效ナカル可シ但裁判所ノ管轄違ナルニ因リ其手續ノ無効ニ屬スルトキハ此限ニ在ラス

(註)中斷ハ起訴、豫審又ハ公判ノ手續ニ依リテ生スルモノナレトモ其ノ三種ノモノカ其規定ニ背キタルニ因リ無効ニ屬スルトキハ時効ノ經過ヲ中斷スルノ效ナキモノトス故ニ此等ハ共ニ法律ノ規定ニ適セル有效ノ手續ナルニ非サレハ中斷ノ效力ナキナリ然レトモ本條例外ノ場合アリ裁判所ノ管轄違ナルニ因リ其手續ノ無効ニ屬スルトキ中斷ノ效力ノミハ特ニ之ヲ生スルモノトス是レ裁判管轄ハ至難ノ問題ニシテ特ニ事實ヲ取調フルニ非サレハ之ヲ判明スル能ハサルコトナルヲ以テ其錯誤ノ爲メ中斷ノ效ナシトシテ被告人ヲシテ刑ヲ免レ

シムルノ僥倖ヲ得セシムルモノニアラスシテ此例外ヲ設ケタル所以ナリ

第十三條

被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原由告訴人、告發人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重過失ニ出テタルトキハ是等ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得  
被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ告訴人、告發人又ハ民事原告人ヨリ惡意若クハ重過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタルトキ亦同シ

民事原告人公訴ヲ爲シ敗訴シタルトキハ被告人其公訴ニ因リ生シタル損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得

要償ノ訴ハ本案ノ判決アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

(註)本條ハ被告人カ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタルトキハ其告訴告發ニ錯誤アリタルトキハ被告人ハ爲メニ至大ノ迷惑ヲ被ムルヲ以テ其結果ニ付テ規定シタルモノナリ若シ惡意ヲ以テ人ヲ陷害スル爲メ之ヲ爲シタルトキハ誣告罪トシテ刑法上ノ罪アリ且其被告人ノ受ケタル損害ヲ賠償スルノ義務ヲ負フ又告訴人告發人ニ惡意ナキモ重キ過失アルトキハ賠償ノ

義務ヲ負フモノトス即チ其過失ニ出ツルトキハ其過失ノ輕重ニ因リ賠償義務ノ有無ヲ異ニスルモノニシテ而シテ其過失ノ輕重ハ一ニ事實ニ因リ識別セサルヘカラス例ヘハ何人モ其被告人ノ罪アルコトヲ疑フニ足ルヘキ場合ハ其過失タルヤ甚タ輕ク之ニ反シテ多少ノ思慮ヲ費セハ其罪ナキコト直チニ判然スヘキ場合ハ其過失タル甚タ重シト謂フヘシ而シテ此惡意又ハ重過失ニ因リテ賠償ノ義務アルハ當ニ無實ノ犯罪ヲ申立テタル場合ノミナラス其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタル場合モ亦同シキモノトス

以上ノ訴即チ損害賠償請求ハ恰モ公訴ト同シク公訴ニ附帶シテ之ヲ爲スヲ得ヘシ是其便益ナルカ爲ナリ而シテ本條第一項ニハ民事原告人ノ語アリト雖モ本法ニ對シテハ無用ノ語ナリト云フヘシ蓋シ舊治罪法ニ於テハ民事原告人カ私訴ノ申立ヲ豫審判事ニ爲セハ其申立ニ因リ當然公訴ノ提起アリタルモノト看做サレシヲ以テ此民事原告人ノ私訴提起ハ恰モ告訴告發ト同一ノ效力アリ隨テ民事原告人ヲ告訴人告發人ト同視セシモノナルカ本法ハ此規定ヲ改正シ公訴ノ申立ハ公訴提起ノ後ニ於テスヘキモノト爲セシニ因リ二者ヲ同一ニ視ルノ理ナケレハ亦第三項ニモ民事原告人上訴ヲ爲シ敗訴シタルトキハ被告人ニ對シ賠償スヘキ旨ノ規定アリ是レ亦本法ニハ其事ナキモノナリ即チ本法ニ於テ治罪法ト異ナリテ豫審終結ノ決定ニ對シテハ民事原告人ハ異議ヲ爲スコトヲ得ヌ又公判ニ於テモ民事原告人ハ公訴ニ付上訴スルコトヲ得サルカ故ニ第三項ハ無用ノ文ナリ

**第十四條** 被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ判事、檢事、裁判所書

記、執達吏、司法警察官又ハ巡查、憲兵卒ニ對シ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但是等ノ官吏被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル場合ハ此限ニ在ラス

(註)被告人カ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得サル場合アリ即チ本條ノ規定是レナリ本條ニ記載スル官吏カ公務ノ執行ニ付テハ惡意ナキ以上ハ損害賠償ノ責任ナキコトハ一般ノ原則ナリ尤モ其惡意アリタルトキハ刑法ノ犯罪トシテ罰セラル、コトアルノミナラス其賠償ノ責ヲ免レサルナリ

**第十五條** 此法律ニ於テ期間ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ起算シ日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス若シ最終ノ日休暇ニ當ルトキハ期間ニ算入ス可カラス但時効ノ期間ハ此限ニ在ラス  
一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

(註)本條ハ期間ノ計算法ニシテ刑法ニ於テ説明シタレハ今ハ之ヲ略ス

**第十六條** 此法律ニ定メタル期間ニハ海陸路八里毎二一日ノ猶豫ヲ加

フ八里ニ滿サルモノト雖モ三里以上ナルトキ亦同シ

島嶼又ハ外國ニ付テハ裁判所ニ於テ特ニ附加期間ヲ定ムルコトヲ得

(註)本條ハ猶豫期間ヲ定メタルモノナリ猶豫期間トハ一定ノ期間内ニ或行爲ヲ爲スヘキニ當事者カ裁判所々在地ヨリ遠隔地ニ住シ裁判所ニ到ルニハ數多ノ日子ヲ費シ或ハ其期間内ニ到着スル能ハス假令到着期間ハ僅少ノ時間ヲ餘スニ止マリ其行爲ヲ爲スニ十分ノ餘裕ナキコト等アルヲ以テ總テ其距離ノ遠近ニ應シ一定ノ期間以外ニ或期間ノ猶豫ヲ與フルモノヲ云フ

(憲義)陸路八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ加フ八里ニ滿タサルモノト雖モ三里以上ナルトキ亦同シト爲スハ例ヘハ裁判所ヨリ十二里ヲ距ツルトキハ其八里ニ付キ一日殘餘四里ニ付又一日併セテ二日ノ猶豫期間ヲ生スルナリ而シテ此規定ハ「陸海路」トシテ區別ヲ爲サス故ニ陸路ノ一里ハ略ホ海路ノ一里ノ二倍ナルモ爲メニ計算ヲ異ニスルコトナク之ニ付テハ海路、陸路、孰レニモ依リ得ル場合ノ如シ附加期間トハ場合ニ因リ一定ノ期間ニ猶豫期間ヲ加フルモ尙ホ足ラサルカ爲メ更ニ或期間ヲ附加スルモノヲ云フ是レ當事者カ島嶼又ハ外國ニ在ルトキハ交通不便往復自由ナラサルヲ以テ猶豫期間ヲ以テスルモ實際上尙ホ其期間内ニ訴訟行爲ヲ爲シ得サルコトアルニ因ル乃チ適宜ニ附加期間ヲ定メテ之ヲ與ヘシムルモノナリ

第十七條 此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期間ヲ經過シタルトキハ特別ノ場合ヲ除ク外其訴訟ヲ爲ス權ヲ失フ可シ

(註)本條ハ期間ヲ怠リシ場合ヲ規定セリ期間ヲ怠レハ即チ權利ヲ失フヲ以テ原則トス然レトモ此規定ハ總テノ場合ニ適用スルヲ得ス法文ハ「訴訟ヲ爲スニ付定リタル期間ト云ヒ訴訟ヲ爲ス權ヲ失フト云ヘルヲ以テ訴訟ニ關スルモノニ限り適用スヘシ故ニ控訴、上告、故障、抗告等ハ裁判ノ一段落後更ニ訴フルモノニシテ一ノ訴訟タリ此規定ヲ適用スヘキモ其他ノ行爲ニ關スル期間ニ付テハ之ヲ適用スルヲ得ス隨テ其制裁ナシト謂フ可シ

(憲義)本條カ特別ノ場合ハ權利ヲ失ハサルモノトスルコト即チ訴訟ヲ爲スニ付テノ期間ヲ怠ルモ訴訟ヲ爲スノ權ヲ失ハストスル場合ハ左ノ三個トス

第一 第七十三條末段ノ場合 即チ豫審判事カ豫審ヲ終結シテ被告ヲ重罪公判ニ付スル決定ヲ言渡ストキハ其決定正本ニ「此決定ニ對シテハ三日間ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ト記載スヘシ此記載アルニ其期間ヲ怠レハ原則ニ從ヒ其ノ抗告ヲ爲スノ權ヲ失フモ若シ誤テ此記載ヲ爲サ、リシトキハ被告ハ其正本ヲ受取ルモ三日ノ期間ハ經過ヲ始メス再ヒ決定正本ヲ改メ送達ヲ爲スマテハ期間ノ經過停止スルモノナルヲ以テ三日ヲ經過スルモ爲メニ抗告ノ權ヲ失ハス

第二 第二百七條第二項ノ場合 公判ノ對席判決ニ因リ刑ノ言渡アリタルトキハ裁判長

ヨリ上訴ヲ爲シ得ルコト及ヒ其期間ヲ告知スヘク又欠席判決ニ因リ刑ノ言渡アリタルトキハ故障ヲ爲シ得ルコト及ヒ其期間ヲ記載スヘキモノナルニ若シ此告知又ハ記載ヲ爲サ、リントキハ其上訴及ヒ故障ノ期間ノ經過ヲ停止シ實際ニ其期間ヲ經過スルモ失權ノ制裁ナシ

第三 第二百四十七條ノ場合 訴訟關係人カ天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メ上訴期間ヲ經過シタル場合ニ於テ其旨ヲ疏明シタルトキハ期間ヲ經過シタルニ因リ失ヒタル權利ヲ回復スルコトヲ得ヘシ

**第十八條** 訴訟關係人ハ裁判所所在ノ地ニ住セサルトキハ其地ニ假住所ヲ定メ裁判所ニ届出ツ可シ否ラサルトキハ書類ノ送達ナシト雖モ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

本條ハ別ニ説明スヘキコトナケレハ之ヲ略ス

**第十九條** 書類ノ送達ハ此法律ニ於テ別ニ規定アラサルトキハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

(註)書類送達ノ事ハ本條ノ規定アルノミ而シテ「此法律ニ於テ別ニ規定アラサルトキハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス」トノ原則アルノミ今茲ニ民事訴訟法ノ規定ヲ準用セサルモノ、ミヲ擧クルコト、ス

**第七十六條第三項ニ合狀送達ノ規定アリ**「召喚狀ハ執達吏ヲシテ被告人ニ送達セシメ拘引狀拘留狀ハ巡查憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシム」ト爲セリ其召喚狀ヲ執達吏ヲシテ送達セシムルコトハ民事訴訟法ト異ナルナシ然レトモ民事訴訟法ニ在リテハ何レノ場合ニ於テモ送達ヲ受ク可キ本人不在ナルトキハ之ヲ同居ノ家族雇人又ハ市町村長ニ交付スレハ送達ノ效力アリト爲スモ本法ハ單ニ「被告人ニ送達セシム」トアルモ是レ必スシモ民事訴訟法ト異ニスルニ非スシテ民事訴訟法ノ如ク家族等ニ渡スモ其效アリト信スルナリ然レトモ召喚狀ト其性質相似タル呼出狀ナルモノハ公判以後ニ使用スルモノナルカ此呼出狀ハ必ス本人ニ送達セサレハ其效ナシ即チ禁錮以上ノ刑ニ當ル被告人ヲ呼出スニハ本人自ラ此呼出狀ヲ受取リタル場合ニ非サレハ闕席裁判ヲ爲スコトヲ得ス又欠席裁判言渡ノ場合ニ本人此言渡書ヲ受取ルニ非サレハ故障申立ノ期間其經過ヲ始メサル等送達ノ效力ナキモノトス

**第二十條 官吏、公吏ノ作ル可キ書類ハ其所屬官署、公署ノ印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ每葉ニ契印ス可シ若シ官署、公署ノ印ヲ用ユルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其書類ノ效ナカル可シ**

官吏、公吏ニ非サル者ノ作ル可キ書類ニハ本人自ラ署名捺印ス可シ  
(三十二年法律第七十三號改正ニ依ル)



(註)本條以下第二十一條ノニマテハ書類調製ニ付テノ規定ナリ書類ノ調製ニ付テハ第一官吏公ノ作ルヘキ書類ニ必要ナル方式第二官吏、公吏ニ非サル者ノ作ル書類ニ必要ナル方式第三二種ノ書類ニ通シテ必要ナル方式ノ規定ナリ是等ノコトハ説明ヲ要セサルヲ以テ之ヲ略ス

**第二十一條 官吏、公吏訴訟ニ關スル書類ノ原本、正本又ハ謄本ヲ作ル**

ニ付キ文字ヲ改竄ス可カラス若シ挿入、削除及ヒ欄外ノ記入アルトキハ之ニ認印ス可シ文字ヲ削除スルトキハ之ヲ讀ミ得ヘキ爲メ字體ヲ存シ其數ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其變更増減ノ效ナカル可シ(三十二年法律第七十三號ヲ以テ改正)

**第二十一條ノ二 官吏、公吏ニ非サル者ノ署名捺印ス可キ場合ニ於テ**

捺印スルコト能ハサルトキハ署名ノミヲ爲シ署名スルコト能ハサルトキハ立會人ヲシテ代署セシメ捺印ノミヲ爲シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ立會人ヲシテ代署セシム可シ(三十二年法律第七十三號ヲ以テ本條追加)

立會人ハ其代署ノ事由ヲ記載シテ署名シ又ハ署名捺印ス可シ

**官吏、公吏ノ面前ニ於テハ本人署名スルコト能ハサル場合ト雖モ立會人ヲ要セス官吏、公吏代署シテ其事由ヲ附記ス可シ**

**第二十二條 此法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス**

頒布以前ニ爲シタル訴訟手續當時ノ法律ニ背カサルトキハ其效アリトス

(註)本條以下第二十四條マテハ刑事訴訟法適用ノ範圍ヲ規定シタルモノナリ刑事訴訟法モ亦他ノ法律ト同シク公布ニ因リテ初メテ效力ヲ生シ默示或ハ明示ノ廢止ニ因リテ初メテ效力ヲ失フモノトス然レトモ此刑事訴訟法ハ其公布以前ノ法律ニモ之ヲ適用スルヤ否ヤハ全ク刑法ト異ナリ刑法ハ公布以前ノ犯罪ニ及ホサ、ルヲ原則トシ例外トシテ新法ノ輕キトキノミ新法ヲ適用スルモノナルモ刑事訴訟法ハ何等ノ區別ナク總テ公布以前ノ犯罪ニ適用スルモノナリ此ノ如ク刑事訴訟法ハ刑法ト異ナル所以ハ何ソヤ他ナシ刑法ニ關シテハ人民ニ既得權ナルモノアリ故ニ之ヲ害スルニ至レハナリ然ルニ刑事訴訟法ニ至リテハ單ニ犯罪ノ有無ヲ取調ヘ其犯罪ヲ處分スル手續ヲ定メシモノニシテ手續ニ付テハ既得權ナルモノナク舊法ノ下ニ犯罪ヲ爲スモ舊法ノ手續ニ依リ取調ヘ處分サル、ノ權利アリト云フヲ得ス刑事訴訟法ヲ公布以前ノ犯罪ニ適用シテ妨ナキハ之カ爲メナリ若シ夫レ之ニ反シテ其適用ヲ爲スヲ得ストセン却テ至大ノ不都合ヲ免レサルヘシ

### 第二十二條 此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分ス可キ者ニ適用スルコトヲ得ス

(註)刑事訴訟法ノ效力カ人ニ及ホスヘキ效力ハ刑法カ其效力ヲ及ホスヘキ人ト殆ト異ナル所アラス故ニ詳細ハ今刑法ニ説明シタレハ就テ見ルヘシ茲ニ其概略ヲ述ン  
刑事訴訟法ハ日本ノ國土内ニ起レル犯罪ニ付テハ内外人ノ別ナク總テ之ヲ適用スト云ハサルヘカラス外國ニ於ケル犯罪ニ付テモ我邦ノ刑法上之ヲ罰スル場合ニハ亦本條ヲ適用スルモノトス以上ハ其原則ナリ而シテ種々ノ例外アリ即チ左ノ如シ

- 第一 内國ノ主權者
- 第二 外國ノ君主又ハ大統領
- 第三 外國使臣及ヒ其從者眷屬
- 第四 日本ニ對シ治外法權ヲ有スル國ノ臣民
- 第五 陸海軍人軍屬本條ハ此軍人軍屬ニ付テノ例外ヲ規定シタルモノナリ此陸海軍人軍屬ニハ總テ本法ヲ適用セス軍法會議ノ特別ノ法律ニ依リ處分スルモノナリ

### 第二十四條 (本條ハ刑法施行法ニ依リ削除セラル)

(註)本條ハ舊刑法ノ親族例ニ關スル規定ナリシヲ以テ新刑法ニハ親族例ナル者ヲ廢シ民法ノ規定ニ從フコト、ナリタルカ故ニ刑法ニハ親族例ナルモノ、必要ナケレハナリ

## 第二編 裁判所

### 第一章 裁判所ノ管轄

(註)裁判管轄トハ裁判所カ其裁判權ヲ行フ區域ヲ云フ而シテ此區域ハ或ハ事件ノ性質ニ因リ或ハ被告ノ身分ニ因リ或ハ犯罪ノ場所ニ因リ或ハ被告ノ所在ニ因リ又或ハ裁判所ノ階級ニ因リ之ヲ定メ得ヘキモノナリト雖モ我カ刑事訴訟法カ事件ノ性質ト土地ニ因リ之ヲ定ムルナリ而シテ其性質ニ因ルモノハ事物ノ管轄ト云ヒ其土地ニ因ルモノハ之ヲ土地ノ管轄ト云フ我カ刑事訴訟法ニ規定セル所ハ土地ノ管轄ニ止マリ事物ノ管轄ハ裁判所構成法之ヲ定ム然ルニ此ノ土地ノ管轄ト事物ノ管轄トハ場合ニ依リテハ分離スヘカラサルコトアリ故ニ土地ノ管轄ヲ説クニハ事物ノ管轄ヲ説カサルヘカラス

### 第二十五條 犯罪ノ種類ニ關スル裁判所ノ管轄ハ裁判所構成法ノ規定ニ從フ

管轄ヲ異ニスル數箇ノ犯罪ニ付キ同時ニ同一ノ被告人ニ對シ訴アリタルトキハ上級ノ裁判所併セテ之ヲ管轄ス

(註)本條ヲ説明スルニ先ツ事物ノ管轄ト土地ノ管轄トヲ述フ即チ左ノ如シ

第一 事物ノ管轄 裁判所構成法ニ於テハ裁判ノ統一主義ヲ執リテ裁判所ニ階級ヲ設ケ

最下級ヲ區裁判所トシ次ヲ地方裁判所次ヲ控訴院トシ最上級ヲ大審院トス而シテ下級ノ裁判所ハ上級裁判所ノ法律上ノ見解ニ服從セサルヘカラス尤モ同一事件ニ限ルモノニシテ他ノ事件ニ付テハ固ヨリ之ニ服從スルノ義務ナシ事物ノ管轄ハ此裁判所ノ階級ト審級トニ因リ分ル、モノトス

區裁判所ハ違警罪ノ正式裁判ヲ行フ外更ニ輕罪ニ付テ裁判權ヲ有ス

第二 地方裁判所 地方裁判所ハ第一審裁判所ニシテ又第二審裁判所ナリ即チ第一審ト第二審トノ權限ヲ併セ有ス第一審裁判所トシテハ地方裁判所ハ總テ事件ヲ管轄スルヲ原則トシ區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ト後ニ述フヘキ大審院ノ特別權限ニ屬スル事件トヲ除キ他ノ總テノ事件ヲ管轄スルモノナリ

第二審裁判所トシテハ地方裁判所ハ第一ニ區裁判所ノ判決ニ對スル控訴第二ニ區裁判所ノ決定及ヒ命令ニ對スル抗告ノ裁判ヲ爲スモノトス元來抗告ハ區裁判ノ總テノ決定及ヒ命令ニ對シテ爲シ得ルモノニアラス否原則トシテハ之ヲ爲シ得サルヲ常トシ唯々法律カ特ニ許シタル場合ニノミ之ヲ爲シ得ルモノナリ

第三 控訴院 控訴院ハ本來第二審裁判所ナリ然レトモ更ニ第三審即チ終身ノ權限ヲ有ス其第二審裁判所トシテノ管轄ハ地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴ノ裁判ヲ爲シ其終審ノ裁判所トシテノ管轄ハ第一ニ區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付キ爲シタル地方裁判所ノ判決ニ對スル上告第二ノ地方裁判所ノ決定命令ニ對スル法律ニ定メタル抗

告ノ裁判ヲ爲スナリ

第四 大審院 大審院ハ終審裁判所ナリ故ニ第一控訴院ノ第二審ノ判決ニ對スル上告ニ付キ第二ニ控訴院ノ決定及ヒ命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告ニ付キ終審ノ裁判ヲ爲スモノトス大審院ハ此他尙ホ第一審ニシテ終審ヲ兼ネタル裁判ヲ爲ス之ヲ特別權限ト云フ其一ハ刑法第二編第一章及ヒ第二章ニ掲ケタル重罪即チ皇室ニ對スル罪及ヒ國事ニ關スル罪ニシテ其二ハ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノニ係リ豫審及ヒ裁判ヲ爲スモノトス裁判所ノ階級ニ依ル事物ノ管轄ハ以上ノ如シ然ルニ尙ホ此ノ事物ノ管轄トシテ本節中ニ説クヘキモノアリ本條第二項及ヒ第二十八條第三項ノ規定是ナリ

本條第二項ノ規定ニ依レハ數個ノ犯罪中最モ重キ事件ヲ管轄スル裁判所カ他ノ總テノ事件ヲモ併セテ管轄スルモノニシテ例ヘハ五圓以下ノ價額ヲ有スル物品ヲ屋外ニ竊取スレハ明治二十三年法律第九十九號ニ依リ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處スヘキモノニシテ當然區裁判所ノ管轄ニ屬ス然ルニ其被告人カ更ニ屋內ニ於テ金品ヲ竊取スルトキハ刑法第二百三十五條ニ依リ十年以下ノ懲役ニ處スヘキモノニシテ當然地方裁判所ノ管轄ニ屬シ此二件カ同時ニ起訴サレルハ其重キ屋內竊盜ヲ管轄スル地方裁判所ヲ併セテ屋外竊盜ヲモ管轄スルナリ而シテ其他更ニ皇室ニ對スル重罪ニ關スルモノハ大審院カ其總テノ事件ヲ管轄スルナリ

### 第二十六條 同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地又ハ被告人所在ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄ナリトス

(註)本條ハ土地ノ管轄ノコトヲ規定シタルモノナリ土地ノ管轄トハ同等裁判所ノ間ニ於ケル權限ノ範圍ヲ謂フ例ヘハ地方裁判所ノ事物ノ管轄ハ前ニ述シ如クナレトモ地方裁判所ハ全國數十個アリ若シ其ノ相互ノ間ニ於テ權限ノ範圍ニシテ一定セズンハ東京ノ犯罪ヲ長崎ニテ管轄シ静岡ノ犯罪ヲ大阪ニテ管轄スル等檢事ノ意見ニ因リ自由ニシテ或裁判所ハ事務ノ繁忙ニ困ムモ或裁判所ハ却テ閑散ニ堪ヘサルコトアリテ不平均ヲ來スコト少ナカラス是ニ於テカ法律ハ同等裁判所ノ間ニ區劃ヲ設ケ事件ノ管轄ヲ定ムルヲ云フ

(意義)土地ノ管轄ハ犯罪ノ地ト被告人所在ノ地トニ因リテ定マル

第一 犯罪ノ地 犯罪ノ地ニ因リ土地ノ管轄ヲ定ムルハ便利ニ基クモノナリ是レ現ニ犯罪ヲ行ヒタル地ニハ其犯罪ノ證據アリ其事實ヲ知レル證人モ多カルヘシ證據蒐輯上大ニ便利ニシテ且被告人ハ多クハ犯罪ノ地ニ近傍ノ者タルヘキヲ以テ其平生ノ性行ヲ知ルニモ亦便利ナリ故ニ法律ハ裁判所ノ管轄ヲ土地ニ因リ區劃シタルナリ而シテ犯罪ノ地トハ犯罪行為ヲ行ヒシ場所ナルカ將タ其ノ行為ノ結果ヲ生セシ場所ナルカハ疑問ノ生スル所ナリ然ルニ其行為ノ地ヲ以テ犯罪ノ地ト爲シ其行為ノ結果ハ何地ニ生スルモ問フ所ニアラス何トナレハ犯罪ノ犯罪タル行為ノ結果ニアラスシテ行為其モノナレハ

ナリ又犯罪ノ地ハ時トシテハ一場所ニ定マラスシテ所々ニ之ヲ見ルコトアリ繼續犯ノ如キ一罪ニシテ數多ノ犯罪ノ地ナルコトアリ然レトモ犯罪地ハ犯罪行為ノ地ナリ故ニ犯罪ノ豫備タル行為ヲ爲セシ地ハ犯罪地ニアラサルナリ  
然レトモ刑法上時トシテハ豫備ノ行為ヲ罪トスルモノアリ此場合ハ豫備行為ノ地モ亦犯罪地ナリトス是レ其豫備行為其モノカ即チ一ノ犯罪行為ナレハナリ

第二 所在地 被告人所在地ハ其裁判所之ヲ管轄スルコト、爲シタリ去レハ被告人ノ所在地タルニ於テハ其被告人カ任意ニ在住スルト強制ニ因リ在住スルトハ問フ所ニアラス強制ニ因リ在住トハ在獄者カ被告人タル等ノ場合ニシテ此等ノ場合ニハ其在獄即チ拘留地ハ所在地トシテ管轄セラルヘシ又所在ノ地トハ或ハ住居ノ地ヲ稱スルモノ、如クナレトモ然レトモ民法上住居トハ生活ノ本據ヲ指スモノニシテ此所在地トハ必スシモ生活ノ本據ニ限ラス單ニ現在スル地ヲ云ヒ一日一夜ノ滞在若クハ通行ノ途上タルモ妨ナシ然ラハ即チ所在地タルコトヲ定ムルハ如何ナル時期ニ於テ定ムヘキヤハ起訴ノ時ト決スルヲ要ス起訴ノ當時ニ被告人果シテ現在セシナラハ爾後何處ニ走ルモ妨ナク當然其管轄トスヘシ否ラサレハ即チ被告人ニシテ神速ニ遁走セハ管轄裁判所ハ常ニ定ムヘカラサルニ至レハナリ

右ノ如ク犯罪地ト被告人所在ノ地ト二者其一ニ於ケル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス而シテ此事ヲ定メタル本條ノ法文ハ之ヲ豫審及ヒ公判ノ管轄ナリトスレト記シタリ管轄

ニ付テハ豫審ト公判トハ分離スヘカラサルモノニシテ既ニ豫審ヲ管轄セハ當然併セテ公判ヲ管轄スルモノナリ但總テノ事件ニ付キ盡ク豫審ト公判ト併セ存スルニ非サルハ勿論ニシテ區裁判所ニハ全ク豫審ナク公判ノミナリ又地方裁判所ニ於テハ重罪ハ必ス豫審ヲ經ルモ輕罪ハ必スシモ然ラス

### 第二十七條

數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テハ其中ニテ最初豫審

又ハ公判ニ著手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

(註)一犯罪ニ付テモ既ニ犯罪地ト被告人所在地ト並存スルコトアリ加フルニ其犯罪地モ亦數個處並存スルコトアリ此場合ニハ一犯罪ニ付キ數個ノ裁判所カ其管轄タルヲ以テ互ニ相争フニ至リ孰レカ其一ニ歸セシムル規定ヲ設ケサルヘカラス是レ本條ノ規定アル所以ナリ而シテ本條ハ其數個ノ裁判所中ニ於テ最初ニ豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトスルコト、セリ

(意義)訴カ同時ニ數個ノ裁判所ニ起リシ時例ヘハ最初ニ豫審處分ヲ爲セシ裁判所カ之ヲ管轄シ他ノ裁判所ハ皆管轄違ノ言渡ヲ爲スヘシ豫審處分ハ必スシモ一定セサルモ現行犯ニ付テハ通例犯罪ノ場所ニ臨檢シテ檢證ヲ爲スヲ第一着手トス此場合ニ於テハ其檢證調書ノ日付ノ先後ヲ以テ豫審着手ノ先後トスヘシ非現行犯ニ付テハ通例呼出狀又ハ拘引狀等ノ令狀ヲ發スルヲ以テ第一着手トス此場合ニ於テハ其令狀ノ日付ノ先後ヲ以テ豫審着手

ノ先後トスヘシ公判ニ付テモ亦同シク多クハ令狀ヲ發スルヲ以テ第一着手トシ其日付ノ先後ニ因ルヘシ而シテ起訴ノ日ノ先後ノ如キハ問ハス

茲ニ一疑問アリ即チ一犯罪ノ場合ニ於テハ右ノ如ク着手ノ先後ニ因リ管轄ヲ定ムルコト明白ナリシモ若シ一被告人ニシテ多數ノ犯罪ニ付キ同時ニ訴ノ起リシ場合ハ尙ホ本條ノ規定ニ依ルヘキヤハ例ヘハ一人カ仙臺宇都宮及ヒ浦和ノ各地ニ於テ各一罪ヲ犯シ逃レテ東京ニ在ルニ其各地ニ於テ其各犯罪ニ付キ犯罪地ノ故ヲ以テ訴起リ東京ニ於テモ仙臺ニ於ケル犯罪ニ付キ所在地ノ故ヲ以テ訴起レリトセハ仙臺ト東京トハ同一犯罪ニ關スルヲ以テ本條ニ依リ着手ノ先後ヲ以テ孰レカ其一ノ裁判所ヲ其管轄ト定ムヘキモ宇都宮ト浦和トノ犯罪ニ付テハ如何若シ本條ヲ一犯罪ノミノ場合ニ關スル規定ナリトセハ宇都宮ト浦和トノ犯罪ハ各別ニ之ヲ裁判スヘキコト、ナルモ之ニ反シテ本條ハ數罪ニ關シ數裁判所ノ管轄ヲ最初着手ノ裁判所ニ歸スルノ主旨ナリトセハ右例シタル三個ノ土地ニテ犯シタル三罪ニ關シテモ其孰レカニ付キ最初着手シタル一裁判所カ其三罪ヲ總テ管轄スルコト、ナルヘシ蓋シ本條ハ一罪トモ數罪トモ明記セス單ニ數個ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テハト記セシヲ以テ二者共ニ包含スルモノト解スヘシ

以上ハ一人一罪又ハ一人數罪ノ場合ニ於ケル管轄ノ事ニ就テ述シカ更ニ之ニ異ナル數人共犯ノ場合ニ於テ其共犯ノ一人カ復他ノ者ト共犯ヲ爲セシ者ニ付テノ管轄ノ事ヲ説カハ數人一罪ヲ共犯セルトキハ其人多キモ罪ハ一ニシテ固ヨリ分離スルヲ得ス例ヘハ甲乙丙三人大

阪ニ於テ共ニ強盜ヲ犯シ甲ハ名古屋ニ乙ハ尾張ニ丙ハ長崎ニ走リタリトセンニ大阪ハ犯罪ノ地ノ故ヲ以テ他ノ三所ハ被告人所在地ノ故ヲ以テ各其管轄タリ一罪ニ付テ四ヶ管轄裁判所ヲ生スルモ若シ之ヲ分離セハ審理上不便ナルノミナラス裁判ノ互ニ相抵觸スルノ恐アリ大ニ裁判上ノ威信ニ關セン故ニ是レ必スヤ一裁判所ノ管轄ニ歸スヘク而シテ四所其孰レタリトヤ云フニ尙ホ本條ニ依リ最初ニ豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所タルヘシ

**第二十八條** 從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アルトキハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ著手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

裁判所構成法第五十條第二號ニ記載シタル皇族ノ犯罪ニ付テハ其正犯、從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス 大審院ニ於テ之ヲ管轄ス

(註)前條ハ正犯數人ノ場合ナルカ本條ハ正犯ノ外從犯アル場合ノ規定ナリ本條第一項ハ此場合ヲ規定シテ從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトスト爲シタリ是レ從ハ主ニ從フ原則ノ適用ニシテ着手ノ先後ヲ問ハス故ニ甲乙共ニ一罪ヲ犯シ甲ハ正犯ニシテ乙ハ從犯ナルニ甲ハ大阪裁判所ノ管轄ナリトセハ乙ハ其犯罪地及ヒ所在地ノ如何ヲ問ハス必ス大阪裁判所ノ管轄タルヘシ然ルニ乙カ更ニ丙ノ從犯トシテ共ニ一罪ヲ犯セシニ丙ハ名古屋裁判所ノ管轄ナリトセハ丙ハ甲ト關係ナキヲ以テ丙ヲモ大阪ニテ管轄スルヲ得ス隨テ乙ハ

大阪ト名古屋ト各別ニ管轄シ一方ノ裁判終局スルヲ待テ他ノ一方ハ更ニ之ヲ裁判スルノ外ナシ

**第二十九條**

外國ニ在テ犯シタル罪本邦ノ法律ニ依リ處斷ス可キモノニシテ内地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタルトキハ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス又外國ヨリ送致シタルトキハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

關席判決ヲ爲ス可キ場合ニ於テ被告人最後ノ住所ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

(註)本條ハ土地ノ管轄ニ關スル原則ニ對シ二個ノ例外ノ場合ヲ規定シタルモノナリ

第一 外國ニ在テ犯シタル罪ニ付テノ管轄 刑法上日本人又ハ外國人カ外國ニ在テ日本刑法ニ觸レタル罪ヲ犯セハ日本刑法ニ依リ之ヲ處罰スルコトヲ得ルヤト云フニ刑法上ニハ何等ノ明文ヲキモ本條ノ規定ニ付キ之ヲ罰スル場合アリトセヨ此場合ニハ前ニ述タル原則ニ因リ土地ノ管轄ヲ定ムル能ハス即チ犯罪地ハ外國ナルヲ以テ日本ニ於テ之ヲ處罰スルニ當リ犯罪地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリト爲スヲ得ス然レトモ所在地アルコトハ之ヲ想像シ得ヘク犯罪ハ外國ニ於テセシニ其人日本人ナリトセハ日本ニ歸ルコトアルヘク又外國人ナリセハ日本ニ來ルヘキコトアルヘキヲ以テ其場合ニ於テ其所在

地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトセハ大ニ便宜ナリ然ルニ法律ハ被告人逮捕ノ地ト送致ノ地トヲ以テ管轄ト爲シタリ故ニ此規定ハ實地ニ適用スルヲ得スシテ殆ト定文タルヲ見ル逮捕ノ地ニ就テ述ヘンニ現行犯ノ外ハ令狀ナクシテ逮捕シ得サルニ此犯罪ハ外國ニ於テモシモノナレハ日本裁判所ニ在テハ必ス非現行犯タリ而シテ非現行犯ヲ逮捕スルニハ一定ノ管轄裁判所アリテ令狀ヲ發スルコトヲ要シ隨テ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ管轄スト云フハ言フ可クシテ行フヘカラサルモノタリ若シ強テ其適用ヲ求メンカ外國ニ於テ罪ヲ犯セシ者カ更ニ日本ニ於テ他ノ罪ヲ犯シ爲メニ之ヲ逮捕セシトキハ初メテ逮捕ノ地ヲ生シ其外國ニ於ケル犯罪ヲモ併セテ管轄スルコト、爲スノ外ナシ又送地ノ地ト云フモ同一ニシテ外國ニ於ケル犯罪人ノ送致ハ我ヨリ之ヲ請求スルヲ要シ若シ罪人引渡條約ナキトキハ縱令ヒ之ヲ請求スルモ外國政府ハ好意ヲ以テ之ニ應スレハ格別之ニ應シテ送致スヘキノ義務アルモノニアラス條約ノ締結アルニ依ル請求ト雖モ令狀ヲ要スルモノニシテ令狀ニ依ラスシテ人ヲ拘束スルヲ得ス引渡ヲ請求シテ之ヲ送致スルニハ必スヤ令狀ヲ發シ令狀ハ管轄裁判所ヨリ發スヘキモノナレハ送致以前ニ管轄裁判所ノ既ニ定マルコトヲ要シ隨テ送致ノ地ヲ管轄スト云フハ亦行フヘカラサル事ナリ故ニ此場合ニハ其事件毎ニ裁判ヲ以テ其管轄裁判所ヲ決定スルコト、爲スヲ可トス而シテ此管轄裁判所ヲ指定スヘキ申請ヲ受ケ之ヲ決定スル裁判所ハ大審院ナリトス

第二項ハ外國ニ於ケル犯罪ニ付キ其欠席裁判ニ關スル一ノ特別ノ管轄ヲ設ケタリ即チ外

國ニ於ケル犯罪ハ縱令ヒ日本ニ於テ之ヲ罰スルコト、スルモ其被告人ニシテ若シ日本ニ來ラサルハ欠席裁判ヲ爲スノ外ナシ而シテ此場合ハ被告人ノ最後ノ住所ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ト爲スコト、セリ

**第三十條 海船内ノ犯罪ニ付テハ定繫港又ハ犯罪後最初ニ著船シタル地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス**

(註)本條ハ海船内ノ犯罪ニ付テノ管轄ヲ規定セリ海上ノ船舶内ニ於ケル犯罪ニ付キテモ亦原則ニ犯罪地ヲ以テ管轄ヲ定ムル能ハス唯タ所在地ヲ以テ管轄ト爲スコトヲ得ヘキモ法律ハ此原則ニ從ハスシテ本條ハ定繫港又ハ最初ニ著船シタル地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトスト定メタルナリ

(意義)定繫港トハ通例船籍ノ所在地ニシテ船籍ノ在ル所ハ常ニ碇繋セサルモ尙ホ碇繋港タリ法律上常ニ其港ニ在ルト看做ス隨テ其地ノ裁判所ハ最モ其ノ船舶ノ事ニ通曉シ審理上便宜多シト看做スナリ又犯罪後最初ニ著船シタル土地トハ別ニ説明ヲ要セス犯罪ノ時ヲ隔ツル最モ少ク場所ヲ距ルコト最モ近ク且ツ其犯罪ノ事實ヲ知ルヘキ同船ノ乗客カ未タ散亂セサル時期タルヲ以テ乃チ其地ノ裁判所ヲ其管轄ト爲セシナリ

**第三十一條 管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲ス場合及ヒ其決定ヲ爲ス裁判所ハ裁判所構成法第十條ノ規定ニ從フ**

(註)本條ハ管轄裁判所ノ定マリ難キ場合ニ其裁判所ノ指定ヲ申請スヘキ場合ト其決定ヲ爲ス裁判所トニ付テノ規定ナリ管轄裁判所ノ指定ハ相當ナル事物ノ管轄及ヒ土地ノ管轄裁判所ニ差支ヘアリテ裁判ヲ爲ス能ハサルトキ或事件カ何レノ裁判所ノ管轄ニ屬スルヤ分明ナラサルトキ若クハ數個ノ裁判所間ニ管轄争ノアルトキニ起ルモノナリ

(憲義)管轄争ニハ積極消極ノ二種アリ孰レノ裁判所ニ於テモ其管轄ナリト主張シ互ニ相讓ラサルトキハ所謂積極的争議アリ之ニ反シ孰レノ裁判所ニ於テモ其管轄ニアラスト主張シ互ニ其管轄ヲ認めサルトキハ消極的争議ナルモノトス以上ノ場合ニ於テハ孰レノ裁判所ニ於テ其裁判ヲ受クヘキヤ明カナラサルカ故ニ上級裁判所ノ指定ヲ俟ツノ必要アリ本法ニハ其管轄指定ニ關スル手續ノミ規定シアリテ管轄指定ノ申請ヲ爲スヘキ場合ト其指定ヲ爲スヘキ裁判所トハ裁判所構成法第十條ノ規定スル所ナリ

**第三十二條** 管轄裁判所ノ指定ニ付テノ申請ハ檢事其他訴訟關係人ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

大審院ニ於テ管轄裁判所ヲ指定ス可キ場合ニ於テハ檢事總長ハ司法大臣ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其申請ヲ爲スコトヲ得

(註)本條ハ意義明了ニシテ説明ヲ要セス本條ニ訴訟關係人トアルハ被告人民事原告人被告人ノ法律上代理人民事被告人及ヒ辯護人ヲ云フ

**第三十三條** 管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲サントスル者ハ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ其趣意書ヲ差出ス可シ  
裁判所ハ書類ニ依リ其申請ヲ決定ス可シ

**第三十四條** 犯罪ノ性質、被告人ノ身分、員數、地方ノ民心其他重大ナル事情ニ由リ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スル恐アルトキハ公安ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得

(註)本條以下第二十九條マテ裁判管轄ノ移轉ノ場合ヲ規定シタルナリ裁判官管轄移轉ノ場合ニ二個アリ第一ハ公安ノ爲メニスルト第二ハ嫌疑ノ爲メニスルモノ是ナリ法文明了ナレハ説明ヲ要セス

**第三十五條** 公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ司法大臣ノ命ニ因リ大審院檢事總長ヨリ其院ニ之ヲ爲ス可シ  
大審院ニ於テハ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クコトナク其申請ヲ決定スヘシ

**第三十六條** 被告人ノ身分、地方ノ民心又ハ訴訟ノ模様ニ因リ裁判ノ



公平ヲ維持スルコト能ハサル恐アルトキハ嫌疑ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得

**第三十七條** 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ管轄裁判所ノ檢事其他訴訟關係人ヨリ上級裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得  
民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ナクシテ本案ニ付キ辯論ヲ爲シタルトキハ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス

**第三十八條** 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ヲ爲スニハ其趣意ニ通テ原裁判所ニ差出ス可シ裁判所書記ハ速ニ一通ヲ相手方ニ送達シ相手方ハ其送達アリタルヨリ三日内ニ答辯書ヲ差出スコトヲ得

裁判所ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ其訴訟手續ヲ停止ス可シ  
**第三十九條** 前條ノ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ於テハ書類ニ依リ其申請ヲ決定ス可シ

## 第二章 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避回避

(註)裁判所職員ノ除斥トハ職員カ或場合ニ於テ法律ニ依リ其職務ノ執行ヨリ除斥セララル、コト即チ其ノ職務ノ執行ヲ爲スヲ得サルコトヲ云フ而シテ判事ノ除斥トハ第四十條ノ規定ニ依リ四種ノ原因ニ由ルモノトス

**第四十條** 判事ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ依リ其職務ノ執行ヨリ除斥セララル可シ

- 第一 判事被害者ナルトキ
- 第二 判事又ハ其配偶者ト被告人、被害者又ハ是等ノ者ノ配偶者ト親屬ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ
- 第三 判事其事件ニ付キ證人、鑑定人ト爲リタルトキ又ハ被告人若クハ被害者ノ法律上代理人ナルトキ
- 第四 判事其事件ノ豫審終結ニ干與シ又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ前審ニ干與シタルトキ

(註)判事ハ本條ニ記載スル四種ノ場合アルトキハ法律ニ依リ其職務ノ執行ヨリ除斥セララルヘシ(第一)判事被害者ナルトキ(第二)判事又ハ其配偶者ト被告人、被害者又ハ是等ノ者ノ

配偶者ト親屬ナルトキ(第三)判事其事件ニ付キ證人、鑑定人ト爲リタルトキ又ハ被告人若クハ被害者ノ法律上ノ代理人ナルトキ(第四)判事其事件ノ豫審終結ニ干與シ又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ前審ニ干與シタルトキ

(意義)第一ノ場合 判事カ被害者ナルトキハ多クハ金錢上多少ノ損害ヲ被リ隨テ之ヲ回復スルノ權利ヲ生スルヲ以テ之ヲ傷ケスシテ満足ナル回復ヲ得ントハ人情ノ自然ナルニ自カラ其裁判ヲ爲セハ其自己ノ利害ノ爲メ公平ノ裁判ヲ爲シ得サルハ免レ難キノ通弊タリ固ヨリ公平公正自己ノ利害ノ爲メ其裁判ヲ枉ケサル者アラシモ普通ハ之ニ反スルヲ以テ法律ハ判事ヲシテ其裁判ニ干與スルコトヲ得サラシム

第二 判事又ハ其配偶者ト被告人 被害者又ハ是等ノ者ノ配偶者ト親屬ナルトキ此場合ハ四種ノ場合ヲ包含スルモノトス即チ左ノ如シ

(イ)判事ト被告人又ハ其配偶者ト親屬ナルトキ 凡ソ親屬ニ厚クシテ他人ニ薄キハ人情ノ自然タリ故ニ親屬ニシテ被告人タレハ成ルヘク之ヲ救助セントスルヲ免カレス是ヲ以テ法律ハ其公平ノ裁判ヲ得サルヲ恐レ之ヲ除斥ス被告人ノ配偶者カ親屬ナルトキ亦同シ

(ロ)判事ト被害者又ハ其配偶者ト親族ナルトキ 此場合ハ前ニ反シ判事カ被告人ニ對シ民法上ノ權利ヲ有シ又ハ少クトモ惡感情ヲ懷ケル被害者又ハ其配偶者ト親族ナルヲ以テ前者ヲ害シ後者ヲ助ケントシテ公平ヲ維持シ得サルノ嫌アリ乃チ之ヲ除斥スルナリ

ルナリ

(ハ)判事ノ配偶者ト被告人又ハ其配偶者ト親族ナルトキ (イ)ノ場合ト同シ

(ニ)判事ノ配偶者ト被害者又ハ其配偶者ト親族ナルトキ (ロ)ノ場合ト同シ

以上ノ親族カ姻族ナル場合ニ於テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シク除斥スルコト法文ノ明示スル所ナリ是レ其婚姻ノ解除カ配偶者ノ死亡ニ因ルトセンカ其配偶者トノ間ニ於ケル遺兒又ハ其配偶者等ノ親族等ニ對シ尙ホ愛情ヲ存シ依然トシテ公平ヲ維持スルコト能ハサルモノトスルニ在ルナリ

第三ハ理由ノ相異ナル二個ノ場合ヲ包含スルヲ以テ左ニ分説セン

(イ)判事其事件ニ付證人鑑定人トナリタルトキ 凡ソ或事件ノ證人トシテ裁判所ニ喚出サレ證言ヲ爲ストキハ宣誓シテ誠實ノ陳述ヲ爲スヘキ若シ虛偽ノ陳述ヲ爲セハ偽證罪トシテ罰セラル鑑定人カ鑑定ヲ爲シテ意見ヲ述フルトキ亦同シ判事カ此等ノ位置ニ立チ一旦誠實ナリトシテ事實又ハ意見ヲ陳述セシ後ニ又其事件ノ裁判ヲ爲サハ如何其證言又ハ意見ト全く同一ノ裁判ヲ爲スヤ必セリ是レ其裁判ニ干與セシムヘカラサル所以ナリ

(ロ)判事カ被告人若クハ被害者ノ法律上代理人ナルトキ 判事カ被告人ノ法律上代理人ナルトキハ民法上被告人ヲ保護スヘキ義務アリ而シテ判事トシテハ固ヨリ公平ニ裁判スヘク特ニ一方ヲ保護スルコトヲ得ス故ニ判事ノ資格トハ法律上代理人ノ資格

トハ同時ニ同一人ノ上ニ並立スルヲ得サルモノナリ其餘斥タルコト知ルヘシ  
第四モ亦左ノ二種ノ場合ニ分説スヘシ

(イ) 判事其事件ノ豫審終結ニ干與シタルコト 豫審終結ニ干與シタル判事ハ其事件ノ  
公判ニ付テモ除斥セラル而シテ豫審終結ニ干與スルコトハ豫審ハ全ク公判ト異ニシ  
テ終始同一ノ判事カ審理決定ヲ爲スヲ要セス例ヘハ甲豫審判事カ或事件ノ豫審ニ着  
手シ臨檢及ヒ證人訊問等ヲ爲セシニ甲ハ他ノ裁判所ニ轉補サレ乙豫審判事カ代リテ  
其豫審ヲ擔當セリトセハ乙ハ新ニ甲ノ既ニ爲セシ手續ヲ爲スヲ要セス甲ノ手續ニ依  
リ其調書ヲ利用シ爾後ノ手續ヲ續行スレハ可ナリ而シテ此ノ干與者ヲ除斥スルハ先  
入手ト爲リ豫斷ヲ生シテ公平ノ裁判ヲ得サルノ恐アルカ爲メナリ

(ロ) 判事不服ヲ申立テラレタル裁判ノ前審ニ干與シタルトキ 是レ第一審公判ノ以後  
ニ生スル事實ニシテ第一審ノ裁判ニ干與シタル者ハ第二審第三審ノ裁判ニ付テ除斥  
セラレ第二審ノ裁判ニ干與シタル者ハ第三審ノ裁判ニ付テ除斥セラル、モノナリ

**第四十一條 判事法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラル、場合及ヒ偏  
頗ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ル可キ情況アル場合ニ於テハ檢事  
其他訴訟關係人ヨリ之ヲ忌避スルコトヲ得**

(註) 本條ハ忌避ノ場合ヲ規定セルモノナリ忌避ハ訴訟當事者ヨリ判事ノ裁判ヲ受クルコト

ヲ拒ムノ方法ナリ其原因ハ二種アリ

第一 判事法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラル、場合 除斥ノ原因アル場合ハ又當然  
忌避ノ原因タルナリ元來除斥ノ原因アルトキハ判事ハ法律ノ規定ニ因リ當然除斥セラ  
ル、モノナルヲ以テ此場合ニハ更ニ忌避ノ手續ヲ爲スニ及スト雖モ其判事又ハ裁判所  
共ニ其事ニ心着カス若クハ其原因ナシト信スルトキノ如キ當事者ノ爲之ヲ忌避ノ原因  
ト爲スハ必スシモ無要ノコトニアラス

第二 判事ニ偏頗ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ルヘキ情況アル場合 例ヘハ判事カ被  
告人若クハ被害者ト親族ニハアラサルモ情交深密ナルトキノ如キ判事カ賄賂タラサル  
モ或贈遺ヲ受クルノ如キ或ハ偏頗ノ疑ヒアリ此等ノ場合ヲ云フモノナリ

**第四十二條 忌避ノ申請及ヒ其裁判ニ付テハ民事訴訟法第三十四條乃  
至第三十八條ノ規定ニ從フ**

(註) 忌避申請ノ手續ハ本法ニ其規定ナク本條ハ民事訴訟法第三十四條乃至第三十八條ノ規  
定ニ從フコト、セリ而シテ同法第三十八條ノ規定ニ「忌避ノ申請ヲ不當ナリト宣言スル決  
定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得」トアリ而シテ即時抗告ト該法第四百六十六條ニ於  
テ七日ノ不變期間内ニ之ヲ爲スヘキモノトセリ此期間ハ一ノ疑問ニ屬ス即チ本法第二百九  
十五條ニ依レハ抗告ノ期間ハ總テ三日ナルヲ以テ此忌避ニ關スル即時抗告ノ期間ハ本法ニ

依リ三日トスヘキカ將タ尙ホ該法ニ從ヒ七日トスヘキカ本條ニハ該法第三十八條ニ從フトアリテ該條ニ即時抗告ノ語アリ該條ノ即時抗告ハ該法七日間ニ爲スヘキモノナルヲ以テ此刑事上ノ忌避ニ關スル抗告モ亦七日トスルコト一應ノ見解タリ然レトモ詳細ニ之ヲ熟察スレハ該法ノ期間ハ概シテ長キニ即時抗告ハ特ニ急速ヲ要スル爲メ之ヲ短縮シテ七日ト爲セシモノナルカ本法ノ抗告ハ更ニ短ク普通ニ三日タリ而シテ此忌避ニ關スル抗告ハ本裁判ノ執行ヲ中止スルモノナルヲ以テ及フヘク之ヲ迅速ニスヘキヲ本旨トスルニ却テ普通ノ期間三日ヨリモ長クシテ七日ト爲スハ是レ本法ノ本旨ニ非ス殊ニ本法ハ該法第三十八條ニ從フトアリト雖モ該法第四百六十六條ニ從フト云ハスシテ而シテ該法第三十八條ハ單ニ即時抗告ヲ許スノ規定ニシテ期間ノ規定ニ非ス故ニ刑事上ノ忌避ニ關シテハ該法第三十八條ニ依リテ抗告ヲ爲シ得ヘク而シテ抗告ノ期間ハ本法ニ依リ三日間ナリト爲スヲ適當トス

**第四十三條** 忌避ノ申請アリタルトキハ公判ニ付テハ其辯論ヲ中止ス可シ豫審ニ付テハ仍ホ其處分ヲ繼續ス可シ但急速ヲ要セサル事件ニ付テハ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得

(註)忌避ノ申請ヲ正當トシテ成立テハ其忌避サレシ判事ハ其事件ニ干與スルヲ得サルコトナル又申請不當トシテ却下サルレハ當事者ハ其裁判ヲ受ケサルヲ得ス然ルニ申請ト其申請ニ對スル法定トノ間ハ裁判ヲ中止スルヤハ本條ノ規定ニ明カナリ本條ハ公判ト豫審トヲ

區別シ公判ニ付テハ其決定アルマテ辯論ヲ中止スヘク其間ニ之ヲ爲スモ無効タリ縱令申正不當ノ決定アルモ其決定前ノ分ノ無効タルハ同一トス豫審ニ付テハ之ニ反シ此申請ノ爲メニ手續ヲ中止セス之ヲ繼續スルヲ原則トス是レ豫審處分ハ證據蒐集ヲ目的トシ極メテ迅速ヲ要スルモノニシテ若シ之ヲ中止セハ爲メニ有力ノ證據ヲ失ヒ有罪者ヲ無罪者トシテ放免セサルヘカラサルニ至ルコト多キカ爲メナリ

**第四十四條** 判事自ラ第四十條ニ定メタル原由アルコトヲ認メ又ハ回避ス可キモノト思料シタルトキハ忌避申請ノ管轄裁判所ニ回避ノ申立ヲ爲ス可シ

其裁判所ニ於テハ回避ノ申立ヲ裁判ス可シ

(註)本條ハ判事自ラ裁判ニ干與スルコトヲ遠慮スル場合ノ規定ナリ之ヲ回避ト云フ而シテ回避ノ原因ハ本條ニ於テ二個ヲ擧ケ其一ハ除斥ノ原因アルコトヲ認メタルトキ其二ハ回避スヘキモノト思料シタルトキト爲セリ後者ハ要スルニ偏頗ノ裁判ヲ爲スノ嫌疑アルヘキ場合ノ如キ縱令判事自身ハ公平無私ナルモ苟モ其嫌疑アルニ於テハ裁判ノ威信ニ關スルモノアルヲ以テ自ラ其裁判ニ干與スルコトヲ避クルヲ妥當トス故ニ忌避ノ場合ト法文ヲ異ニスルモ畢竟同一ノ原因ナリト謂フヘシ

回避ノ申立ハ本條ノ規定ニ依リ忌避ノ申請ヲ管轄スル裁判所ニ之ヲ爲ス可ク該裁判所ハ其

申立ニ付キ當否ヲ裁判スヘキモノトス而シテ其申立ハ書面ヲ以テス可キカ口頭ヲ以テス可キカニ付テハ何等ノ規定ナキニ因リ孰レニ依ルモ亦可ナルモノトス

**第四十五條** 本章ノ定規ハ裁判所書記ニモ之ヲ準用ス但其裁判ハ書記所屬ノ裁判所之ヲ爲ス可シ

(註)此回避ノ規定ハ裁判所書記ニモ準用ス而シテ書記回避ノ申立ハ其書記所屬ノ裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス以上除斥、忌避、回避ノ申請ハ檢事ニハ之ヲ準用セス是レ檢事ハ訴訟當事者ナルヲ以テ公平ノ維持偏頗等ノ事ヲ爲スノ必要ナシトノ旨趣ニ因リテ同シク裁判所ノ職員ナルニ拘ハラズ此規定外ノ者ナリトス

### 第三編 犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

#### 第一章 捜査

(註)犯罪ノ捜査ハ公訴提起ノ準備ニ過キス而シテ公訴ハ檢事之ヲ提起スルモノナルヲ以テ犯罪ヲ捜査スルノ職權モ亦隨テ檢事ニ屬ス然ルニ檢事ハ各裁判所ニ設ケアルモ其人員甚少ク以テ檢事自ラ總テノ犯罪ヲ捜査スル能ハス故ニ其補佐官トシテ司法警察官ニモ此捜査ヲ爲スコトヲ許セリ而シテ司法警察官ハ此ノ如ク檢事ノ補佐官ニ過キサルニ因リ檢事ノ指揮ヲ受ケテ其事ニ當ラサルヘカラス

**第四十六條** 檢事ハ後ニ記載シタル告訴、告發、現行犯其他ノ理由ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ其證據及犯人ヲ捜査ス可シ

(註)檢事司法警察官等カ犯罪ノ捜査ヲ爲スニハ犯罪アリシコトヲ知ラサル可カラサルハ言フヲ俟タス而シテ之ヲ知ルニハ其如何ナル原因ニ依リシヤヲ問フコト無シ本條ニハ告訴告發現行犯其他ノ理由ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキ云々トアリ是其主要ナルモノヲ舉ケシニ止マル其他如何ナル理由ニ因リテ知り得ルモ妨ナシ

**第四十七條** 警視總監及ヒ地方長官ハ其管轄地内ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スルニ付キ地方裁判所檢事ト同一ノ權ヲ有ス但東京府知事ハ此限ニ在ラス

左ニ記載シタル官吏、公吏ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査ス可シ

第一 警視警部長、警部、警部補

第二 憲兵將校、下士

第三 島司

第四 郡長

第五 林務官

第六 市町村長

(註) 檢事ノ外ニ司法警察官ナル者アリ檢事ノ補助トシテ此捜査權ヲ有ス然レトモ其例外トシテ東京ニ於テハ警視總監地方ニ於テハ府縣知事ハ獨立シテ此捜査權ヲ有ス但此二者モ亦司法警察官タル資格ヲ以テ之ヲ有スルニ過キサルナリ本條第二項ニ依レハ司法警察官トハ警視(東京ニ於テ)警部長(地方ニ於テ)警部、警部補、憲兵將校下士、島司、郡長、林務官市町村長ヲ云フ巡查ハ警部代理ノ場合ノ外司法警察官タラス又林務官トハ農商務省ノ官制中ニ所謂林務官ニ非スシテ總テ林務ニ從事スル官吏ヲ總稱スルモノトス其他間稅官吏ハ間接國稅違反者ニ付稅關官吏ハ稅關反則者ニ付船長ハ海船内ノ犯罪ニ付各此捜査權ヲ有ス

**第四十八條** 海船内ノ犯罪ニ付テハ船長ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ可シ

第一節 告訴及ヒ告發

**第四十九條** 何人ニ限ラス犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得

司法警察官告訴ヲ受ケタルトキハ違警罪ニ付キ即決ヲ爲ス場合ヲ除ク外速ニ其書類ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致ス可シ

(註) 告訴告發ハ孰レモ檢事司法警察官ニ犯罪アルコトヲ申告スル方法ニシテ告訴ハ犯罪ニ因リ害ヲ被フリシ者ヨリ申告スルノ方法ナリ即チ告訴ヲ爲スハ必ス被害者ナラサルヲ得ス告發ハ之ニ反シテ何人モ之ヲ爲シ得ヘク苟モ犯罪アルコトヲ認知若クハ思料シタル者ハ自己ノ其犯罪ニ付何等ノ關係ナキニ拘ハラズ之ヲ申告スルヲ得ヘシ否國民トシテハ之ヲ申告スルノ義務アリト云フヲ得ヘシ

告訴告發ヲ受クルハ檢事若クハ司法警察官ニ限り其他ノ者ハ之ヲ受クルノ權ナク裁判所ノ如キ亦其權ナシ故ニ之ヲ受クルモ其效ナシ而シテ檢事司法警察官共ニ管轄區域自ラ一定セルヲ以テ其適當ノ區域ニ於テスヘク即チ告訴ハ被告人ノ所在地又ハ犯罪地ノ檢事若クハ司法警察官ニ對シテ之ヲ爲スヘシ告發ハ告發人ノ所在地又ハ犯罪地ノ檢事若クハ司法警察官ニ對シテ之ヲ爲スヘシ但シ其管轄ヲ誤マルモ之カ爲ニ其告訴告發ノ無效タルカ如キ制裁アルニ非ス元來告訴告發ハ唯タ之ヲ官ニ告知スルニ過サルモノニシテ之ヲ告知スルニ於テハ之ヲ罰スルニ妨ナシ但親告罪ニ付テハ告訴ハ一ノ訴追條件タルヲ以テ特ニ其管轄ヲ守ラサルヘカラス又告發ニ於テモ一種ノ特例ニ屬スルモノアリ第五十二條ノ規定スル所ナリ

**第五十條** 告訴人ハ成ル可ク其證據及ヒ事實參考ト爲ル可キコトヲ申

立ツ可シ

第五十一條 告訴ハ告訴人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スコシ

又告訴ハ口述ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其告訴ヲ受ケタル官吏ハ調書ヲ作り告訴人ニ之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺印ス可シ若シ告訴人署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

(註)告訴告發ノ方式即チ手續ニ付テハ必ス遵守スヘキ一定ノ規定アラズ口述、書面孰レヲ以テスルモ妨ナシ然レトモ口述ヲ以テ告訴ヲ爲ストキハ之ヲ受ケル檢事又ハ司法警察官ニ於テ調書ヲ作り告訴人ニ署名捺印スヘシ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ又書面ヲ以テスルトキハ通常之ニ署名捺印スルヲ要ス

第五十二條 官吏、公吏其職務ヲ行フニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ速ニ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發ス可シ

告發ハ官吏、公吏ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ成ル可ク證

憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ添フ可シ

(註)官吏公吏其職務ヲ行フニ因リ犯罪アルコトヲ認知又ハ思料シタルトキハ速ニ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發スヘシ是レ職務ニ關係ノ事件ナルヲ以テ其官吏若クハ公吏タル資格ヲ以テ告發スルモノニシテ假令官吏公吏ト雖モ其職務ニ關係ナキ事件ニ付テハ固ヨリ一人トシテ告發スルニ過キス而シテ此官吏公吏トシテノ告發ハ其職務上ノ義務ナルニ因リ若シ之ヲ怠レハ刑法上ノ罰ナキモ懲戒ノ處分ヲ受ケルコトヲ免レス

第五十三條 何人ニ限ラス犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ第五十條第五十一條ノ規定ニ從ヒ其所在ノ地若クハ犯罪ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ告發スルコトヲ得

告發ヲ受ケタル司法警察官ハ第四十九條ノ規定ニ從ヒ其處分ヲ爲スコシ

第五十四條 告訴、告發ハ代人ニ委任シテ之ヲ爲スコトヲ得但第五十二條ノ場合ハ此限ニ在ラス

無能力者ノ告訴ハ法律上代理人之ヲ爲スモ其效アリトス

第五十五條 告訴、告發ハ其取下ヲ爲シ又ハ其申立ヲ變更スルコトヲ

得此場合ト雖モ第十三條ノ規定ニ從ヒ被告人ヨリ要償ノ訴ヲ受クル  
コトアル可シ

(註)告訴告發ハ其取下ヲ爲スコトヲ得又其申立ノ一部ヲ變更スルコトヲ得ヘシ然レトモ多  
クノ場合ニ於テハ原則トシテ其取下又ハ變更ハ其效ナシト云ハサルヘカラス何トナレハ檢  
事カ當初ノ申立ニ因リ既ニ其事實ヲ知りタル以上ハ必ス之ヲ訴追スヘケレハナリ但親告罪  
ニ付テハ告訴ノ取下ハ公訴權消滅ノ原因タルヲ以テ十分ニ其效アルモノナリ  
告訴告發ニ錯誤アリタルトキハ被告人ハ爲メニ至大ノ迷惑タルヲ以テ其結果若シ惡意ヲ以  
テ人ヲ陷害スル爲メ之ヲ爲シタルトキハ誣告罪トシテ刑法上ノ制裁ヲ免レス且其被告人ノ  
受ケタル損害ヲ賠償スルノ義務ヲ負フ又告訴人告發人ニ惡意ナキモ重過失アルトキハ尙ホ  
第十三條ニ依リ賠償ノ義務ヲ負フ即チ過失ニ出ツルトキハ其過失ノ輕重ニ因リ賠償義務ノ  
有無ヲ異ニスルモノニシテ而シテ其過失ノ輕重ハ一ニ事實ニ因リ識別セサルヘカラス例ヘ  
ハ何人モ其被告人ノ罪アルコトヲ疑フニ足ルヘキ場合ハ其過失タルヤ甚タ輕ク之ニ反シテ  
多少ノ思慮ヲ費セハ其罪ナキコト直チニ判然スヘキ場合ハ其過失タル甚タ重シト謂フヘシ  
而シテ此惡意又ハ重過失ニ因リ賠償ノ義務アルハ實ニ無實ノ犯罪ヲ申立テタル場合ノミナ  
ラス其犯罪ニ付キ過實ノ申立テヲ爲シタル場合モ亦同シキモノトス

### 第二節 現行犯罪

第五十六條 現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シ  
タル罪ヲ謂フ

(註)本條ハ現行犯罪ノ規定ニシテ其現行犯ノ如何ナルモノナルヤハ本條ハ「現ニ行ヒ又ハ  
現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪」ヲ謂フト定義ヲ與ヘタリ

(意義)現行犯トシテ最モ正當ナルハ現ニ行フ際ニ發覺シタル罪ニ在リ殺人罪ニ就テ云ヘハ  
現ニ刀ヲ擧ケテ人ヲ斬リツ、アル場合ニ發覺シタルノ類ヲ云フ然ルニ本條ハ現ニ行ヒ終  
リタル際ニ發覺シタルモノモ亦之ヲ現行犯ト爲シタリ現ニ行ヒ終リタル際トハ行ヒ終リ  
テヨリ幾許ノ時間ヲモ經サル場合ナルコト明カナリ亦發覺トハ何人ニ發覺シタルヲ云フ  
ヤ自首ノ場合ニ於ケル發覺ハ官ニ發覺シタルヲ云フ然レトモ現行犯ノ場合ニ於ケル發覺  
トハ必スシモ官ニ限ラス第六十條ニ現行犯ニ付テハ何人モ之ヲ逮捕シ得ト爲セルニ依リ  
何人ニ對シテ發覺スルモ亦之ヲ發覺ト云フテ可ナリ

第五十七條 重罪、輕罪ニ付キ左ノ場合ハ現行犯ニ准ス

第一 犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セララルトキ

第二 兇器、贓物其他ノ物件ヲ携帯シ又ハ身體、被服ニ顯著ナル犯罪  
痕跡アリテ犯人ト思料ス可キトキ



第三 家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ其犯人ト思料ス可キ者ヲ逮捕スル爲メ戸主ヨリ官吏ニ其處分ヲ求メタルトキ

(註)現行犯ノ範圍ハ此ノ如シ然レトモ其ノ範圍狹隘ナルヲ以テ現行犯ニ付キ特別ノ規定ヲ設ケタル效益少ナキヲ以テ法律ハ更ニ准現行犯ナルモノヲ設ケタリ本條ハ即チ此ノ規定ナリ重罪輕罪ニ付キ左ノ場合ハ現行犯ニ准ストセリ

第一 犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラレ、トキ

第二 兇器贓物其他ノ物件ヲ携帶シ又ハ身体被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料ス可キトキ

第三 家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ其犯人ト思料スヘキ者ヲ逮捕スル爲メ戸主ヨリ官吏ニ其處分ヲ求メタルトキ

右三種ハ總テ現行犯中ノ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル犯罪ニ準スルモノナリ而シテ第二號ニ付テハ「犯人ト思料スヘキトキ」ノ語ニ注意センコトヲ要ス即チ犯罪アリシコト既ニ明ニシテ且其者カ犯人ナリト思料スヘキ痕跡アル場合ニ限ルヘク即チ何人モ見得ヘキ場所ニ痕跡アルモノナラサルヘカラス又第三ノ場合ニ付テハ戸主ノ請求ノ一事最モ必要ニシテ法文上自ラ明ナル如ク家宅内ニ於テ犯シタル罪アルコト(一)之ヲ檢證スル爲メ又ハ其犯人ト思料スヘキ者ヲ逮捕スル爲メナルコト(二)及ヒ此戸主ノ請求アルコト(三)右三要件ヲ具

備セサルヘカラス而シテ此三要件ヲ具備スレハ犯罪後幾多ノ時間ヲ經過シタルト雖モ准現行犯トシテ處分スルヲ得ヘシ

### 第五十八條

司法警察官及ヒ巡查、憲兵卒其職務ヲ行フニ當リ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アルコトヲ知りタルトキハ令狀ヲ待タスシテ被告人ヲ逮捕ス可シ

罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯アルコトヲ知りタルトキハ被告人ノ氏名、住所ヲ問ヒ輕罪ニ付テハ檢事、違警罪ニ付テハ即決ヲ爲ス可キ官署ニ告發ス可シ其氏名、住所分明ナラス又ハ逃亡ノ恐アル者ハ檢事若クハ官署ニ引致スルコトヲ得

(註)現行犯ナルトキハ何人モ之ヲ逮捕シ得ルト雖モ之ヲ逮捕スルニハ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ナルコトヲ必要トス而シテ司法警察官、巡查又ハ憲兵卒ハ其被告人逃亡ノ恐アルトキハ罰金以下ノ刑ニ當ルトキト雖モ之ヲ逮捕スルコトヲ得ルナリ

(意義)檢事及ヒ司法警察官カ豫審判事ヨリ先ニ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知りタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ如何ナル處分ヲ爲スコトヲ得ルヤ檢事ハ此場合ニ於テハ唯タ其旨ヲ豫審判事ニ通知スルニ止マリ之ヲ待ツコトナクシテ自カラ直チニ犯所ニ臨

檢シ豫審判事ノ爲スヘキ處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ之ヲ要スルニ檢事及ヒ司法警察官ハ急速ヲ要スル場合ニ於テ一時臨檢、搜索、物件差押及ヒ證人訊問等ノ強制的處分ヲ爲スコトヲ許サレタルニ止マリ豫審判事ノ如ク久シク被告人ヲ監禁シ以テ總テノ證據ヲ蒐集スルノ權限ヲ有スルニ非ス

**第五十九條** 巡查、憲兵卒被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ

其被告人ヲ受取リタル司法警察官ハ逮捕及ヒ告發ニ付テノ調書ヲ作ル可シ

**第六十條** 何人ニ限ラス重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テハ直チニ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得

**第六十一條** 前條ノ場合ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ若シ致引スルコトヲ得サルトキハ自己ノ氏名、職業、住所及ヒ其逮捕ノ事由ヲ陳述シ假ニ之ヲ巡查、憲兵卒ニ引渡スコトヲ得

被告人ヲ巡查、憲兵卒ニ引渡シタルトキハ速ニ告訴又ハ告發ヲ爲ス

可シ

被告人又ハ巡查、憲兵卒ハ逮捕ヲ爲シタル者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルヲ得但逮捕ヲ爲シタル者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其求ヲ拒ムコトヲ得ス

## 第二章 起 訴

(註)起訴ノ手續ハ本章即チ第六十二條以下ノ規定セル所ニシテ起訴ノ手續ヲ説クニハ便宜上犯罪ノ種類ヲ區別センコトヲ要シ即チ之ヲ重罪輕罪及ヒ違警罪ノ三種ニ區別シテ説明スヘシ

**第六十二條** 地方裁判所檢事犯罪ノ捜査ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可シ

第一 重罪ト思料シタル事件ニ付テハ豫審判事ニ豫審ヲ求ム可シ  
第二 輕罪ト思料シタル事件ニ付テハ其輕重難易ニ從ヒ豫審ヲ求メ又ハ直チニ其裁判所ニ訴ヲ爲ス可シ

第三 區裁判所ノ管轄ニ屬スル罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書

類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ區裁判所檢事ニ送致ス可シ(刑法施行法ニ依リ改正)

(註)地方裁判所檢事カ犯罪ノ捜査ヲ爲シテ起訴スヘキモノト認ムルトキハ重罪、輕罪、違警罪ノ三種ノ區別ニ從ヒ各其手續ヲ爲スヘク即チ重罪ト思料シタルトキハ豫審判事ニ豫審ヲ求メ輕罪ト思料シタルトキハ其事件ノ輕重難易ニ從ヒ區別シテ重難ナルモノハ豫審ヲ求メ輕易ナルモノハ直チニ公判ニ移スヘシ而シテ事件輕微ニシテ區裁判所ノ職權ニ屬スルモノト思料シタルトキハ之ヲ區裁判所檢事ニ送致スヘシ違警罪ト思料シタルトキ亦然リ若シ夫レ此等ノ思料ニ至リテハ至ク之ヲ檢事ノ自由ナル意見ニ任セテ他ノ者カ容喙スヘキモノニ非ス

**第六十三條** (本條ハ刑法施行法ニ依リ削除セラル)

**第六十四條** 檢事ハ被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料シタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致ス可シ

被告事件罪ト爲ラス又ハ公訴受理ス可カラサルモノト思料シタルトキハ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラス

(註)區裁判所檢事ノ起訴ノ手續モ亦大同小異ニシテ自ラ捜査ヲ爲シ其事件カ區裁判所ニ屬

スルモノト思料シタルトキハ直チニ其裁判所ノ公判ニ付スルコトヲ求ムヘシ而シテ被告事件罪トナラスト認ムルトキハ起訴ノ手續ヲ爲スヘカラス又受理スヘカラサルモノト認ムルトキハ之ヲ却下スヘシ

**第六十五條** 前數條ノ場合ニ於テ被告事件告訴ニ係ルトキハ檢事ヨリ其處分ヲ被害者ニ通知ス可シ

**第六十六條** 檢事豫審ヲ求ムルトキハ證據及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ送致シ且臨檢ス可キ場所、逮捕ス可キ人名及ヒ證人ト爲ル可キ者ヲ指示ス可シ

### 第三章 豫 審

(註)豫審ハ公判ノ下調即チ準備手續ニシテ如何ナル故ニ其ノ下調ノ必要アリヤ公判ニ於テ直チニ之ヲ裁判スレハ證據蒐集等運轉不自由ニシテ徒ラニ時日ヲ費シ却テ事實ノ真相ヲ得サルノ弊アリ何トナレハ公判ハ合議制ナルカ爲メ一人ニテ爲スカ如ク敏活ノ作用ヲ得サレハナリ而シテ豫審ハ公判ニ於ケル争點ト其之レヲ決スル材料ヲ集取スルヲ目的トス若シ豫審不充分ニシテ公判ニ於テ新ニ争點ヲ生スル場合ニ於テハ之ニ關スル證據ハ更ニ之ヲ集取セサルヘカラス此等ノ不都合ヲ避ケンカ爲メ豫審ニ於テハ苟モ證據ト爲ルヘキモノハ十分周到ナル注意ヲ以テ之ヲ集取シ總テノ争點ニ付キ悉ク之ヲ準備セサルヘカラス

(理由)豫審處分ハ之ヲ公行セサルモノナリ其理由ハ豫審ヲ公行スレハ證據集取等ニ妨ケアルヲ以テ隨テ被告人ニ利益ニシテ公益ニ害アルヲ以テナリ豫審公行ノ可否ハ立法上ニ於テ學者間ノ一大論問タリ佛國ニ於テハ近年新ニ一法ヲ制シ被告人ハ豫審ニ於テモ辯護人ヲ選定シ得ルコト、シ且其辯護人ニモ總テノ豫審ノ記録ヲ閱覽セシムルコト、爲セリ我カ國ニ於テモ亦豫審公行ヲ可トスルノ議論起リテ改正案ニモ顯ハレタレトモ未タ之ヲ見ルニ至ラス

**第六十七條** 現行ノ重罪、輕罪ヲ除ク外豫審判事ハ檢事ノ請求アルニ非サレハ豫審ニ取掛ルコトヲ得ス此規定ニ背キタルトキハ其請求ヨリ以前ニ係ル手續ノ效ナカル可シ

(註)豫審ハ檢事ノ請求アルニ非サレハ之ヲ爲サス是レ亦不告不理ノ原則ノ一適用ニ過キサ  
ルナリ本條ハ其請求ナクシテ爲シタル豫審ノ手續ハ無效タルモノトス然レトモ是レ單ニ普通ノ場合ニ於ケル原則ニシテ之ニ對スル例外ナキニ非ス實際ニ於テハ其例外ニ屬スル場合左ノ如シ

第一 現行犯ノ重罪輕罪ニ關スル特別ノ規定 前ニモ述タル如ク豫審判事ハ檢事ヨリ先ニ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ別ニ請求ヲ受ケサルモ自ラ進ンテ其事件ノ豫審處分ヲ爲スヲ得ルナリ

第二 第九十五條ノ規定 即チ公判ニ於テ證人又ハ鑑定人カ故意ニ不實ノ供述ヲ爲セルトキハ偽證罪トナルヲ以テ裁判所ハ縱令檢事ノ請求ナキモ職權ヲ以テ豫審判事ニ其事件ヲ送付スヘキモノトス故ニ此場合ニハ豫審判事ハ檢事ノ請求ナキモ尙ホ豫審處分ヲ爲スコトヲ得ルナリ何トナレハ豫審判事カ其送致ヲ受ケタル場合ニ於テ別ニ起訴ヲ要スルノ規定ナケレハナリ

第三 第二百四十一條第一項ノ規定 地方裁判所カ或事件ヲ輕罪ナリトシテ受理セルニ取調ノ結果重罪ナリト認メタルトキ又ハ檢事ヨリ先ニ輕罪トシテ起訴セルニ更ニ其事件ヲ重罪トシテ訴追スルコトヲ申立テタルトキハ裁判所ハ之ヲ豫審判事ニ送致スルノ決定ヲ爲サルヘカラス是亦裁判所ノ決定ヲ以テ豫審判事ニ付スルモノニシテ一ノ例外ナリトス

**第六十八條** 檢事ハ豫審中何時ニテモ豫審判事ニ請求シテ訴訟記録ヲ檢閱スルコトヲ得但二十四時内ニ之ヲ還付ス可シ  
又必用ナリトスル處分ニ付キ臨時其請求ヲ爲スコトヲ得

### 第一節 令 狀

(註)被告人ニ對シテハ強制處分ヲ爲サルヘカラス強制處分トハ被告人ヲ逮捕シ監禁スルヲ云フ逮捕監禁ノ必要ハ唯タ刑ノ執行ヲ確保スルニ在リ被告人逃亡ノ虞アルトキハ之ヲ逮捕

捕監禁セサレハ刑ノ執行ヲ爲スヲ得スシテ裁判ハ無効トナルヲ以テ此場合ノミハ固ヨリ此必要アルモ其他ニハ此必要ナク此場合ハ勿論其他被告人カ證據ヲ湮滅スル虞アル場合ニモ亦之ヲ必要トシ之ヲ行フコトヲ許セリ其他被告人ヲ自由ニセハ甚タ危険ナルコトアリ例ヘハ訴ヘラレタル罪カ未遂犯ナルトキハ尙ホ其罪ヲ遂ケントスルノ恐アリ又訴ヘラレタル罪カ脅迫罪ナルトキハ其脅迫ヲ實行スルノ恐アリ此等ヲ防遏スルハ必要ニシテ之ヲ防遏スルニハ逮捕監禁ノ外アラス

本節ハ逮捕監禁ニ付テ發スル令狀ノ規定ナリ此令狀ニ三種アリ曰ク召喚狀曰ク勾引狀曰ク拘留狀即チ是ナリ今之ヲ左ニ説明スヘシ

(意義)第一 召喚狀 召喚狀ハ直接ニ之ニ依リテ逮捕若クハ監禁スルモノニ非サルモ逮捕監禁ニ至ルソ手續ナリ召喚狀トハ豫審判事カ被告人ヲシテ其指定スル日時ニ豫審判事ノ面前ニ出頭セシムル命令狀ニシテ豫審判事カ訴ヲ受シトキノ第一着ニ發スヘキモノナリ原則トシテハ必ス一タヒ之ヲ發シ尙ホ足ラサレハ更ニ他ノ令狀ヲ發スヘキモノトス但此召喚狀ニ付テハ制裁ナク被告人ハ固ヨリ之ヲ受クレハ其命令ニ服從スル義務アリト雖モ其義務ヲ遵守セサルモ爲メニ制裁ヲ受クルコトナシ唯タ之ヲ遵守シテ出頭セサレハ他ノ令狀即チ拘引狀ヲ發セラル、ニ過キス

第二 勾引狀ハ被告人ノ諾否ニ拘ハラス強テ之ヲ豫審判事ノ面前ニ引致スル命令ナリ然レトモ此令狀ヲ發スルモ必スシモ捕縛シテ引致スルヲ要セス被告人カ自ラ進テ出頭スル

トキハ執行者ハ單ニ之ヲ護レハ可ナリ唯タ被告人カ之ヲ拒ミタルトキ若クハ途上逃走ノ恐アルトキハ公力ニ依リテ強テ引致スヘク即チ巡查憲兵卒ノ力ヲ籍リテ引致スルヲ得ヘシ

此勾引狀ハ召喚狀ヲ發スルモ出頭セサルニ及ヒ初メテ之ヲ發スルヲ原則トス然レトモ此ハ其制裁ニアラス特別ノ原因ト結果トヲ有シ召喚狀ニ附隨シタルモノニアラス其證ニハ召喚狀ヲ發セス直チニ此拘引狀ヲ發シ得ル場合アリ第七十二條ハ此場合ヲ定ム

第三 勾留狀 勾留狀ハ被告人ヲ監獄ニ留置スルノ命令ニシテ一定ノ期限ナク其事件ノ落着マテハ留置スルヲ得ヘシ而シテ此ノ令狀ハ此ノ如ク其結果重大ナルヲ以テ妄リニ之ヲ發スルヲ得ス第七十五條ハ之ニ付キニ條件ヲ設ケタリ第一被告人ヲ訊問シタル後ナルコト第二禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノト思料シタルコトヲ要ス以上三種ノ令狀執行ノ方法ハ其各種ニ付キ之ヲ異ニシ召喚狀ハ執達吏ヲシテ執行セシム即チ裁判所書記ヨリ直チニ執達吏ニ渡シ執達吏之ヲ被告人ニ送達ス

**第六十九條 豫審判事ハ檢事ノ起訴ニ因リ重罪、輕罪ノ事件ヲ受理シタルトキハ被告人ニ對シ先ツ召喚狀ヲ發ス可シ但召喚狀ノ送達ト被告人出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アル可シ**

召喚狀ニ因リ出頭シタル被告人ハ即時ニ之ヲ訊問ス可シ又遅クトモ

出頭ノ日ヲ過クルコトヲ得ス

(註)被告人カ召喚狀ノ命令ニ從ヒ指定ノ日時ニ指定ノ場所ニ出頭セハ豫審判事ハ即時ニ之ヲ訊問スルヲ原則トシ若シ即時ニ訊問スル能ハサルモ遅クモ其日ヲ過クルコトヲ得ス其日ノ中ニ訊問ナクンハ被告人ハ隨意ニ退歸スルヲ得ヘク強テ一夜ヲ抑留スルヲ得ス

**第七十條** 豫審判事ハ召喚狀ヲ受ク可キ被告人其管轄地内ニ住セサルトキハ訊問ス可キ條件ヲ明示シテ被告人所在ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

**第七十一條** 豫審判事又ハ受託判事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出頭セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

**第七十二條** 豫審判事又ハ受託判事ハ左ノ場合ニ於テ直チニ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

- 第一 被告人定リタル住所アラサルトキ
- 第二 被告人罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡スル恐アルトキ
- 第三 被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケントスル恐ルナリ

アルトキ

(註)第七十二條ハ召喚狀ヲ發セス直チニ此拘引狀ヲ發シ得ル場合ヲ明示シタルナリ即チ此場合ヲ定メテ曰ク第一被告人定マリタル住所アラサルトキ第二被告人罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡スルノ恐アルトキ第三被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケントスル恐アルトキ是ナリ蓋シ共ニ逮捕監禁ノ必要アル場合ニシテ此一アレハ以テ直チニ勾引狀ヲ發シ得ルナリ

**第七十三條** 勾引狀ノ命ヲ受ケタル者ハ其令狀ヲ發シタル判事ニ被告人ヲ引致ス可シ

勾引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問ス可シ若シ其時間ヲ經過スルトキハ勾留狀ヲ發スルニ非サレハ當然之ヲ釋放ス可シ

(註)勾引狀執行ノ命ヲ受ケタル者ハ巡查憲兵卒ナリ此等ノ執行者カ勾引狀ヲ以テ被告人ヲ引致シ來リタルトキハ勾引狀ノ場合ハ本條第二項ニ依リ豫審判事四十八時間内ニ其報告人ヲ訊問スヘシ此時間ノ起算點ハ不明ナルモ其令狀ヲ發セシ時ヨリ起算スルニ非サルハ明カナリ何トナレハ令狀ヲ發シテヨリ執行ニ至ルマテハ管ニ四十八時間ノミナラス數日數十日ヲ隔ツルコト少ナカラサレハナリ故ニ疑ノ存スルハ被告人ニ拘引狀ヲ交付セシ時ナルカ將タ

被告人カ裁判所ニ到リシ時ナルカノ點ニ在リ遠隔ノ地ニ於テ執行セシ時ノ如キ裁判所ニ到ル途上ニ四十八時間ヲ費スコト亦勘カラサルヲ以テ此起算點ハ必ス豫審判事ノ面前ニ引致セシトキト爲サ、ルヲ得ス

若シ四十八時間ヲ過キ尙ホ訊問セサレハ勾引狀ノ效力茲ニ消滅シ別段之ヲ取消スヲ俟タス當然放還スヘシ

**第七十四條** 豫審判事又ハ受託判事ハ召喚狀又ハ勾引狀ヲ受ケタル被告

人疾病其他正當ノ事由アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ疎明シタルトキハ被告人ノ所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得

**第七十五條** 勾留狀ハ被告人ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ

モノト思料スルニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス但被告人逃亡シタル場合ニ於テハ其訊問ヲ爲サスシテ之ヲ發スルコトヲ得

(註)勾留狀ハ妄ニ之ヲ發スルコトヲ得ス本條ハ之ニ付キ二條件ヲ設ケタリ第一被告人ヲ訊問シタルノ後ナルコト即チ被告人カ召喚狀又ハ拘引狀ニ因リ出頭シ之ヲ訊問シタル後ニ非サレハ此勾留狀ヲ發スルヲ得ス第二禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノト思料シタルコトヲ要シ罰金科料勾留等ノ刑ニ該ルヘキ被告人ハ其罪輕微ニシテ證據湮滅ヲ防ク程ノ事ナク又刑ノ

執行モ身体ノ自由ニ及ハサルヲ以テ監禁ノ必要ナク又監禁セサル爲メ危險ヲ感スルコトナキニ由リ乃禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ場合ニ限り之ヲ發スルヲ得セシムルナリ

勾留狀ハ此ノ如ク訊問ノ後ニ於テスルヲ原則トシタルモ場合ニ依リテハ之ニ反シ未タ召喚狀及ヒ勾引狀ヲ發セスシテ直チニ此勾留狀ヲ發シ得ルコトアリ本條但書ノ場合はナリ被告人逃亡セハ其刑ノ罰金以下ニ該ルモノナルモ尙ホ拘留シ得ト説ク者アレト是レ本條ノ精神ニ非ス本條ハ前ニ述タル二條件ヲ要求シ其例外トシテ此但書アルモノナレハ固ヨリ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノト思料シタル者ニシテ逃亡シタル場合ニ限り之ヲ發シ得ルノ意ナルコト明カナリ

**第七十六條** 總テ令狀ニハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名、職業、住所ヲ記

載ス可シ但召喚狀ヲ除ク外其氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格等ヲ明示ス可シ

又令狀ニハ之ヲ發スル年月日時ヲ記載シ判事及ヒ裁判所書記署名捺印ス可シ

召喚狀ハ執達吏ヲシテ被告人ニ送達セシメ勾引狀、勾留狀ハ巡查、憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシム

(註)本條ハ令狀執行ノ方法ナリ令狀執行ハ各種ニ付キ之ヲ異ニシ召喚狀ハ執達吏ヲシテ執行セシム即チ裁判所書記ヨリ直チニ執達吏ニ渡シ執達吏之ヲ被告人ニ送達ス勾引狀勾留狀ハ巡查、憲兵卒ヲシテ執行セシムルモ其執行セシムルハ裁判所ヨリ直チニ命スルカ將タ檢事ヨリ之ヲ命スルカハ別ニ明文ナシト雖モ本條ノ規定ニ依レハ裁判所直チニ之ヲ命スル者ノ如クナルモ元來裁判ノ執行ハ檢事之ヲ掌ルコトハ舊第八十三條第二項ニ巡查、憲兵卒ハ令狀執行ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出スヘシトアルニ依ルモ檢事ニシテ令狀執行ニ關係セザレハ其書類ヲ差出スノ理ナク之ヲ差出スハ檢事カ當初其執行ヲ命スルモノタルヲ知ルヘシ殊ニ巡查、憲兵卒共ニ檢事ノ部下ニ屬シ裁判所トハ直接ノ關係ナキヲ以テスルモ檢事ノ之ヲ命スルモノタルヤ明カナリ而シテ實際ニ於テハ司法大臣ノ訓令ニ依リ既ニ檢事ノ之ヲ命スルコト、爲リ居レリ

**第七十七條** 勾引狀、勾留狀ハ時宜ニ因リ正本數通ヲ作り巡查、憲兵卒、數人ニ分付スルコトアル可シ

勾引狀、勾留狀ヲ執行スルニハ其正本ヲ携帶シ被告人ノ請求アルトキハ之ヲ示ス可シ(三十二年法律第七十三號ヲ以テ改正)

勾引狀、勾留狀ヲ執行シタルトキハ其正本ニ執行ノ場所及ヒ日時ヲ記載シ若シ執行スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ記載シテ署名捺印

ス可シ(同上追加)

巡查、憲兵卒ハ令狀ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出ス可シ

**第七十八條** 令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查、憲兵卒ハ被告人其家宅若クハ他人ノ家宅ニ潜匿シタルト思料シタルトキハ其地ノ市町村長又ハ其差支アルトキハ隣佑二名以上ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ被告人ヲ發見シタルト否トニ拘ハラス搜索調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印ス可シ

家宅搜索ハ日出前日没後之ヲ爲スコトヲ得ス但旅店、割烹店其他夜間ト雖モ衆人ノ出入スル場所ニ付テハ其公開時間内ニ限り何時ニテモ搜索ヲ爲スコトヲ得

**第七十九條** 豫審判事ハ被告人他ノ管轄地内ニ潜匿シタルコトヲ知り又ハ潜匿シタルト思料シタル場合ニ於テ被告事件急速ヲ要スルトキハ巡查、憲兵ニ令狀ヲ帶行セシムルコトヲ得

巡查、憲兵卒ハ被告人所在ノ地ノ豫審判事、檢事又ハ司法警察官ニ令



狀ヲ示シテ即時ニ執行ヲ求ム可シ

(註)令狀ノ效力ヲ有スル區域ハ法律上別ニ制限ナシ故ニ令狀ヲ發セシ裁判所ノ管轄以外ニ於テモ尙ホ效力アリ日本全國到處ニ之ヲ執行シ得ヘシ殊ニ時トシテハ豫審判事カ令狀ノ正本數通ヲ作り數人ノ巡查憲兵卒ヲシテ各地方ニ於テ之ヲ執行セシムルコトアリ然レトモ本條ニ依レハ被告人カ他ノ管轄地内ニ潜匿シタルトキハ巡查、憲兵卒ニ令狀ヲ帶行セシトルコトヲ得ルモ巡查憲兵卒ハ其他ノ豫審判事、檢事又ハ司法警察官ニ令狀ヲ示シテ即時ニ執行ヲ求ムヘク自ラ之ヲ執行スルヲ得ス

**第八十條**

豫審判事ハ被告人所在ノ地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ各檢事長ニ被告人ノ人相書ヲ送致シ捜査及ヒ逮捕ヲ爲ス可キコトヲ請求スルヲ得

請求ヲ受ケタル檢事長ハ其管轄地内ノ檢事ヲシテ搜索及ヒ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ此場合ニ於テ檢事ノ發シタル逮捕狀ハ勾留狀ト同一ノ效力ヲ有ス

**第八十一條**

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人、軍屬ニ對シ令狀ヲ發シタルトキハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ令狀ヲ示ス可シ其長

官又ハ隊長ハ已ムコトヲ得サル差支アルニ非サレハ本人ヲシテ速ニ令狀ニ應セシム可シ

(註)軍人軍屬ニ對シテ令狀ヲ執行スルニハ手續ヲ異ニスル所アリ即チ本條ニ依レハ豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人軍屬ニ對シテハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ令狀ヲ示スヘク其長官又ハ隊長ハ已ムコトヲ得サル差支アルニ非サレハ本人ヲシテ速ニ令狀ニ應スヘキモノトス

**第八十二條**

勾留狀ヲ受ケタル被告人ハ速ニ其令狀ニ記載シタル監獄署ニ引致ス若シ其監獄署ニ引致スルコト能ハサルトキハ假ニ最近ノ監獄署ニ引致スルコトヲ得  
何レノ場合ニ於テモ監獄署長ハ令狀ヲ檢閲シテ被告人ヲ受取り其證書ヲ渡ス可シ

(註)勾留狀ヲ執行セハ別ニ訊問等ノ條件ナク直チニ監獄署ニ引致スヘシ是レ本條ノ規定ナリ此規定ニハ一ノ缺點アリト云フ即チ令狀ニ監獄署ノ何レタルヲ記載スヘシト爲セルコト是レナリ既ニ某監獄署ヲ指定シ記載シタルトキハ管轄違ノ言渡ノ時ノ如キ前ノ勾留狀ニテモ可ナルニ其管轄違ニテ他ノ監獄署ニ留置スヘキ爲メ前ノ勾留狀ニテハ不都合ナルニ至ル其他控訴ノトキノ如キ初メ勾留狀ニ甲監獄署ト記載セシニ控訴ノ爲メ同一令狀ニテ乙監獄

ニ留置スルニ至ル故ニ令狀ニ監獄署ヲ記載スルノ一事ハ之ヲ削除セサルヘカラス。

**第八十三條** (三十二年法律第七十三號ヲ以テ削除)

**第八十四條** 在監中ノ被告人ニ對シ發シタル勾留狀ハ司獄官吏ヲシテ之ヲ執行セシム(三十二年法律第七十三號ヲ以テ本條改正)

勾留狀執行ニ關シテハ第七十七條ノ規定ヲ適用ス

**第八十五條** 勾留ヲ受ケタル被告人ハ官吏ノ立會ニ依リ他人ト接見スルコトヲ得(同上)

書類ハ豫審判事又ハ檢事ノ檢閲ヲ經タル後他人ト之ヲ授受スルコトヲ得

豫審判事ハ必要ナリト思料シタルトキハ被告人ノ監房ヲ別異シ、他人トノ接見、書類物件授受ヲ禁シ又ハ其書類物件ヲ差押フルコトヲ得

**第八十六條** 豫審判事ハ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ非スト思料シタルトキハ豫審中何時ニテモ勾留狀ヲ取消ス可シ

(註)第八十六條ニ依レハ豫審判事カ被告事件ヲ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノト思料シ勾留狀ヲ發シテ被告人ヲ監獄署ニ留置セシニ豫審中其罰金以下ノ刑ニ該ルヘキモノナルコトヲ覺知シタルトキハ何時ニテモ其勾留狀ヲ取消スヘキモノナリ然ルニ其他尙ホ之ヲ取消スヘキ場合アリヤ例ヘハ豫審中被告人ヲ無罪ナリト信セハ豫審終結ニ先チ勾留狀ヲ取消シ得ヘキヤ或ハ曰フ豫審判事ハ既ニ勾留狀ヲ發スル權アルヲ以テ亦之ヲ取消スノ權ナカルヘカラス殊ニ罰金以下ノ刑ニ該ル者ニスラ既ニ之ヲ取消スノ權アル以上ハ無罪ト信スル場合ニハ固ヨリ之ヲ取消シ得サル可カラスト然レトモ明文アル場合ノ外其取消ヲ爲スヲ得サルヲ信ス是レ令狀ヲ發スル權アレハ亦之ヲ取消ス權アリト云フモ裁判所ハ裁判ヲ爲スノ權アルニ拘ハラス其裁判ヲ取消スノ權ナク令狀ヲ發スルモ亦裁判ノ一ニ外ナラスシテ之ヲ取消スハ特例ニ屬シ明文アル場合ニ限ラサルヲ得殊ニ罰金以下ノ刑タル場合スラ取消シ得ル以上ハ無罪ト信スル場合ハ一層取消シ得ト云フモ亦誤レリ豫審判事ハ無罪ト信スルモ檢事ハ却テ重罪ト信スルモ知ルヘカラス然ルニ漫ニ之ヲ取消セハ他日重罪タルモ被告人ハ既ニ逃亡スルコトアルヘク且豫審終結ノ言渡ニ於テ重罪公判ニ付シタルトキ及ヒ公判ニ於テ輕罪訴追カ重罪訴追ニ變セシトキハ共ニ新ニ勾留狀ヲ發スヘシトノ規定アリテ豫審判事又ハ公判々事カ無罪ト信スルモ檢事ニシテ重罪訴追ヲ爲サハ必ス勾留狀ヲ發セサルヲ得ス之ニ依テ之ヲ觀レハ豫審判事カ無罪ト信スルモ其既ニ發セシ勾留狀ヲ取消シ得サルモノナリ

**第二節** 密室監禁(三十二年法律第七十三號ヲ以テ削除)

第八十七條 (同上削除)

第八十八條 (同上削除)

第八十九條 (同上削除)

第三節 證據

第九十條 被告人ノ自白、官吏ノ檢證調書、證據物件、證人及ヒ鑑定人ノ供述其他諸般ノ徵憑ハ判事ノ判斷ニ任ス

(註)證據ニ關スル規定ハ本條ニ於ケル證據ノ判斷ニ關スル一ノ規定アルノミ而シテ本條ハ豫審ニ關スル規定ノ一タルニ過キサルモ公判ニ於テモ尙ホ本條ニ依ラサルヲ得ス

(意義)證據ノ文字ハ法律上及實際上ニ於テ常ニ二様ノ意義ニ使用サル其一ハ證明ノ方法ト云ヘル意義ニシテ例ヘハ一ノ殺人事件ヲ證明スルニ證人、血痕アルカ刀劍及ヒ現場ノ狀況ヲ以テ其證人、刀劍及ヒ現場ノ狀況カ證據タリト云フハ證明ノ方法タリト云フニ外ナラス其二ハ證明ノ効力ト云ヘル意義ニシテ右證明ノ方法カ有スル證明力ヲ證據ト云フナリ例ヘハ或事件ニ關スル數多證人ノ證言中或者ノ證言ハ證據タルモ他ノ或者ノ證言ハ證據タラスト云フハ證明力即チ證據ノ効力ノ有無大小ヲ指スモノニ外ナラス又本條ニ於ケル「諸般ノ徵憑ハ判事ノ判斷ニ任ス」トノ徵憑ハ證據ノ別名タルニ過スシテ證明ノ方法

ヲ指スモノナリ然レトモ法律上殊ニ本法ノ法規ヨリスレハ證據トハ主トシテ判事ノ心證ヲ起サシムル資料即チ方法ナリト謂フヘシ即チ判事カ訴ヲ受ケテ被告ノ有罪若クハ無罪タル確信ヲ爲スニ付テノ資料ヲ以テ刑事訴訟法上證據トナスナリ

證據ニハ自由證據ト制限證據トアリ本條ハ自由證據ニシテ證明ノ方法効力等一ニ判事ヲシテ自由ニ之ヲ斷定セシムルモノナリ

第九十一條 豫審判事ハ檢事若クハ被告人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル證據徵憑ヲ集取ス可シ

(註)本條ハ意義明了ナレトモ唯タ一言スヘキハ證據徵憑ト並記シタルコト是ナリ徵憑ト證據トハ二物アルモノ、如クナレトモ刑事訴訟法ニ於テハ其實區別ナク常ニ二者ヲ混用セリ然レトモ制限證據ヲ用ヒシ當時ニハ之ヲ區別シ證據トハ直接ノ證明方法ヲ云ヒ徵憑トハ間接ノ證明方法ヲ云ヒシモノニシテ證人ノ證言ニモ其證人カ現ニ人ヲ殺スヲ目撃セリト云フ證言ハ直接ノ證明方法即チ證據ニ屬シ其證人カ殺人事件アリシト同時ニ且ツ其事件アリシ近傍ニ於テ衣服ニ血痕アリ白刃ヲ提ケテ走ル者アルヲ目撃セリト云フ證言ハ之ニ依リ殺人者ナラント推測セシムル間接ノ證明方法即チ徵憑ニ屬シ此徵憑著大ニシテ信用スヘキモノハ即チ完全證據タル効力ヲ有スルナリ

(理由)本法ハ制限證據ハ全ク之ヲ廢シ諸般ノ證據徵憑其價值ヲ定ムルハ一ニ裁判官ニ在リ

裁判官ハ之ニ依テ心證ヲ得其心證ニ依テ裁判ヲ爲スモノトス然レトモ是レ證據ノ效力ニ關スル制限ナキニ止マリ他ノ點ヨリ證據ニ關スル制限ナキニ非ス即チ左ノ二點是ナリ

(一)證據ハ法廷内ニ顯ハレ辯論ヲ經シモノナラサルヘカラス否サレハ之ヲ心證ノ材料ト爲スヲ得ス例ヘハ余カ途上偶々被告人ノ犯罪ヲ目撃セシコトアルモ余ハ判事トシテ之ニ依リテ被告人ヲ有罪ト爲スヲ得ス

(二)法律カ證據ニ付キ要求セル法式アルトキハ其法式ニ適シタルモノナラサルヘカラス例ヘハ證人ヲ訊問スルニハ證人カ被告人又ハ民事原告人ト親屬其他ノ關係ナキヤ否ヤヲ訊問シ宣誓ヲ爲サシメテ然ル後ノ證言ニ非サレハ證據トシテ心證ノ材料ト爲スヲ得ス又書類ノ證據ニ於テモ官吏ノ作りシ書類ハ第二十一條第一項ニ適シ官吏ニ非サル者ノ作りシ書類ハ同第二項ニ適シタルモノニ非サレハ證據ト爲スヲ得ス右二種ノ制限ハ固ヨリ之ヲ遵守スヘク而シテ其制限ノ範圍内ニ於テハ證據ノ取捨及ヒ證據力ノ有無強弱等全ク判事自由ノ判斷ニ任ス

**第九十二條** 豫審判事臨檢、搜索、物件差押又ハ被告人證人ノ訊問ヲ爲スニハ裁判所書記立會ヲ必要トス書記ハ調書ヲ作り豫審判事ト共ニ署名捺印ス可シ

裁判所外ニ於テ急遽ノ際書記ノ立會ヲ得ルコト能ハサルトキハ立會

人二名アルヲ要ス但監獄署ニ就テ被告人ヲ訊問スルトキハ其監獄署ノ官吏一名ヲシテ立會ハシム可シ

前項ノ場合ニ於テハ豫審判事自ラ調書ヲ作り之ヲ讀聞カセ立會人ト共ニ署名捺印ス可シ

書記又ハ立會人ナクシテ爲シタル處分ハ其效ナカル可シ

#### 第四節 被告人ノ訊問及ヒ對質

**第九十三條** 豫審判事ハ先ツ被告人ヲ訊問ス可シ但檢證ヲ爲シ又ハ證人ヲ訊問スルニ付キ急遽ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

(註)被告人ノ訊問ハ事實發見ノ爲メ事實ノ陳述ヲ爲サシムルニ止マリ必スシモ自白ヲ爲サシムルモノニ非ス又必スシモ被告人ノ利益ノ爲メニスルモノニ非ス蓋シ此訊問ニ於テ最モ弊ノ生シ易キハ自白ヲ求ムルコトニ在リ古來各國訊問ハ主トシテ自白ヲ求ムルヲ目的トセシカ我刑事訴訟法ハ然ラス次條ニ因テモ明カナリ故ニ豫審ハ勿論公判ニ於テモ事實ヲ明確ニセンカ爲メ詳細周密ニ訊問スルハ固ヨリ可ナルモ脅嚇、詐言ハ勿論妄リニ論究追詰スルカ如キモ亦法意ニ適セス實際ニ於テハ自白ヲ爲サシムルハ簡短ニ決了スルヲ以テ動モスレハ輒チ之ヲ得ルコトヲ貪ルモ是レ捷徑ヲ求メテ却テ迂路ニ陷ルモノニシテ寧ロ他ノ證據ヲ